

2022年度以降入学生

科目名	授業形態	受講年次	学期	単位		科目担当者	ページ
				必修	選択		
学びの理解	講義	1	前	1		○木津 由美子、山部 秀子、飯田 直弘	41
生物学A・B	講義	1	前		1	津久井 隆行 松川 典子	43
化学	講義	1	前		1	森山 隆則	45
論理的思考	講義	1	前	2		崔 昌鳳	47
情報処理	演習	1	前	1		末光 厚夫	49
統計分析法	演習	1	後	1		末光 厚夫	51
情報リテラシー	演習	1	後	1		末光 厚夫	53
英語Ⅰ（基礎）A	演習	1	前	1		松尾 文子	55
英語Ⅰ（基礎）B	演習	1	前	1		大西 三佳子	57
英語Ⅰ（基礎）C	演習	1	前	1		大西 三佳子	59
英語Ⅰ（基礎）D	演習	1	前	1		松尾 文子	61
英語Ⅱ（会話）	演習	1	後	1		David Flenner Peter Reemst	63
表現技法Ⅰ（読解・分析）A・C	演習	1	前	1		高木 維	65
表現技法Ⅰ（読解・分析）B・D	演習	1	前	1		安永 立子	67
表現技法Ⅱ（討議・発表）A・C	演習	1	後	1		高木 維	69
表現技法Ⅱ（討議・発表）B・D	演習	1	後	1		安永 立子	71
心理学	講義	1	前	2		安念 保昌	73
倫理学	講義	1	前	1		村上 友一	75
現代社会論	講義	1	前	2		翁 康健	77
生態学	講義	1	前		1	立澤 史郎	79
スポーツ科学と運動	演習	1	前		1	大浦 浩	81
スポーツ理論	講義	1	後		1	大浦 浩	83
法と人権	講義	1	後		2	神元 隆賢	85
地域社会文化論	講義	1	後		2	澤井 玄	87
形態機能学Ⅰ	講義	1	前	2		○家子 正裕	89
形態機能学Ⅱ	講義	1	後	2		○家子 正裕、○千葉 仁志	91
感染免疫学	講義	1	後	2		○家子 正裕	93
病態学	講義	1	後	2		○家子 正裕	95
栄養代謝学	講義	1	後	2		渡辺 いつみ、金高 有里、岡本 智子	97
生涯発達論	講義	1	前	1		安念 保昌	99
環境保健論	講義	1	後	1		濱岡 直裕、小林 宣道	101
関係法規	講義	1	後	1		○安藤 陽子、○武澤 千尋、○近藤 明代、○川口 桂嗣、○作並 亜紀子	102
特別総合科目	演習	1	通年		1	○近藤 明代、他	104
看護学概論	講義	1	前	2		○大日向 輝美	105
看護技術総論	演習	1	前	1		○本吉 明美、○大日向 輝美、○首藤 英里香、○園田 典子、○横山 桂子	107
援助関係論	演習	1	前	1		○木津 由美子、○吉田 祐子、吉田 ゆかり	109
看護技術論Ⅰ	演習	1	後	2		○首藤 英里香、○本吉 明美、○園田 典子、○横山 桂子	111
看護基礎実習Ⅰ	実習	1	前	1		○首藤 英里香、○本吉 明美、○園田 典子、○横山 桂子	115
地域看護学概論	講義	1	後	1		○安藤 陽子	116
成人看護学概論	講義	1	後	1		○藤井 瑞恵	118
高齢者看護学概論Ⅰ	講義	1	後	1		○服部 ユカリ、○中田 真依	119
地域連携ケア論Ⅰ	講義	1	後	1		○榎本 浩司、○澤田 優美、○氏家 志乃、○小川 克子	121
英語Ⅲ（読解）	演習	2	前		1	松尾 文子	123
英語Ⅳ（総合）	演習	2	後		1	松尾 文子	125
生活環境論	講義	2	前	2		江本 匡	127
教育学	講義	2	後	1		加藤 隆	129
文学と人間	講義	2	後	1		畠山 瑞樹	131
国際社会論	講義	2	後	1		翁 康健	133
社会貢献と活動	演習	2	前	1		岩本 希	135
薬理学	講義	2	前	2		町田 拓自	137
臨床心理学	講義	2	前	1		松岡 紘史	139
疾病治療論Ⅰ	講義	2	前	2		○家子 正裕、○千葉 仁志	141
疾病治療論Ⅱ	講義	2	後	2		深井 原	143

科目名	授業形態	受講年次	学期	単位		科目担当者	
				必修	選択		
社会福祉論	講義	2	後	2		吉田 竜平	145
生命倫理	講義	2	前	1		森口 眞衣	147
看護技術論Ⅱ	演習	2	前	2		○首藤 英里香、○本吉 明美、○園田 典子、○横山 桂子	149
看護技術論Ⅲ	演習	2	後	1		○園田 典子、○首藤 英里香、○本吉 明美、○横山 桂子	152
健康教育論	講義	2	後	1		○川口 桂嗣	155
家族看護学	講義	2	後	1		○安藤 陽子	157
看護倫理	講義	2	後	1		○大日向 輝美、○園田 典子	159
看護理論	講義	2	後	1		○木津 由美子、○本吉 明美	161
看護基礎実習Ⅱ	実習	2	後	2		○首藤 英里香、○本吉 明美、○園田 典子、○横山 桂子、他	163
地域看護実習	実習	2	後	2		○安藤 陽子、○作並 亜紀子 他	164
成人看護活動論Ⅰ	講義	2	前	2		○藤井 瑞恵、○小野 善昭、○加藤 剛寿、○伊藤 円、青田 美穂、春名 純平、村中 沙織	165
成人看護活動論Ⅱ	演習	2	後	1		○小野 善昭、○加藤 剛寿、○伊藤 円、○池野 航平、○今泉 里絵、○藤井 瑞恵	168
高齢者看護学概論Ⅱ	講義	2	前	1		○服部 ユカリ、○中田 真依	171
高齢者看護活動論Ⅰ	演習	2	後	1		○中田 真依、○服部 ユカリ、○中武 延	173
小児看護学概論	講義	2	後	2		○河崎 和子	175
母性看護学概論	講義	2	前	2		○齋藤 早香枝	178
母性看護活動論Ⅰ	演習	2	後	1		○齋藤 早香枝、○澤田 優美、○野崎 由希子、海老名 由紀子	180
精神看護学概論	講義	2	後	2		吉野 淳一、○原田 由香、佐々木 晶子	182
リハビリテーション看護論Ⅰ	講義	2	前	1		○小野 善昭、○河崎 和子、○原田 由香	184
スポーツと看護	講義	2	後	1		○中田 真依、榎本 浩司、今北 雄太、三上 剛人	186
地域連携ケア論Ⅱ	講義	2	前	1		榎本 浩司、氏家 志乃、○澤田 優美、○小川 克子	188
公衆衛生看護学概論	講義	2	後	1		○近藤 明代	190
臨床栄養学	講義	3	前	1		岡本 智子	193
疫学	講義	3	前	2		濱岡 直裕、小林 宣道	195
保健医療福祉行政論	講義	3	前	1		○武澤 千尋、○安藤 陽子、○小川 克子、○川口 桂嗣、○作並 亜紀子	197
保健統計学Ⅰ	講義	3	後	1		志渡 晃一、米田 龍大	199
成人看護活動論Ⅲ	演習	3	前	1		○加藤 剛寿、○伊藤 円、○小野 善昭、○池野 航平、○今泉 里絵、○藤井 瑞恵	201
外来看護実習	実習	3	前	1		○小野 善昭、○藤井 瑞恵、○加藤 剛寿、○伊藤 円、○池野 航平、○今泉 里絵	203
成人看護実習Ⅰ	実習	3	後	2		○小野 善昭、○加藤 剛寿、○伊藤 円、○池野 航平、○今泉 里絵、○藤井 瑞恵	204
成人看護実習Ⅱ	実習	3	後	2		○藤井 瑞恵、○伊藤 円、○加藤 剛寿、○池野 航平、○今泉 里絵、○小野 善昭	205
高齢者看護活動論Ⅱ	演習	3	前	1		○中田 真依、○服部 ユカリ、○中武 延	206
高齢者看護実習	実習	3	後	3		○服部 ユカリ、○中田 真依、○中武 延	208
小児看護活動論Ⅰ	演習	3	前	1		○河崎 和子、○佐々木 めぐみ	209
小児看護活動論Ⅱ	演習	3	後	1		○河崎 和子、○佐々木 めぐみ	211
母性看護活動論Ⅱ	演習	3	前	1		○齋藤 早香枝、○澤田 優美、○野崎 由希子	213
母性看護実習Ⅰ	実習	3	後	1		○齋藤 早香枝、○澤田 優美、○野崎 由希子	215
精神看護活動論Ⅰ	演習	3	前	1		○原田 由香、○高橋 正樹	216
精神看護活動論Ⅱ	講義	3	後	1		○原田 由香、○高橋 正樹	218
在宅看護学概論	講義	3	前	1		○安藤 陽子	219
在宅看護論Ⅰ	講義	3	後	1		○安藤 陽子、他	221
在宅看護論Ⅱ	演習	3	後	1		○作並 亜紀子、○安藤 陽子、○武澤 千尋、○小川 克子、○川口 桂嗣	223
医療安全論	講義	3	前	1		○吉田 祐子、福岡 啓子	225
看護学研究法	講義	3	後	2		○吉田 祐子、○木津 由美子、末光 厚夫	227
看護管理論	講義	3	後	1		○吉田 祐子、他	229
地域連携ケア論Ⅲ	講義	3	前	1		氏家 志乃、榎本 浩司、○澤田 優美、○小川 克子	231
公衆衛生看護支援論Ⅰ ※	講義	3	後	2		○川口 桂嗣、○武澤 千尋	233
公衆衛生看護対象論Ⅰ ※	講義	3	後	2		○武澤 千尋、○近藤 明代、○川口 桂嗣、渡辺 千鶴	235
公衆衛生看護対象論Ⅱ ※	講義	3	後	1		○武澤 千尋、○作並 亜紀子	237
公衆衛生看護展開論 ※	講義	3	後	2		○小川 克子、○武澤 千尋、○川口 桂嗣	239
公衆衛生看護管理論 ※	講義	3	後	2		○近藤 明代、○武澤 千尋	241
健康政策論Ⅰ ※	演習	4	前	1		○小川 克子、○武澤 千尋、○川口 桂嗣、○近藤 明代	243
健康政策論Ⅱ ※	講義	4	後	1		○近藤 明代、○武澤 千尋、○小川 克子、○川口 桂嗣	245

科目名	授業形態	受講年次	学期	単位		科目担当者	
				必修	選択		
保健統計学Ⅱ ※	講義	4	前		1	志渡 晃一、米田 龍大	247
小児看護実習	実習	4	前	2		○河崎 和子、○佐々木 めぐみ	248
母性看護実習Ⅱ	実習	4	前	1		○齋藤 早香枝、○澤田 優美、○野崎 由希子	249
精神看護実習	実習	4	前	2		○原田 由香、○高橋 正樹	250
在宅看護実習	実習	4	前	2		○安藤 陽子、○作並 亜紀子、○武澤 千尋、○小川 克子、○川口 桂嗣	251
災害看護論	講義	4	前		1	○吉田 祐子、未定	252
看護課題研究	演習	4	通年	2		○木津 由美子 ○吉田 祐子、他	254
クリティカル看護論	講義	4	前		△1	○小野 善昭	256
慢性看護論	講義	4	前		△1	○加藤 剛寿、○伊藤 円、渡辺 美和	258
リハビリテーション看護論Ⅱ	講義	4	前		△1	○小野 善昭	260
国際看護論	講義	4	前		1	正岡 経子、石川 祐美、近藤 美智子、小池 真理子、北間 砂織、鈴木 幹子	262
看護教育論	講義	4	前		1	○大日向 輝美	264
看護総合実習	実習	4	前	2		○木津 由美子、○吉田 祐子、他	266
実践総合演習	演習	4	後	1		○木津 由美子、○吉田 祐子、全看護教員	267
栄養サポートチーム論	講義	4	後		1	岡本 智子、氏家 志乃、看護学科教員	269
地域連携ケア論Ⅳ	講義	4	後	1		○澤田 優美、榎本 浩司、氏家 志乃、○小川 克子	270
公衆衛生看護支援論Ⅱ ※	演習	4	前		2	○川口 桂嗣、○武澤 千尋、○安藤 陽子、○作並 亜紀子	272
公衆衛生看護実習Ⅰ ※	実習	4	後		2	○近藤 明代、○武澤 千尋、○小川 克子、○川口 桂嗣	275
公衆衛生看護実習Ⅱ ※	実習	4	後		2	○近藤 明代、○武澤 千尋、○小川 克子、○川口 桂嗣	276
公衆衛生看護実習Ⅲ ※	実習	4	後		1	○近藤 明代、○武澤 千尋、○小川 克子、○川口 桂嗣	277

- (注) 1. 各科目の責任者は科目担当者の先頭記載者
2. ○印は学科所属の専任教員で医師、看護師、保健師を経験している実務経験者
3. △印は選択必修科目
4. ※印は保健師国家試験受験資格希望者のみ履修できる科目

授業科目	学びの理解 Understanding of Study at Tertiary Level		担当教員	木津 由美子、山部 秀子、飯田 直弘			
対象学科・年次・学期	看護学科/栄養学科1年次・前期		選択・必修	必修			
授業形態	講義		単位数	1単位			
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	◎	○	○	○		○	○
授業目的	大学（高等教育）での学びの出発点として、学士力「文化・社会に関する知識・理解」「社会人に必要な汎用的技能」「態度・志向性」「創造的思考力」を修得する意義、および専門職業人としての学習態度や倫理観、職業観を身につける重要性を認識する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学業を中心とした大学生活全般の自己管理能力と自律的な学習態度を培う。 2. 社会人として、医療人として求められる社会的責任と行動、職業観の形成を促す。 3. 現代の保健医療に係る課題と医療人としての社会的貢献のあり方について考える。 4. 医療人としての看護職と管理栄養士の役割と連携を理解し、共同体意識を形成する。 5. 4年間の大学生活での目標を確認し、自己の課題と学習計画を考える。 6. コミュニケーション・スキル、論理的思考と問題解決力を修得する意義を理解する。 7. 社会人・職業人としての汎用的スキルの意味と活用するための基礎を理解する。 						
関連科目	論理的思考や表現技法をはじめこれから履修する科目すべてに関連する。						
テキスト	指定テキストはなし。授業内で資料を配付する。						
参考書	授業内で随時提示する。						
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点				
	試験		目標の到達状況を下記の点から評価し、60点以上を合格とする。				
	レポート	80	①レポート (80点) ・到達目標に関するレポート課題を課し、学修の到達度を評価する。				
	小テスト		②提出物 (20点) ・講義において課題を課し、提出物 (20点)として学修の到達度を評価する。				
	提出物	20					
その他							
履修上の留意事項	<p>参考文献は随時提示する。</p> <p>レポートと課題の提出方法は、各教員の講義最終時に提示する。</p> <p>レポートや課題は、指定された期限を守って提出する。</p>						
課題に対するフィードバックの方法	提出物には、コメントを付けて返却する。						
実務経験を活かした教育内容	医療職と大学教育の講義の際は、実務経験者の立場から、看護師・管理栄養士の教員の経験談を織り交ぜながら、どのような専門職をめざすのか具体的なイメージができるように授業をします。						
回数 (担当)	学習の主題	授業内容			事前・事後学習		
1 (木津)	大学での学び方	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 大学教育（高等教育）の目的と共通能力「学士力」の育成 3. 自律的学習の実践：「学習活動の手引き」 4. 学ぶ力とは：「感じる」「表現する」「伝える」「共有する」 			<p>事前：シラバスを読み、履修上の疑問点を明らかにしておく（1時間）。</p> <p>事後：大学で学ぶ意味について自分の考えをまとめる（2時間）。</p>		
2 (木津)	学士力と本学教育理念「人間力」	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間力とは 2. 社会人・医療人に求められる資質・能力とは 3. 自律的学習の実践：文献の活用 *本学図書館の支援協力を受ける 			<p>事前：「本学で学ぶ意義」について A5版用紙に 250 字程度にまとめる（2時間）。</p> <p>事後：図書館の文献検索の課題を実施し記載する（1時間）。</p>		
3 (木津)	学ぶ力の体験学習「いのち」「人が社会で生きること」	<ol style="list-style-type: none"> 1. DVD「赤ちゃんの運命を決めるもの」視聴 2. 個人学習：DVD の内容について「感じたこと」「考えたこと」を記載 3. グループ学習：各自で「感じたこと」「考えたこと」をグループで「表現する」「伝える」「共有する」 			<p>事前：大学に必要な能力について自分の考えをまとめる（2時間）。</p> <p>事後：「いのち」「人が社会で生きること」に関して自己の学びを指定用紙にまとめる（2時間）。</p>		
4 (飯田)	大学（高等教育）で学ぶこと (1)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高等教育の現状と将来像 2. 教授法と教育評価①：学習指導と授業の多様な形態 3. 教授法と教育評価②：教育評価の理論と方法 			<p>事前：高校までの自己の学修方法について振り返りまとめる（2時間）。</p> <p>事後：高校と大学の学びは、どのような点が違うのかまとめる（2時間）。</p>		

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
5 (飯田)	大学(高等教育)で 学ぶこと(2)	1. 多様な学力観・能力観①: 国内外の多様な能力・資質の枠組み(コミュニケーション・スキル、論理的思考力、問題解決力など) 2. 多様な学力観・能力観②: 能力や知能に関する理論 3. 創造力とは 4. コンピテンシー・テスト	事前: 汎用的スキルとは何か調べてノートにまとめる(2時間)。 事後: 前回の授業で学んだことを復習し、将来汎用的スキルを活用する場面をシミュレーションする(2時間)。
6 (山部)	医療職と大学教育 (1)	1. 保健医療に係る現代の課題と医療職の役割 2. 管理栄養士の役割	事前: 管理栄養士について調べてノートにまとめる(2時間)。 事後: 医療職が大学で学ぶ意義について、自分の考えをまとめる(2時間)。
7 (木津)	医療職と大学教育 (2)	1. 看護職の役割 2. グループ学習: 看護職と管理栄養士の役割の共通性と相違性、同じ大学で学ぶ意義について意見交換 3. グループ発表	事前: 看護職について調べてノートにまとめる。(2時間)。 事後: 医療職が大学で学ぶ意義について自分の考えをまとめる(2時間)。
8 (木津) (山部)	大学で学ぶ目標と課題の共有	1. グループ学習 1) 学びの目標をもつ(どんな看護職・管理栄養士になりたいか) 2) 目標実現のためにすべきこと、大切にすること 2. グループ発表	事前: どんな看護職・管理栄養士になりたいか自分の考えをノートにまとめる(2時間)。 事後: グループ学習からの学びをまとめ指定用紙に記載する(2時間)。

授業科目	生物学 A・B Biology			担当教員	津久井 隆行/松川 典子 ※担当教員は、クラス別		
対象学科・年次・学期	看護学科/栄養学科・1 年次・前期			選択・必修	選択		
授業形態	講義			単位数	1 単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
			◎	○			
授業目的	生命体の特性、生殖と発生、外部からの刺激の受容や内部環境の維持について理解し、広く生命現象に関する知識を修得する。特に、ヒトの体の構造および機能に関して学び、体の各部分の機能の低下と病気との関係について理解する。また、栄養素について学び、どのように体内で利用されているのかについて理解する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生物の基本単位である細胞の構造や機能、および、細胞が集まって形成される組織や器官について理解する。 2. 生命活動に必要な栄養素や、体内で起こる物質代謝について理解する。 3. 生体内における情報伝達について学修し、生体内恒常性について理解する。 4. 生物が受精によって遺伝物質を親から子に伝えるしくみや、配偶子が形成される過程について理解する。 						
関連科目	形態機能学Ⅰ・Ⅱ、生化学Ⅰ・Ⅱ、基礎栄養学が関連科目となる。高校レベルの生物基礎、生物を基盤とするので、復習しておくこと。						
テキスト	齊藤省吾「新体系看護学全書 基礎科目 生物学」(メヂカルフレンド社)						
参考書	P. レーヴン/G. ジョンソン 他「レーヴン/ジョンソン 生物学」上・下 (培風館)						
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点				
	試験	70	目標の到達状況を下記の視点から評価し、60 点以上を合格とする。 ①小テスト (30 点) ・講義開始時に前回実施した講義内容に関する小テストを実施し、学修内容に対する理解度を評価する。 ②定期試験 (70 点) ・到達目標に関する定期試験を実施し、学修到達度を評価する。 ・最終試験は、授業終了後の定期試験期間前に行う予定。				
	レポート						
	小テスト	30					
	提出物						
その他							
履修上の留意事項	重要な内容については配布資料やスライドで解説するが、その他の内容についてもテキストの十分な読み込みが必要。						
課題に対するフィードバックの方法	小テストは終了後に解答・解説を実施する。						
実務経験を活かした教育内容							
回数 (担当)	学習の主題	授業内容				事前・事後学習	
1	ガイダンス 細胞に関する基礎知識	ガイダンス 本科目の目的・目標、学習の内容、評価方法と基準、履修上の留意点の説明 生物を構成する最小の単位である細胞について以下の点から理解する。 ・細胞の構造と機能 ・細胞の増殖 (細胞分裂) 細胞に水が出入りするしくみについて理解する。 ・浸透圧とそれに伴う様々な現象				事前にシラバスを読み、履修上の疑問点を明らかにしておく。 教科書や配布資料を用いて授業内容の復習をする。(2 時間)	
2	個体の成り立ち－分化 生体内の物質の流れと働き①	分化した細胞が多数集まって形成される組織について特徴を理解する。 生命活動における同化のしくみについて以下の点から理解する。 ・物質代謝と酵素 ・栄養素 ・消化と吸収				教科書や配布資料を用いて授業内容の予習・復習をする。(各 2 時間) 講義開始時に前回の内容に関する小テストを行う。	
3	生体内の物質の流れと働き②	生命活動における異化のしくみについて以下の点から理解する。 ・肺によるガス交換 ・腎臓の構造と働き (尿の生成)				教科書や配布資料を用いて授業内容の予習・復習をする。(各 2 時間) 講義開始時に前回の内容に関する小テストを行う。	
4	からだの恒常性の維持 ①	内部環境としての体液の働きについて理解する。				教科書や配布資料を用いて授業内容の予習・復習をする。(各 2 時間) 講義開始時に前回の内容に関する小テストを行う。	

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
5	からだの恒常性の維持 ②	生物はどのようにして体内の環境を一定の状態に維持しているのかについて以下の点から理解する。 ・神経系とその働き ・内分泌系とその働き	教科書や配布資料を用いて授業内容の予習・復習をする。(各2時間) 講義開始時に前回の内容に関する小テストを行う。
6	外的刺激の受容	生物が環境の変化を受け取り、それに反応するしくみについて以下の点から理解する。 ・刺激と反応 ・感覚器とその働き (視覚と聴覚)	教科書や配布資料を用いて授業内容の予習・復習をする。(各2時間) 講義開始時に前回の内容に関する小テストを行う。
7	遺伝	遺伝物質とはどのようなものなのか、遺伝物質によって何がつくられ、生命活動ではどのように利用されているのかを以下の点から理解する。 ・遺伝物質の所在 ・DNAの構造 ・たんぱく質の合成 ヒトの遺伝と、それに伴って生じる病気について理解する。 ・遺伝性疾患と酵素 ・伴性遺伝 ・染色体異常	教科書や配布資料を用いて授業内容の予習・復習をする。(各2時間) 講義開始時に前回の内容に関する小テストを行う。
8	配偶子の形成	生物が受精のために配偶子を形成するしくみについて理解する。 ・細胞分裂と減数分裂の違い ・配偶子の形成	教科書や配布資料を用いて授業内容の予習・復習をする。(各2時間) 講義開始時に前回の内容に関する小テストを行う。

授業科目	化学 Chemistry		担当教員	森山 隆則			
対象学科・年次・学期	看護学科・1年次・前期		選択・必修	選択			
授業形態	講義		単位数	1単位			
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
			◎	○			
授業目的	化学は、全ての自然科学の中心にありそれらを学ぶ基礎となるが、本講ではとりわけ看護学に不可欠な化学的基礎知識を抽出し学修する。具体的には国際単位の表示方法、水溶液の様々な濃度の表示方法と換算方法と浸透圧の考え方、pHの考え方と血液のpH、大気圧と血圧の単位、生体（食品）成分である糖質・脂質・蛋白質・核酸などについて学修する。また、尿検査、血球検査、肝機能検査などの臨床検査の概略を示しそれらの臨床的意義について学修する。						
到達目標	1.医療に不可欠な国際単位系について理解し単位換算ができる。 2.水溶液の様々な濃度の表示方法（浸透圧を含む）を説明でき単位換算ができる。 3.pHの定義が理解でき血液のpHの恒常性について説明できる。 4.血圧の意味を知り表示単位と大気圧の単位との関連性について説明できる。 5.糖質・脂質・蛋白質・核酸などの成分についての概略について説明できる。 6.尿検査、血球検査、肝機能検査などの臨床検査の概略を示しそれらの臨床的意義について説明できる。						
関連科目	看護技術総論						
テキスト	教員が作成する配布資料						
参考書	平田雅子「ベッドサイドを科学する－看護に生かす物理学」（学研） 松野一彦、他「一目でわかる臨床検査」（メディカル・サイエンス・インターナショナル）						
評価方法・基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準・観点				
	試験	70	目標の到達状況を定期試験（70％）、レポート（20％）その他（10％）で評価する。 その他：授業時の発表、取組み姿勢				
	レポート	20					
	小テスト						
	提出物						
その他	10						
履修上の留意事項	必ず予習・復習して下さい。						
課題に対するフィードバックの方法	レポートの課題は、翌週の授業時に返却し解説する。						
実務経験を活かした教育内容	実務経験の立場から、医療過誤の具体例などを講義に織り混ぜながら、臨床に役立つ化学について分かりやすく授業を行います。						
回数（担当）	学習の主題	授業内容				事前・事後学習	
1	基礎化学に不可欠な国際単位について説明でき単位換算できる。	様々な国際単位について説明し単位換算について解説する。				事前：プリント内容を予習する（1.5時間）。事後：授業内容を整理し演習内容をまとめる（2時間）。	
2	水溶液の様々な濃度の表示方法（浸透圧を含む）を説明でき単位換算ができる。	水溶液の様々な濃度の表示方法（浸透圧を含む）と考え方について解説する。				事前：プリント内容を予習する（1.5時間）。事後：授業内容を整理し演習内容をまとめる（2時間）。	
3	pHの定義が理解でき血液のpHについて説明できる。	酸とアルカリを決めるpHの定義を解説し血液のpHの恒常性について解説する。				事前：プリント内容を予習する（1.5時間）。事後：授業内容を整理し演習内容をまとめる（2時間）。	
4	血圧の意味を知り表示単位と大気圧の単位との関連性について説明できる。	血圧について概略を説明し表示単位の意味するところを解説する。				事前：プリント内容を予習する（1.5時間）。事後：授業内容を整理し演習内容をまとめる（2.5時間）。	
5	糖質・脂質・蛋白質・核酸などの成分について概略を解説できる。	糖質と脂質の成り立ちと代謝の概略について解説する。				事前：プリント内容を予習する（1.5時間）。事後：授業内容を整理し演習内容をまとめる（2時間）。	

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
6	糖質・脂質・蛋白質・核酸などの成分について概略を解説できる。	糖質と脂質の成り立ちと代謝の概略について解説する。	事前：プリント内容を予習する(1.5 時間)。事後：授業内容を整理し演習内容をまとめる(2 時間)。
7	尿検査、血球検査、肝機能検査などの臨床検査の概略を示しそれらの臨床的意義について説明できる。	臨床検査の検体条件と尿検査、血球検査、生化学検査の項目を示しそれらの臨床的意義について解説する。	事前：プリント内容を予習する(1.5 時間)。事後：授業内容を整理し演習内容をまとめる(2 時間)。
8	尿検査、血球検査、肝機能検査などの臨床検査の概略を示しそれらの臨床的意義について説明できる。	肝機能検査を中心とした生化学検査の項目を示し臨床的意義について解説する。	事前：プリント内容を予習する(2 時間)。事後：授業内容を整理し演習内容をまとめる(2.5 時間)。

授業科目	論理的思考 Introduction to Logic			担当教員	崔 昌鳳		
対象学科・年次・学期	看護学科・1年次・前期			選択・必修	必修		
授業形態	講義			単位数	2単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
		◎					
授業目的	本科目は、学生諸君に人間の日常的活動のひとつである推論という営みについて理解を深めてもらい、それを通じて、各自が様々な問題に対し論理的・批判的に考えるスキル及び、それを適切に表現する術を身につけることを目的とする。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 様々な文章中に、どのような推論が含まれているかを見出し、明示的に書き換える技術を身につける。 2. 様々な推論事例について、批判的に考察する技術を身につける。 3. 論理的に正しい推論を自ら構成できるようになる。 						
関連科目	1年前期で学修する「学びの理解」「表現技法Ⅰ」、後期の「表現技法Ⅱ」に関連する。						
テキスト	必要に応じて資料を配付する。						
参考書	戸田山和久「論文の教室：レポートから卒論まで」(NHK 出版) 野矢茂樹「新版論理トレーニング」(産業図書)						
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点				
	試験	70	目標への到達状況についての総合的な判断に基づき評価する。判断材料となるのは各回の小テストと提出物、および、定期試験結果である。				
	レポート						
	小テスト	20					
	提出物	10					
その他							
履修上の留意事項	授業中に課題演習を課す。演習に取り組む際には、与えられた課題について自分で考えることが要求される。課題演習の「解答」を単に覚えるだけではほとんど学習効果は得られないものと心得ておいていただきたい。演習はフォームを利用して行う。そのため、毎回 PC を持参してくるよう。						
課題に対するフィードバックの方法	課題に関しては、模範回答例を提示し、また各学生の回答を比較検討したうえで、よく見受けられる誤解の例について、それがなぜ間違っているのか、また、正しく考えるにはどうしたらよいのか教示する。なお、なお課題に限らず、チームズ内で常時、質問を受けつけるので、わからないことがあれば遠慮なく質問するよう。						
実務経験を活かした教育内容							
回数(担当)	学習の主題	授業内容			事前・事後学習		
1	授業概要 - 「論理的思考とはなにか」	授業内容及び成績評価法について概説する。			(2時間) 講義内容をノートにまとめておくこと。		
2	主張と根拠 ---情報の取捨選択	資料に基づいて文章を作成する演習を行う。配布する資料には、種々雑多な情報を載せているが、指定した内容の文章を書くために、自ら情報を取捨選択する必要がある。			(5時間) 講義中に指示した条件を守った文章をフォームで提出すること。締め切りは次回の前日までとする。		
3	主張と根拠 ---筋道を明確に	第2回で作成した文章を題材に、筋道が明確にわかるような文章を書くために必要な事柄について講義する。明確な筋道をもつ文章を書く技術は、論理的思考を身につける上で大前提となる必須スキルである。			(5時間) 講義内容をふまえて、次回までに課題文章を修正し、書きあげてくること。		
4	論理パズル その1	講義冒頭で演習問題を提示し、その解答をフォームで提出してもらう(提出は次回まで)。講義時間中は、4~5名の学生でグループを構成し、グループ内での議論を通じて正解にたどり着くことを目標としてもらう。			(4時間) 演習問題の解答を作成し、次回までにフォームで提出すること。解答には、答えだけではなく、なぜその答えが正しいのかについての考察を含める必要がある。		
5	論理パズル その2	第4回で提示した演習問題を題材に、複雑な状況を表を用いて明晰化する手法について解説する。			(4時間) 講義内容をふまえて、演習問題への解答を再度、作成し、次回提出すること。		
6	事実判断と価値判断	事実判断と価値判断の違いについて概説する。			(4時間) 復習用演習問題(講義後にフォームのURLを提示)への回答を次回までに提出すること。		

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
7	価値判断詳論	諸々の価値判断（道徳判断、美的判断など）の特徴について詳説する。	（4時間）復習用演習問題（講義後にフォームのURLを提示）への回答を次回までに提出すること。
8	事実と意見	事実と意見の違いとこれらの関係について講義する。	（4時間）復習用演習問題（講義後にフォームのURLを提示）への回答を次回までに提出すること。
9	事実と意見 その 2	事実と意見を混在させることの危険性について、具体例をもとに講義する。	（4時間）復習用演習問題（講義後にフォームのURLを提示）への回答を次回までに提出すること。
10	接続関係・接続表現	代表的な接続関係と接続表現について講義し、そののち、課題問題に取り組んでもらう。	5時間）接続表現を適切に使った文章を書きあげ、フォームで提出すること
11	接続関係・接続表現	様々な文章例を提示し、そこに現れる各文がどのような接続関係にあるのか考察してもらおう。	（3時間）復習用演習問題（講義後にフォームのURLを提示）への回答を次回までに提出すること。
12	誤謬推論	日常的に間違えやすい推論パターンを提示し、なぜ、それが間違っているのかについて講義する。	（5時間）誤謬推論の例を講義終了時に提示する。提示された例がなぜ「誤謬」推論なのか、その理由を考察し、次回までにその理由を記した文章を作成すること。
13	演繹と仮説	仮説形成とその検証について概説し、演繹と推測の関連性について講義する。	（3時間）仮説形成型の推論事例を最低三つ自分で構成し、フォームで提出すること。
14	知識と論理	以下のトピックについて講義を行う。 1. 「真であることを信じること」と「知っていること」の違い 知識論理パズル	（4時間）知識論理パズルの解答を作成し、次回、提出すること。
15	総合演習	第1回から第14回までの講義内容に関して理解を深めてもらうための課題演習を行う。	（5時間）各回で扱った話題について、各自で復習すること。

授業科目	情報処理 Information Processing			担当教員	末光 厚夫		
対象学科・年次・学期	看護学科・1年次・前期			選択・必修	必修		
授業形態	演習			単位数	1単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
		◎					
授業目的	本科目では、基礎的な情報処理能力とコンピュータリテラシーを習得し、他の科目に適用できることを目指す。演習を通じて、ワープロソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの使い方とインターネットを活用した情報収集やコミュニケーションの方法を学ぶ。						
到達目標	1. PCの基礎的な使い方、電子メールやインターネットの活用法を習得する。 2. Word、Excel、PowerPointの基本的操作を習得する。						
関連科目	PCを使用する全ての科目が関連科目である。						
テキスト	授業時に資料を配付する。						
参考書	富士通エフ・オー・エム「よくわかる Word2019 & Excel2019 & PowerPoint2019」(FOM 出版)						
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点				
	試験		4回のレポート(100%)でPCの基礎的な使い方と、Word、Excel、PowerPointの基本的操作が習得できているか評価する。				
	レポート	100					
	小テスト						
	提出物						
その他							
履修上の留意事項	事前学習は特に必要ないが、授業で習った内容については、次週までに習得できるように復習しておくこと。						
課題に対するフィードバックの方法	レポートは、提出締切後に解答を示して、解説をする。						
実務経験を活かした教育内容							
回数(担当)	学習の主題	授業内容				事前・事後学習	
1	PCの基礎的な使い方	本科目の目的と構成について理解し、各回の位置づけを確認する。授業で使用するPCの基礎的な操作方法(PCの起動と終了、マウス・キーボードの操作、ファイルの保存など)を学ぶ。				事前：シラバスを確認する(30分)。 事後：講義内容を復習する(30分)。	
2	電子メールの利用とタイピング	1. 電子メールの利用方法を習得する。 2. タイピングの方法を学ぶ。				事後：講義内容を復習する(1時間)。	
3	インターネットの活用とマナー	1. ブラウザを利用したインターネット検索の方法を学ぶ。 2. インターネットを使用する際のマナーを理解する。				事後：講義内容を復習し、課題を完成して提出する(1時間)。	
4	Wordの基本(1)	1. Wordの基礎知識を習得する。 2. 文字入力の仕方を理解する。				事後：講義内容を復習する(1時間)。	
5	Wordの基本(2)	文書作成における基本的操作(文字のコピー・移動、配置、装飾、書式)を理解する。				事後：講義内容を復習する(1時間)。	
6	Wordの基本(3)	グラフィック機能(オンライン画像、図、図形、ワードアート)を使用した文書作成の仕方を理解する。				事後：講義内容を復習する(1時間)。	
7	Wordの基本(4)	1. 表を使用した文書作成の仕方を理解する。 2. 学習したWordの機能を活用して文書を作成する。				事後：講義内容を復習し、課題を完成して提出する(1時間)。	
8	Excelの基本(1)	1. Excelの基礎知識を習得する。 2. データ入力の仕方を理解する。				事後：講義内容を復習する(1時間)。	
9	Excelの基本(2)	1. 表の作成の仕方を理解する。 2. 表計算機能(四則計算、関数など)を理解する。				事後：講義内容を復習する(1時間)。	
10	Excelの基本(3)	グラフ(棒グラフ、円グラフなど)の作成の仕方を理解する。				事後：講義内容を復習する(1時間)。	
11	Excelの基本(4)	1. データベース機能を理解する。 2. 学習したExcelの機能を活用してデータ処理を行う。				事後：講義内容を復習し、課題を完成して提出する(1時間)。	

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
12	PowerPointの基本(1)	1. PowerPointの基礎知識を習得する。 2. スライド作成の基礎を理解する。	事後: 講義内容を復習する(1時間)。
13	PowerPointの基本(2)	テキスト、オンライン画像、図、図形、表、SmartArtを使用したスライドの作成の仕方を理解する。	事後: 講義内容を復習する(1時間)。
14	PowerPointの基本(3)	画面切り替え、アニメーション、スライドショーの機能を理解する。	事後: 講義内容を復習する(1時間)。
15	PowerPointの基本(4)	1. プレゼンテーションのやり方の基本を理解する。 2. 学習したPowerPointの機能を活用して、プレゼンテーション用の資料を作成する。	事後: 講義内容を復習し、課題を完成して提出する(1時間)。

授業科目	統計分析法 Statistical-analytical Method			担当教員	末光 厚夫		
対象学科・年次・学期	看護学科・1年次・後期			選択・必修	必修		
授業形態	演習			単位数	1単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
		◎					
授業目的	収集したデータの特徴を明らかにするための統計分析の手法について学ぶとともに、コンピュータを使用して統計分析を実行する方法を学ぶ。演習を通じて、特徴の数値化、各種データのグラフ化、統計的推定・統計的検定などの統計処理、調査データの処理方法などについて習得する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 統計学の体系について理解し、データの種類と特性について理解する。 2. 記述統計学の基礎を理解し、Excelを使用した統計処理方法を習得する。 3. 推測統計学の基礎を理解し、Excelを使用した統計処理方法を習得する。 4. 調査データの処理方法の基礎を習得する。 						
関連科目	疫学、保健統計学Ⅰ、保健統計学Ⅱ、看護学研究法が関連科目である。						
テキスト	授業時に資料を配付する。						
参考書	<ol style="list-style-type: none"> 1. 白砂堤津耶「例題で学ぶ初歩からの統計学」(日本評論社) 2. 菅民郎「Excelで学ぶ統計解析入門」(オーム社) 3. 石村園子「すぐわかる確率・統計」(東京図書) 4. 上田拓治「44の例題で学ぶ統計的検定と推定の解き方」(オーム社) 						
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点				
	試験	60	毎回の講義において、講義内容の理解度を評価するために、提出物(40%)として、演習課題を課す。定期試験(60%)では、統計学の基礎知識の理解度を評価するとともに、一部実技試験を通して、Excelを使用した統計処理方法の習熟度も評価する。				
	レポート						
	小テスト						
	提出物	40					
その他							
履修上の留意事項	統計分析法の学習とExcelを使用したデータ処理方法の修得は表裏一体であることから、繰り返し練習すること。						
課題に対するフィードバックの方法	演習課題は、提出締切後に解答を示して、解説を行う。						
実務経験を活かした教育内容							
回数(担当)	学習の主題	授業内容				事前・事後学習	
1	統計学とは	本科目の構成と指針について説明し、統計学発展の歴史、目的と有用性、統計分析手法の体系などを概説したうえで、各回の位置づけを確認する。				事前：シラバスを確認する(30分)。 事後：講義内容を復習する(30分)。	
2	記述統計学の基礎(1)	各種調査で収集したデータの種類を理解し、それらの性質について学ぶ。Excelを使用してデータから度数分布表やヒストグラムを作成する方法などを習得する。				事後：講義内容を復習する(1時間)。	
3	記述統計学の基礎(2)	分布の中心を表す代表値、ばらつきを表す四分位範囲、箱ひげ図と異常値の識別、偏差、分散、標準偏差などの考え方について理解し、Excelを使用した計算方法も習得する。				事後：講義内容を復習する(1時間)。	
4	記述統計学の基礎(3)	変動係数、Zスコア、偏差値、分布の歪度、尖度などについて学び、Excelの分析ツールを使用して記述統計量を算出する方法も習得する。				事後：講義内容を復習する(1時間)。	
5	推測統計学への準備(1)	統計的推定・検定のための準備として、確率の考え方を理解する。確率、確率変数、確率分布、確率変数の平均値、分散、確率変数の標準化などの考え方を理解し、Excelを使用した計算方法を習得する。				事後：講義内容を復習する(1時間)。	
6	推測統計学への準備(2)	重要な確率分布(二項分布、正規分布、標準正規分布、t分布、 χ^2 分布、F分布など)の特徴と適用する分析手法、計算方法を理解する。				事後：講義内容を復習する(1時間)。	

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
7	推測統計学への準備 (3)	母集団と標本、母数と統計量の理解、さらに標本を得るための標本抽出について学ぶ。正規母集団、母数、統計量と標本分布、推定量と推定値、中心極限定理などの概念を理解する。	事後：講義内容を復習する(1時間)。
8	統計的推定の基礎 (1)	統計量から母数を統計的に推定する方法を学ぶ。推定のための用語、点推定と区間推定、信頼係数と信頼区間の考え方、推定方法などについて理解する。	事後：講義内容を復習する(1時間)。
9	統計的推定の基礎 (2)	正規母集団の母平均の推定(母分散既知/未知)、小標本における母平均の推定、母分散の推定、母比率の推定などについて理解し、Excelを使用した推定の計算方法を習得する。	事後：講義内容を復習する(1時間)。
10	統計的検定の基礎 (1)	ある仮説が正しいか否かを無作為抽出した標本に基づいて統計的に判断する検定の考え方を学ぶ。帰無仮説、対立仮説、有意水準、棄却域、臨界値、p値、仮説の採択および棄却、片側検定と両側検定などについて理解する。	事後：講義内容を復習する(1時間)。
11	統計的検定の基礎 (2)	第Ⅰ種の過誤と第Ⅱ種の過誤の考え方を学ぶ。母平均の検定、母平均の差の検定、母分散の検定などについて理解し、Excelを使用した検定の計算方法を習得する。	事後：講義内容を復習する(1時間)。
12	統計的検定の基礎 (3)	等分散の検定、母比率の検定、母比率の差の検定などについて理解し、Excelを使用した検定の計算方法を習得する。	事後：講義内容を復習する(1時間)。
13	相関分析	2変数間の関係を分析する手法を学ぶ。相関図、相関係数、クラメールの連関係数、順位相関係数、無相関の検定、独立性の検定などについて理解し、それぞれの統計処理の手順を習得する。	事後：講義内容を復習する(1時間)。
14	調査データの集計と分析	Excelを使用した調査データの入力方法、ピボットテーブルによるクロス集計表の作成の手順を学ぶ。また、作成したデータを用いて、グラフ化や検定などの統計処理を行い、統計分析の手法の一連の手順を確認する。	事後：講義内容を復習する(1時間)。
15	SPSS統計パッケージの活用	Excelに入力されたデータをSPSS統計パッケージで活用し分析するための基本的な手順と出力結果の見方について学ぶ。	事後：講義内容を復習する(1時間)。

授業科目	情報リテラシー Information Literacy			担当教員	末光 厚夫		
対象学科・年次・学期	看護学科・1年次・後期			選択・必修	必修		
授業形態	演習			単位数	1単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	○	◎					
授業目的	ICT（情報通信技術）を利活用して、情報化社会に適応するための基礎を学ぶ。情報倫理、情報セキュリティ、コンピュータ、情報通信ネットワーク、Web、及び身近な ICT に関する基礎知識を習得し、情報の加工、発信、収集・分析を行うための基礎能力を身につけることを目的とする。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報倫理の基礎知識を説明できる。 2. 情報セキュリティの基礎知識を説明できる。 3. 主な ICT の基礎知識を説明できる。 4. 情報加工の基礎を実行することができる。 5. 情報発信の基礎を実行することができる。 6. 情報収集・分析の基礎を実行することができる。 						
関連科目	どの科目とも軽度に関連する。						
テキスト	授業時に資料を配付する。						
参考書	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大内東編「文系学生がまなぶ情報学」（コロナ社） 2. 岡本敏雄監「改訂新版よくわかる情報リテラシー」（技術評論社） 3. 富士通エフ・オー・エム「情報モラル & セキュリティ（改訂版）」（FOM 出版） 4. 千貫りこ「これからはじめる HTML & CSS」（技術評論社） 5. 豊田秀樹「紙を使わないアンケート調査入門」（東京図書） 						
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点				
	試験		目標の到達状況を下記の方法で総合的に評価する。 レポート：本講義で学んだ基礎知識を問う課題により理解度を評価する。 提出物：情報発信、加工を行う演習課題によりスキルの習得度を評価する。 その他：アンケートの作成、実施、収集・分析、結果報告の取り組み内容により講義内容の理解度とスキルの習得度を評価する。				
	レポート	50					
	小テスト						
	提出物	20					
その他	30						
履修上の留意事項	事前学習は特に必要ないが、授業で習った内容が十分な理解となるように復習しておくこと。						
課題に対するフィードバックの方法	レポートおよび演習課題は、提出締切後に解答を示して、解説を行う。						
実務経験を活かした教育内容							
回数 (担当)	学習の主題	授業内容			事前・事後学習		
1	情報リテラシーについて	本科目の目的と構成、そして各回の位置づけを説明する。続いて、情報化社会の概要について解説する。			事前：シラバスを確認する (0.5 時間)。 事後：講義内容を復習する (0.5 時間)。		
2	情報倫理	情報や情報機器を正しく取り扱う上で遵守すべきルールやマナーについて解説する。			事後：講義内容を復習する (1 時間)。		
3	コンピュータ	コンピュータの機能と仕組みの基礎を説明し、ハードウェアとソフトウェア、情報の表現について解説する。			事後：講義内容を復習する (1 時間)。		
4	デジタルデータの加工・編集	デジタルデータの種類について説明し、画像や音などのデータを加工・編集する方法の基礎を解説する。			事後：講義内容を復習する (1 時間)。		
5	Web ページの作成 (1) HTML	HTML の基礎について説明し、Web ページを作成するための HTML の書き方の基礎を解説する。			事後：講義内容を復習する (1 時間)。		
6	Web ページの作成 (2) CSS	色やサイズ、レイアウトなど Web ページの見栄え (スタイル) を指定するためのスタイルシート (CSS) の書き方の基礎を解説する。			事後：講義内容を復習する (1 時間)。		
7	Web システムと Web サービス	インターネットでの Web ページ利用の基盤となる Web システムの仕組みについて解説する。また、SNS などのコミュニケーション系 Web サービスについても解説する。			事後：講義内容を復習し、課題を完成して提出する (1 時間)。		

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
8	情報通信ネットワーク	情報通信ネットワークの成り立ちと、インターネットを実現する情報通信技術の基礎を解説する。	事後：講義内容を復習する（1時間）。
9	情報セキュリティ	情報を管理する際や、PC やスマートフォンなどの情報機器を利用する際に起こりうる脅威とその対策について解説する。	事後：講義内容を復習する（1時間）。
10	ビッグデータとクラウド	ビッグデータとクラウドに関わる情報通信技術の基礎と、それらの技術が用いられているサービスについて解説する。	事後：講義内容を復習する（1時間）。
11	医療と ICT	医療において活用されている情報通信技術について解説する。	事後：講義内容を復習し、課題を完成して提出する（1時間）。
12	情報収集・分析の実践（1）Web アンケート調査	アンケート調査の基礎について説明する。また、Web 上で利用できるアンケートページの作成方法と、Web アンケートで収集した回答結果を PC に取り込む方法を解説する。	事後：講義内容を復習し、課題を完成して提出する（1時間）。
13	情報収集・分析の実践（2）アンケートの作成	調査したいテーマを決めて、アンケートの Web ページを作成してもらう。	事後：講義内容を復習し、課題を完成して提出する（1時間）。
14	情報収集・分析の実践（3）アンケートの実施と集計・分析	作成した Web アンケートページを用いて、実際にアンケート調査を行ってもらう。続いて、回答結果を PC に取り込み、集計および分析を行い、結果報告のためのプレゼン資料を作成してもらう。	事後：講義内容を復習し、課題を完成して提出する（1時間）。
15	情報収集・分析の実践（4）アンケート結果の報告	作成したプレゼン資料を用いて、実施したアンケート調査の結果報告を行ってもらう。	事後：講義内容を復習する（1時間）。

授業科目	英語 I (基礎) A English I			担当教員	松尾 文子		
対象学科・年次・学期	看護学科・1年次・前期			選択・必修	必修		
授業形態	演習			単位数	1単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	○	◎	○				
授業目的	英語の基礎的な知識を整理する。英語運用能力の向上に必要な4技能(読む・書く・聞く・話す)の中の、読む力と書く力の向上に努める。						
到達目標	1. 英語の構文を理解する。 2. 英語の構文理解をもとに、英語表現を読み取る。 3. 学んだ表現を用いて、ある程度まとまった内容の英文を書く。						
関連科目	英語 II, III, IV						
テキスト	<i>Answers to Everyday Questions 3 [Intermediate]</i> Arao A. Mihara K. et al. (NAN'UN-DO, 2023)						
参考書							
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点				
	試験	70	学んだことの理解度を測る中間試験と定期試験 70%、小テスト 20%、授業の取り組み姿勢 10% で評価する。 中間・期末試験を未受験の場合は、評価の対象としない。				
	レポート						
	小テスト	20					
	提出物						
その他	10						
履修上の留意事項	分からない語句はあらかじめ調べておく。任意提出の課題に積極的に取り組むことが望ましい。						
課題に対するフィードバックの方法	中間紙面は解答例を配布し、各自に確認してもらう。基準点に達しなかった学生には、課題を出し、コメントを付して返却する。小テストの答え合わせを授業中に行う。任意提出の課題は、テキストの Writing B と、Teams にアップする Unit ごとの確認問題で、いずれもコメントを付して返却する。さらに、Unit ごとに文法・語法に関する発展的な内容を記した English in Detail を Teams にアップする。						
実務経験を活かした教育内容							
回数(担当)	学習の主題	授業内容				事前・事後学習	
1	現在時制・過去時制	Introduction / Unit 1: What did People Use Before Erasers?				テキストの予習・主に文法事項の確認(1時間)	
2	助動詞	Unit 2: Who Is Barbie?				テキストの予習・主に文法事項の確認(1時間)	
3	完了形	Unit 3: How did T-Shirts Become Popular?				テキストの予習・主に文法事項の確認(1時間)	
4	受動態	Unit 4: Who Invented Cotton Candy?				テキストの予習・主に文法事項の確認(1時間)	
5	There 構文	Unit 5: Which Came First, the TV or the RC?				テキストの予習・主に文法事項の確認(1時間)	
6	冠詞・名詞	Unit 6: Why Do ATM PINs Have Only Four Numbers?				テキストの予習・主に文法事項の確認(1時間)	
7	不定詞・動名詞	Unit 7: Why Are Pencils Yellow?				テキストの予習・主に文法事項の確認(1時間)	
8	これまでのテキストの理解度確認	中間試験				試験勉強・次回の授業の予習(4時間)	
9	形容詞・副詞	Unit 8: What Are the Ends of Shoelaces Called?				テキストの予習・主に文法事項の確認(1時間)	
10	比較	Unit 9: Why Are Gym Shoes Called "Sneakers"?				テキストの予習・主に文法事項の確認(1時間)	

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
11	前置詞	Unit 10: Why Do We Drink So Much Coffee?	テキストの予習・主に文法事項の確認（1時間）
12	接続詞	Unit 11: Which Came First, Lighters or Matches?	テキストの予習・主に文法事項の確認（1時間）
13	付加疑問文・修飾語句	Unit 12: Why Is Meat from Pigs Called “Pork”?	テキストの予習・主に文法事項の確認（1時間）
14	関係詞	Unit 13: Can You Wang a “Welly”?	テキストの予習・主に文法事項の確認（1時間）
15	分詞・分詞構文	Unit 14: Why Do We Shake Hands?	テキストの予習・主に文法事項の確認（1時間）

授業科目	英語 I (基礎) B English I			担当教員	大西 三佳子		
対象学科・年次・学期	看護学科・1年次・前期			選択・必修	必修		
授業形態	演習			単位数	1単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	○	◎	○				
授業目的	英語の基礎的な知識を整理する。英語運用能力の向上に必要な4技能(読む・書く・聞く・話す)の中の、読む力と書く力の向上に努める。						
到達目標	1.英語の構文を理解する。 2.英語の構文理解をもとに、英語表現を読み取る。 3.学んだ表現を用いて、ある程度まとまった内容の英文を書く。						
関連科目	1年後期に履修する英語II(会話)と密接に関連する。						
テキスト	Akihiko Higuchi and John Tremarco 「CHECK-UP!」 (KINSEIDO, 2023)						
参考書	必要に応じて紹介する。						
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点				
	試験	50	基準:グループ活動、提出物、小テスト(以上で50%)及び定期テスト(50%)の結果から評価する。 観点:日々の授業中の活動に真面目に取り組み、到達目標に向かって努力しているかで判断する。				
	レポート						
	小テスト	20					
	グループ活動	20					
提出物	10						
履修上の留意事項	授業時は必ず教科書や辞書などを持参し、小テストや提出物の準備を忘れない。						
課題に対するフィードバックの方法	小テストと課題は翌週の授業で返却し、重要事項を解説する。						
実務経験を活かした教育内容	英米国民の生活の様子や医療環境などを講義に織り交ぜ、教科書の内容がより理解し易いように授業をする。						
回数(担当)	学習の主題	授業内容			事前・事後学習		
1	ガイダンス	本科目の目的・目標・学習内容と学習方法、評価方法と基準、履修上の留意事項等を説明する。			事前:テキストの内容を確認 (0.5時間) 事後:テキスト次週分の予習 (0.5時間)		
2	Unit 1 May I Help You?	1. reading (初診受付の流れを学ぶ①) 2. grammar (時制) 3. writing (基本的な重要構文)			事前:テキストの予習 (0.5時間) 事後:小テストと次の課の準備 (0.5時間)		
3	Unit 2 Where Do You Live?	1. reading (初診受付の流れを学ぶ②) 2. grammar (不定詞) 3. writing (基本的な重要構文)			事前:テキストの予習 (0.5時間) 事後:小テストと次の課の準備 (0.5時間)		
4	Unit 3 Do You Have an Insurance Card?	1. reading (初診受付の流れを学ぶ③) 2. grammar (受動態) 3. writing (基本的な重要構文)			事前:テキストの予習 (0.5時間) 事後:小テストと次の課の準備 (0.5時間)		
5	Unit 4 What Department Do You Want to Visit?	1. reading (患者を案内する) 2. grammar (冠詞) 3. writing (基本的な重要構文)			事前:テキストの予習 (0.5時間) 事後:小テストと次の課の準備 (0.5時間)		
6	Unit 6 Take One Tablet Three Times a Day	1. reading (薬の処方について学ぶ) 2. grammar (前置詞) 3. writing (基本的な重要構文)			事前:テキストの予習 (0.5時間) 事後:小テストとまとめの学習 (1時間)		
7	前半のまとめ学習	グループ活動確認・「前半のまとめ」を学習する。			事前:小テストとまとめの学習 (1時間) 事後:中間復習ドリルの準備 (2時間)		
8	中間復習ドリル (Units 1,2,3,4,6)	これまで学習した内容の定着度をチェックする。			事前:前半の授業内容を復習し、中間復習ドリルの準備 (2時間) 事後:次の課の準備 (0.5時間)		

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
9	Unit 7 You're Suffering from Hay Fever	1. reading (診察の流れを学ぶ) 2. grammar (関係詞) 3. writing (基本的な重要構文)	事前：テキストの予習 (0.5 時間) 事後：小テストと次の課の準備 (0.5 時間)
10	Unit 8 What Kind of Pain Is It?	1. reading (外科診療の流れを学ぶ) 2. grammar (接続詞) 3. writing (基本的な重要構文)	事前：テキストの予習 (0.5 時間) 事後：小テストと次の課の準備 (0.5 時間)
11	Unit 10 Let's Check Your Pulse and Blood Pressure	1. reading (診察前の計測を行う) 2. grammar (動名詞) 3. writing (基本的な重要構文)	事前：テキストの予習 (0.5 時間) 事後：小テストと次の課の準備 (0.5 時間)
12	Unit 11 It's Going to Be a Long Day!	1. reading (患者に検査を勧める) 2. grammar (分詞) 3. writing (基本的な重要構文)	事前：テキストの予習 (0.5 時間) 事後：小テストと次の課の準備 (0.5 時間)
13	Unit 13 You Need to Control Your Diet	1. reading (患者に入院を勧める) 2. grammar (助動詞) 3. writing (基本的な重要構文)	事前：テキストの予習 (0.5 時間) 事後：小テストとまとめの学習 (1 時間)
14	後半まとめ学習	グループ活動確認・「後半のまとめ」を学習する。	事前：小テストとまとめの学習 (1 時間) 事後：期末復習ドリルの準備 (2 時間)
15	期末復習ドリル (Units 7,8,10,11,13)	これまで学習した内容の定着度をチェックする。	事前：後半の授業内容を復習し、期末復習ドリルの学習 (2 時間) 事後：今まで学習したことを復習し、期末テストの準備 (2 時間)

授業科目	英語 I (基礎) C English I			担当教員	大西 三佳子		
対象学科・年次・学期	看護学科・1年次・前期			選択・必修	必修		
授業形態	演習			単位数	1単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-	DP5	DP6
	○	◎	○				
授業目的	英語の基礎的な知識を整理する。英語運用能力の向上に必要な4技能(読む・書く・聞く・話す)の中の、読む力と書く力の向上に努める。						
到達目標	1.英語の構文を理解する。 2.英語の構文理解をもとに、英語表現を読み取る。 3.学んだ表現を用いて、ある程度まとまった内容の英文を書く。						
関連科目	1年後期に履修する英語II(会話)と密接に関連する。						
テキスト	Akihiko Higuchi and John Tremarco「CHECK-UP!」(KINSEIDO, 2023)						
参考書	必要に応じて紹介する。						
評価方法・基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準・観点				
	試験	50	基準:グループ活動、提出物、小テスト(以上で50%)及び定期テスト(50%)の結果から評価する。 観点:日々の授業中の活動に真面目に取り組み、到達目標に向かって努力しているかで判断する。				
	レポート						
	小テスト	20					
	グループ活動	20					
提出物	10						
履修上の留意事項	授業時は必ず教科書や辞書などを持参し、小テストや提出物の準備を忘れない。						
課題に対するフィードバックの方法	小テストと課題は翌週の授業で返却し、重要事項を解説する。						
実務経験を活かした教育内容	英米国民の生活の様子や医療環境などを講義に織り交ぜ、教科書の内容がより理解し易いように授業をする。						
回数(担当)	学習の主題	授業内容			事前・事後学習		
1	ガイダンス	本科目の目的・目標・学習内容と学習方法、評価方法と基準、履修上の留意事項等を説明する。			事前:テキストの内容を確認(0.5時間) 事後:テキスト次週分の予習(0.5時間)		
2	Unit 1 May I Help You?	1. reading(初診受付の流れを学ぶ①) 2. grammar(時制) 3. writing(基本的な重要構文)			事前:テキストの予習(0.5時間) 事後:小テストと次の課の準備(0.5時間)		
3	Unit 2 Where Do You Live?	1. reading(初診受付の流れを学ぶ②) 2. grammar(不定詞) 3. writing(基本的な重要構文)			事前:テキストの予習(0.5時間) 事後:小テストと次の課の準備(0.5時間)		
4	Unit 3 Do You Have an Insurance Card?	1. reading(初診受付の流れを学ぶ③) 2. grammar(受動態) 3. writing(基本的な重要構文)			事前:テキストの予習(0.5時間) 事後:小テストと次の課の準備(0.5時間)		
5	Unit 4 What Department Do You Want to Visit?	1. reading(患者を案内する) 2. grammar(冠詞) 3. writing(基本的な重要構文)			事前:テキストの予習(0.5時間) 事後:小テストと次の課の準備(0.5時間)		
6	Unit 6 Take One Tablet Three Times a Day	1. reading(薬の処方について学ぶ) 2. grammar(前置詞) 3. writing(基本的な重要構文)			事前:テキストの予習(0.5時間) 事後:小テストとまとめの学習(1時間)		
7	前半のまとめ学習	グループ活動確認・「前半のまとめ」を学習する。			事前:小テストとまとめの学習(1時間) 事後:中間復習ドリルの準備(2時間)		
8	中間復習ドリル (Units 1,2,3,4,6)	これまで学習した内容の定着度をチェックする。			事前:前半の授業内容を復習し、中間復習ドリルの準備(2時間) 事後:次の課の準備(0.5時間)		
9	Unit 7 You're Suffering from Hay Fever	1. reading(診察の流れを学ぶ) 2. grammar(関係詞) 3. writing(基本的な重要構文)			事前:テキストの予習(0.5時間) 事後:小テストと次の課の準備(0.5時間)		

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
10	Unit 8 What Kind of Pain Is It?	1. reading (外科診療の流れを学ぶ) 2. grammar (接続詞) 3. writing (基本的な重要構文)	事前：テキストの予習 (0.5 時間) 事後：小テストと次の課の準備 (0.5 時間)
11	Unit 10 Let's Check Your Pulse and Blood Pressure	1. reading (診察前の計測を行う) 2. grammar (動名詞) 3. writing (基本的な重要構文)	事前：テキストの予習 (0.5 時間) 事後：小テストと次の課の準備 (0.5 時間)
12	Unit 11 It's Going to Be a Long Day!	1. reading (患者に検査を勧める) 2. grammar (分詞) 3. writing (基本的な重要構文)	事前：テキストの予習 (0.5 時間) 事後：小テストと次の課の準備 (0.5 時間)
13	Unit 13 You Need to Control Your Diet	1. reading (患者に入院を勧める) 2. grammar (助動詞) 3. writing (基本的な重要構文)	事前：テキストの予習 (0.5 時間) 事後：小テストとまとめの学習 (1 時間)
14	後半まとめ学習	グループ活動確認・「後半のまとめ」を学習する。	事前：小テストとまとめの学習 (1 時間) 事後：期末復習ドリルの準備 (2 時間)
15	期末復習ドリル (Units 7,8,10,11,13)	これまで学習した内容の定着度をチェックする。	事前：後半の授業内容を復習し、期末復習ドリルの学習 (2 時間) 事後：今まで学習したことを復習し、期末テストの準備 (2 時間)

授業科目	英語 I (基礎) D English I		担当教員	松尾 文子				
対象学科・年次・学期	看護学科・1年次・前期		選択・必修	必修				
授業形態	演習		単位数	1単位				
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
	○	◎	○					
授業目的	英語の基礎的な知識を整理する。英語運用能力の向上に必要な4技能(読む・書く・聞く・話す)の中の、読む力と書く力の向上に努める。							
到達目標	1. 英語の構文を理解する。 2. 英語の構文理解をもとに、英語表現を読み取る。 3. 学んだ表現を用いて、ある程度まとまった内容の英文を書く。							
関連科目	英語 II, III, IV							
テキスト	Grammar Plus [Second Edition] Bennett A.E. and Komiya T. (NAN'UN-DO, 2023)							
参考書								
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点					
	試験	70	学んだことの理解度を測る中間試験と定期試験 70%、小テスト 20%、授業の取り組み姿勢 10% で評価する。 中間・期末試験を未受験の場合は、評価の対象としない。					
	レポート							
	小テスト	20						
	提出物							
その他	10							
履修上の留意事項	分からない語句はあらかじめ調べておく。Teams にアップする Listening のスクリプトと音声を用いて、聞く力の向上に努める。							
課題に対するフィードバックの方法	中間試験は解答例を配布し、各自に確認してもらう。基準点に達しなかった学生には課題を課し、コメントを付して返却する。小テスト (Listening) の答え合わせを授業中に行う。Listening のスクリプトと音声を Teams にアップする。							
実務経験を活かした教育内容								
回数 (担当)	学習の主題	授業内容				事前・事後学習		
1	be 動詞・現在形	Introduction / Unit 1: be 動詞 / Unit 2: 現在形				テキストの予習・主に文法事項の確認 (1時間)		
2	過去形・代名詞	Unit 3: 過去形 / Unit 4: 代名詞				テキストの予習・主に文法事項の確認 (1時間)		
3	前置詞・進行形	Unit 5: 前置詞 / Unit 6: 進行形				テキストの予習・主に文法事項の確認 (1時間)		
4	名詞と冠詞・助動詞	Unit 7: 名詞と冠詞 / Unit 8: 助動詞				テキストの予習・主に文法事項の確認 (1時間)		
5	提案と命令・未来形	Unit 9: 提案と命令 / Unit 10: 未来形				テキストの予習・主に文法事項の確認 (1時間)		
6	疑問視と付加疑問文・形容詞	Unit 11: 疑問視と付加疑問文 / Unit 12: 形容詞				テキストの予習・主に文法事項の確認 (1時間)		
7	比較・副詞	Unit 13: 比較 / Unit 14: 副詞				テキストの予習・主に文法事項の確認 (1時間)		
8	これまでのテキストの理解度確認	中間試験				試験勉強・次回の授業の予習 (4時間)		
9	不定詞・動名詞	Unit 15: 不定詞 / Unit 16: 動名詞				テキストの予習・主に文法事項の確認 (1時間)		
10	接続詞・受動態	Unit 17: 接続詞 / Unit 18: 受動態				テキストの予習・主に文法事項の確認 (1時間)		
11	語源・形容詞節	Unit 19: 語源 / Unit 20: 形容詞節				テキストの予習・主に文法事項の確認 (1時間)		

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
12	副詞節・仮定法	Unit 21: 副詞節 / Unit 22: 仮定法	テキストの予習・主に文法事項の確認 (1時間)
13	名詞節：現在完了	Unit 23: 名詞節 / Unit 24: 現在完了	テキストの予習・主に文法事項の確認 (1時間)
14	過去完了・未来完了	Unit 25: 過去完了 / Unit 26 未来完了	テキストの予習・主に文法事項の確認 (1時間)
15	関節・直接話法・文と ンをなく語句	Unit 27 関節・直接話法 / Unit 28: 文と文をつなぐ語句	テキストの予習・主に文法事項の確認 (1時間)

授業科目	英語Ⅱ（会話） English II (Conversation)		担当教員	David Flenner / Peter Reemst ※担当教員は、クラス別			
対象学科・ 年次・学期	看護学科・1年次・後期		選択・必修	必修			
授業形態	演習		単位数	1単位			
学科ディプロ マ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	○	◎	○				
授業目的	The purpose of this course is to build basic and intermediate communicative skills for a clinical setting.						
到達目標	1. Building confidence in order to communicate with patients in English 2. Improving students' knowledge of language used in a clinical setting 3. Building an awareness of the needs of English speaking patients						
関連科目	英語Ⅰ・Ⅱ						
テキスト	Simon Capper 「Bedside Manner Beginner(New Edition)」 (Perceptia Press)						
参考書	なし						
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点				
	試験	60	The assessment standards of academic achievement are as follows. 1. Worksheets 30% 2. Class Participation (Attendance and Question Response) 10% 3. Mid-Term Test 30% 4. Final Test 30%				
	レポート						
	小テスト						
	提出物	30					
その他	10						
履修上の 留意事項	Students are expected to participate in conversation and exercises.						
課題に対するフィ ードバックの方法	Feedback on progress in quizzes (including an explanation of answers and how to improve upon results) and students' progress in general classwork. Additionally, suggestions on increasing students' overall satisfaction/sense of achievement gained from the course will be provided.						
実務経験を 活かした教育内容							
回数 (担当)	学習の主題	授業内容				事前・事後学習	
1	Orientation	Classroom Language and Instruction				Pre-Study Vocabulary for Unit 1 (1hour)	
2	Unit 1	Meeting a New Patient				Pre-Study Vocabulary for Unit 2 (1hour)	
3	Unit 2	Talking About Symptoms				Pre-Study Vocabulary for Unit 3 (1hour)	
4	Unit 3	In-Patient Orientation				Pre-Study Vocabulary for Unit 4 (1hour)	
5	Unit 4	Doing the Rounds				Pre-Study Vocabulary for Unit 5 (1hour)	
6	Unit 5	Explaining Medication				Pre-Study Vocabulary for Unit 6 (1hour)	
7	Unit 6	More Symptoms				Pre-Study Vocabulary for Unit 7 (1hour)	
8	Unit 7	Review/Test 1: Units 1-6				Pre-Study Vocabulary for Unit 8 (1hour)	
9	Unit 8	Accidents and Injuries				Pre-Study Vocabulary for Unit 9 (1hour)	
10	Unit 9	Patient Examination				Pre-Study Vocabulary for Unit 10 (1hour)	
11	Unit 10	Taking a Medical History				Pre-Study Vocabulary for Unit 11 (1hour)	

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
12	Unit11	Lifestyle and Diet	Pre-Study Vocabulary for Unit 12 (1hour)
13	Unit12	Explaining Hospital Tests	Homework-Review Sheet (1hour)
14	Unit13	Review	Study for Review Test (2hour)
15	Review/Test2	Units8-12	Not Applicable

授業科目	表現技法Ⅰ（読解・分析）A・C Presentation Skills (Reading Comprehension and Analyses)			担当教員	高木 維		
対象学科・ 年次・学期	看護学科・1年次・前期			選択・必修	必修		
授業形態	演習			単位数	1単位		
学科ディプロ マ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	○	◎					
授業目的	本科目は、大学および社会において求められる一般的な作文技術の習得を目的とする。文章表現の面では、いわゆる文学作品的な美文ではなく、学術的表現を用いて、文法ミスのない平易な文を書くことを目指す。内容構成の面では、三部構成に則り、論拠・出典を明確にしたレポートの作成を目指す。						
到達目標	1.レポートにふさわしい表現で、文法ミスのない文を書く技能を身に付ける。 2.他人発の情報を的確に利用し、出典を明示する技能を身に付ける。 3.三部構成の重要性を理解し、レポートの構成を考える能力を身に付ける。 4.レポートを作成するための全体的なプロセスを把握する。						
関連科目	さまざまな科目で課される課題文の基礎となる。 また、1年後期に履修する「表現技法Ⅱ」と密接に関係する。						
テキスト	なし						
参考書	奥田統己、神成洋、佐々木冠、本間徹夫、山崎哲永 共著「読みやすく考えて調べて書く」(学術図書出版) 河野哲也「レポート・論文の書き方入門」(慶應義塾大学出版会)						
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点				
	試験		目標の到達状況を下記の方法で評価する。				
	レポート	40	レポート・その他の提出物・授業態度により総合的に評価する。 ※期末レポートの提出がない場合は、評価の対象とはならない。				
	小テスト		・レポート(40%)：期末レポートの得点				
	提出物	40	・提出物(40%)：各種提出課題への取り組み				
その他	20	・授業態度(20%)：講義内活動への取り組みの姿勢					
履修上の 留意事項	講義内活動を踏まえて、段階的にレポートを作成する。 そのため、欠席回は TEAMS にアップロードされる講義資料を確認し、自身で学習を進める必要がある。						
課題に対するフィ ードバックの方法	提出物にはコメントを付して返却する。						
実務経験を 活かした教育内容							
回数 (担当)	学習の主題	授業内容			事前・事後学習		
1	・ガイダンス ・レポートの文体	・本科目の目的、評価基準 ・レポート(論説文)にふさわしい文体			「レポートの文体」について復習し、宿題に取り組む(1時間)		
2	・段落構成① ・客観的表現	・段落構成の概要と、例示・対比の段落 ・文章から主観性を排するテクニック			次回講義時間までに提出課題①「適切な文章表現」を完成させ、提出する(1時間)		
3	・段落構成② ・断定表現	・意見と理由の段落を書くトレーニング ・文章から曖昧性を排するテクニック			「段落構成」について復習し、宿題に取り組む(1時間)		
4	・段落構成③ ・引用文献欄	・データをもとに段落を書くトレーニング ・利用した文献をリスト化する「引用文献欄」の書きかた			「引用文献欄」について復習し、宿題に取り組む(1時間)		
5	・引用文 ・文法ミス	・引用文の書き方と要約のテクニック ・レポートにおいて頻出する文法ミス			次回講義時間までに提出課題②「引用文と引用文献欄」を完成させ、提出する(1時間)		
6	・レポートの種類 ・三部構成	・一般的なレポートの種類と三部構成 ・課題文作成のための文献読解			配布された資料読解をすすめ、宿題に取り組む(1時間)		
7	・文献メモ ・表記	・文献調査時に作成すべき「文献メモ」の概要 ・レポートにおいて望ましい文字遣い(漢字・数字・記号)			配布された資料読解をすすめ、文献メモを作成する(1時間)		
8	・アウトラインの作成 ・課題文執筆の注意点	・提出課題③「事実を説明する文章」のアウトライン作り ・段落構成・引用の総復習			次回講義時間までに提出課題③「事実を説明する文章」を完成させ、提出する(1時間)		

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
9	・投稿規定 ・文献調査	・期末レポートにおける重要な指示（投稿規定）の確認 ・簡単な文献調査のテクニック	ワークノートを用いて、意見作りと文献調査を進める（1時間）
10	・考察 ・他人発の情報の利用	・意見の説得力を高めるために必要な要素 ・他人の意見をレポートに組み込むときの注意点	意見作りを進め、アウトラインを作成する（1時間）
11	・序論・結論 ・個人相談①	・レポートの序論・結論の構成 ・これまでの取り組みを教員に見せ、コメントを受ける活動	期末レポートのアウトラインを作成する（1時間）
12	・個人相談②	・これまでの取り組みを教員に見せ、コメントを受ける活動	期末レポート（初稿）を完成させる（1時間）
13	・推敲	・批判的にレポートを読み、ミスを発見する演習 ・期末レポート（初稿）の推敲	期末レポート（初稿）を改訂し、印刷して次回提出する（1時間）
14	・レポートの構成	・投稿規定から、レポート全体の構成を想定するトレーニング	「レポートの構成」について復習し、宿題に取り組む（1時間）
15	・総括	・期末レポートを読み合い、感想を交換する活動 ・後期の活動とテーマの説明	後期に向け、告知されたテーマについて情報を集める（1時間）

授業科目	表現技法Ⅰ（読解・分析）B・D Presentation Skills I (Reading Comprehension and Analyses)			担当教員	安永 立子		
対象学科・ 年次・学期	看護学科・1年次・前期			選択・必修	必修		
授業形態	演習			単位数	1単位		
学科ディプロ マ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	○	◎					
授業目的	言語表現とは何か、という理論的な側面を学び、日本語表現に関する学術的な基礎知識を習得する。そのうえで、知的活動でも職業生活や社会生活でも必要となる実践的な日本語の運用能力を身につける。						
到達目標	1.言語表現に関する基本的な学術用語を理解する。 2.日本語による文章作成の基本的な能力を身につける。 3.文章を書く際の発想力、構成力を学習し、適宜応用できる。						
関連科目	1年前期で学修する「学びの理解」「論理的思考」や後期に学修する「表現技法Ⅱ」に関連する。						
テキスト							
参考書							
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点				
	試験		目標の到達状況を下記の方法で評価する。				
	レポート	40	毎回の講義で提出を課す小課題に対して、4点満点で採点し、60点満点として評価する（3分の1以上の欠席は評価の対象外）。授業に対する取り組み姿勢についても、採点に適宜加味する。授業内、また事後学習として課す実作レポートをその都度採点し、合計を40点満点に換算して、100点満点で上記の目標の達成度を評価する。				
	小テスト		なお、授業内で課す2回の実作レポートを提出できなかった場合は評価の対象としない。				
	提出物	30					
その他	30						
履修上の 留意事項	授業に欠席した場合は、欠席日のワークシートを必ず受け取ること。						
課題に対するフィ ードバックの方法	提出物は適宜添削し、講評を添えて返却する。						
実務経験を 活かした教育内容							
回数 (担当)	学習の主題	授業内容				事前・事後学習	
1	ガイダンス／本科目の説明と履修上の注意 レポートについて／適切な文を書くためのエクササイズ	本科目の目的、学習内容と方法、評価方法と基準、履修上の留意点について、説明する。 表現方法を学ぶにあたって、レポートを書くとはどういうことか、概略を学ぶ。 「非文」「悪文」の例を学生各自が添削し、正しい文についての理解を深める。				事前にシラバスを読み、本科目履修についての疑問等を明らかにしておく(30分)。授業時間に使用したワークシートを見直し、学習内容の習得に努めること。 また、指定された家庭学習を行う(30分)。	
2	レポートの文体を理解する	間違いやすい語彙の知識を確認する。話し言葉と書き言葉の違いについて判断できる能力を身につける。論述に適した文体について学ぶ。				授業時間に使用したワークシートを見直し、学習内容の習得に努めること。また、指定された家庭学習を行う(1時間)。	
3	説明的文章の方法(1)	知識や情報を伝えるためには、何が重要か理解する。読者をどのように想定するかについて学ぶ。				授業時間に使用したワークシートを見直し、学習内容の習得に努めること(1時間)。	
4	説明的文章の方法(2) ／説明文の製作	言語の抽象化能力とカテゴリー理論について学ぶ。講義をもとにレポート実作①説明文を書く。				授業時間内に書き上げられなかった場合は次週に提出すること(評価は下がるが、採点対象とする)。授業時間に使用したワークシートを見直し、学習内容の習得に努めること(1時間)。	
5	説明文の返却／レポートの基本的構成／発想から文章へ(1)	作成した説明文にコメントを付して返却し、説明文を作成する際の留意点について復習する。また、レポートの基本構成とレポートの種類、及び論点を創出する方法について学ぶ。				授業時間に使用したワークシートを見直し、学習内容の習得に努めること(1時間)。	

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
6	資料の集め方／引用書誌情報の記し方／「問題提起のある文章」の導入	レポート作成に当たって、どのように資料を収集するか学ぶ。また、レポート内に引用する資料について、その引用の方法や書誌情報の記し方について学ぶ。さらに、「問題提起のある文章」の組み立てを理解する。	授業時間に使用したワークシートを見直し、学習内容の習得に努めること(1時間)。
7	引用書誌情報の収集と記載の実践／「問題提起のある文章」の構成	レポート実作②「問題提起のある文章」の作成のための資料収集を進める。具体的な資料収集を実際に行い、書誌情報を書いてみる。また、「問題提起のある文章」のアウトラインを作成する。 *パソコンを持参すること。	レポート実作②「問題提起のある文章」のための文献収集及び作成(1時間)。
8	レポート実作②「問題提起のある文章」の作成に向けての個人指導その1	レポート実作②「問題提起のある文章」の作成に向けて、個人指導を行う。 *パソコンを持参すること。	レポート実作②「問題提起のある文章」のための文献収集及び作成(1時間)。
9	レポート実作②「問題提起のある文章」の作成に向けての個人指導その2	レポート実作②「問題提起のある文章」の作成に向けて、個人指導を行う。 *パソコンを持参すること。	レポート実作②「問題提起のある文章」のための文献収集及び作成(1時間)。
10	レポート実作②「問題提起のある文章」の提出／発想から文章へ(2)／賛否両論を想定する	様々なところから発想した観点を文章に発展させる技法を身につける。賛否両論が可能な文を考えることで、論理的な文章の構築を学ぶ。	授業開始時間までに、レポート実作②「問題提起のある文章」を提出する。 提出できなかった場合は次週提出すること(評価は下がるが、採点対象とする)。授業時間に使用したワークシートを見直し、学習内容の習得に努めること(1時間)。
11	レポートにおける「事実」と「意見」の区別／段落について／中心文と展開文	レポートの記述において、「事実」と「意見」をどのように区別して扱うかについて学ぶ。また、段落とそれを構成する中心文、展開文の概念を理解する。	授業時間に使用したワークシートを見直し、学習内容の習得に努めること(1時間)。
12	他人の文章に対する批判を構築する	他人の文章の論理構造を読み解き、批判を構築する方法を身につける。	授業時間に使用したワークシートを見直し、学習内容の習得に努めること(1時間)。
13	論理的文章の基本	要約の方法を確認する。論文の文体を身につける。	授業時間に使用したワークシートを見直し、学習内容の習得に努めること(1時間)。
14	情報を整理する	データの読み取りの基本を学ぶ。論文の論理構築の方法を理解する。	授業時間に使用したワークシートを見直し、学習内容の習得に努めること(1時間)。
15	問題提起文の返却／敬語と手紙・メール文の基本	作成した「問題提起のある文」を添削して返却するとともに、講評を渡し解説を加える。日常的な言語によるコミュニケーションの訓練として、敬語を学ぶ。	授業時間に使用したワークシートを見直し、学習内容の習得に努めること。 前期の授業全体を振り返り、論理的な文章を書く際の注意点について確認しておく(1時間)。

授業科目	表現技法Ⅱ（討議・発表）A・C Presentation Skills II (Academic Presentation)			担当教員	高木 維		
対象学科・ 年次・学期	看護学科・1年次・後期			選択・必修	必修		
授業形態	演習			単位数	1単位		
学科ディプロ マ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	○	◎					
授業目的	本科目は、大学および社会において求められるプレゼンテーション技術の習得を目的とする。プレゼンテーションの準備段階ではディスカッションを行い、他者の見解や批判を取り込んで考察を進める方法を学習する。また、プレゼンテーションにおいては発表資料を作成し、自分の主張を的確に伝えるための能力を身に着ける。						
到達目標	1. 多人数の前で、説得力のあるプレゼンテーションをするための技術を習得する。 2. 議論を推し進めるために、どのような点に着目すべきかを学習する。 3. 発表内容を的確に資料にまとめる技術を習得する。						
関連科目	1年前期に履修した「表現技法Ⅱ」と密接に関係する。						
テキスト	なし						
参考書	奥田統己、神成洋、佐々木冠、本間徹夫、山崎哲永 共著「読みやすく考えて調べて書く」（学術図書出版） 河野哲也「レポート・論文の書き方入門」（慶應義塾大学出版会）						
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点				
	試験		目標の到達状況を下記の方法で評価する。 提出物・授業態度により総合的に評価する。 ※口頭発表ができない場合は、評価の対象とはならない。 ・提出物（50%）：各種提出課題への取り組み ・授業態度（50%）：ディスカッション・口頭発表会への取り組みの姿勢				
	レポート						
	小テスト						
	提出物	50					
その他	50						
履修上の 留意事項	講義内活動をもとに、段階的にディスカッションや口頭発表会の準備を行う。 そのため、欠席回はTEAMS にアップロードされる講義資料を確認し、自身で学習を進める必要がある。						
課題に対するフィ ードバックの方法	提出物にはコメントを付して返却する。						
実務経験を 活かした教育内容							
回数 (担当)	学習の主題	授業内容				事前・学習	
1	・ガイダンス ・文献調査	・本科目の目的、評価基準 ・図書館・ネットを利用した情報の調べかた				ワークノートを利用し、文献調査を進める（1時間）	
2	・リサーチクエスト ・図表の利用	・リサーチクエストの考えかた・絞り込みかた ・レポートにおける図表の利用のしかた				次回講義時間までに提出課題① 「図表の利用」を完成させ、提出する（1時間）	
3	・資料の作成	・ディスカッションで利用する配布資料の構成 ・リサーチクエストと、現段階での調査結果のまとめかた				調査した内容のなかで特に重要な情報を、wordにまとめる（1時間）	
4	・ディスカッション概要	・一般的なディスカッションの構成と役割 ・ディスカッションの練習				ディスカッション時に配布する資料作成をつづける（1時間）	
5	・ディスカッション①	・現時点での状況調査結果・考察を資料にまとめ、グループでディスカッションを行う				提出課題②「ディスカッション報告書」を作成する（1時間）。	
6	・ディスカッション②	・現時点での状況調査結果・考察を資料にまとめ、グループでディスカッションを行う				提出課題②「ディスカッション報告書」を作成する（1時間）。	
7	・口頭発表会の概要 ・発表資料の作成	・口頭発表会の構成と評価 ・発表時間内に収まる原稿の構成と、作成の手順				ディスカッション資料やワークノートをもとに、発表資料を作成する（1時間）	
8	・原稿の作成	・発表時間内に収まる原稿の構成と、作成の手順				ワークノートをもとに、発表原稿を作成する（1時間）	
9	・質疑応答 ・口頭発表の注意点	・わかりやすい質問の方法と、回答の心がけ ・印象のよいプレゼンテーションに必要な技術				発表原稿の推敲を行う。また、発表資料を完成させる（1時間）	

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・学習
10	・口頭発表会①	・発表時間 4-5 分、質疑応答 5 分までの発表を行う	提出課題③「発表資料」を締切までに提出する。また、発表の練習を行う（1 時間）
11	・口頭発表会②	・発表時間 4-5 分、質疑応答 5 分までの発表を行う	提出課題③「発表資料」を締切までに提出する。また、発表の練習を行う（1 時間）
12	・口頭発表会③	・発表時間 4-5 分、質疑応答 5 分までの発表を行う	発表の練習を行い、本番に備える（1 時間）
13	・口頭発表会④	・発表時間 4-5 分、質疑応答 5 分までの発表を行う	発表の練習を行い、本番に備える（1 時間）
14	・口頭発表会⑤	・発表時間 4-5 分、質疑応答 5 分までの発表を行う	発表の練習を行い、本番に備える（1 時間）
15	・総括	・発表資料と評価の返却 ・前期・後期を通じて「表現技法」で学んだ内容の総括	評価やコメントを読み、発表において注意すべき点を確認する（1 時間）

授業科目	表現技法Ⅱ（討議・発表）B・D Presentation Skills Ⅱ (Academic Presentation)			担当教員	安永 立子		
対象学科・ 年次・学期	看護学科・1年次・後期			選択・必修	必修		
授業形態	演習			単位数	1単位		
学科ディプロ マ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	○	◎					
授業目的	様々な場面で必要とされる「プレゼンテーション力」を養い、人間関係を構築するコミュニケーションのあり方を学習する。また、多人数の前で話す能力を身につけるとともに、的確な情報伝達の方法を学習する。さらに、自分の主張を論理的に表現する方法を学び、複数人による討議を有意義に進行させることができる。						
到達目標	1.日本語による発表や討論のための基本的な方法論を身につける。 2.発話による他人とのコミュニケーションを円滑に行うために、必要な知識を習得する。 3.複数人による討議に際して、論理的な議論を行うことを可能にする。						
関連科目	1年前期に履修した表現技法Ⅰと密接に関係する。						
テキスト	なし						
参考書	授業時間内にその都度紹介する。						
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点				
	試験		目標の到達状況を下記の方法で評価する。				
	レポート		毎回の講義への積極的な参加に対して、4点満点で採点し、60点満点として評価する（3分の1以上の欠席は評価の対象外）。授業内での口頭発表及び、その準備のために作成する課題と事後の振り返り課題をその都度採点し、合計を40点満点に換算して、100点満点で上記の目標の達成度を評価する。なお、授業内で課す口頭発表を実施できなかった場合は評価の対象としない。				
	小テスト		その他：口頭発表、授業への取り組み姿勢				
	提出物	40					
その他	60						
履修上の 留意事項	授業に欠席した場合は、欠席日のワークシートを必ず受け取ること。						
課題に対するフィ ードバックの方法	提出物は適宜添削し、講評を添えて返却する。						
実務経験を 活かした教育内容							
回数 (担当)	学習の主題	授業内容				事前・事後学習	
1	ガイダンス／本科目の 説明と履修上の注意 プレゼンテーションに ついて /適切なテーマ 設定について学ぶ	本科目の目的、学習内容と方法、評価方法と基準、履修上の留意点について、説明する。 プレゼンテーションのテーマについてワークシートを作成する。作業の進め方についてスケジュールを理解する。 *パソコンを持参すること。				事前にシラバスを読み、履修上の疑問点を確認しておく(30分)。 プレゼンテーションのテーマを決定するための調査を行う(30分)。	
2	プレゼンテーションの 構成	プレゼンテーションをどのように組み立てるか理解する。 *パソコンを持参すること。				プレゼンテーション作成に必要な資料を収集する(1時間)。	
3	グループディスカッ ションにむけた準備	グループディスカッションに向けて発表用配布資料の作り方を学ぶ。 *パソコンを持参すること。				グループディスカッションに必要な視覚的資料及び、発表原稿を作成する。(1時間)。	
4	グループディスカッ ションその1	グループに分かれ、それぞれ現時点での発表概要を説明する。グループ内で互いの発表について、討議を行い、プレゼンテーション完成を目指す。 *パソコンを持参すること。				グループディスカッションに必要な視覚的資料及び、発表原稿を作成する。発表後グループディスカッションワークシートを完成させ、次週に提出する(1時間)。	
5	グループディスカッ ションその2	グループに分かれ、それぞれ現時点での発表概要を説明する。グループ内で互いの発表について、討議を行い、プレゼンテーション完成を目指す。 *パソコンを持参すること。				グループディスカッションに必要な視覚的資料及び、発表原稿を作成する。発表後グループディスカッションワークシートを完成させ、次週に提出する(1時間)。	

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
6	プレゼンテーション発表にむけた個人指導その1	プレゼンテーションの作成にあたって、個別の進捗状況を確認し、発表全体の完成を目指す。 *パソコンを持参すること。	
7	プレゼンテーション発表にむけた個人指導その2	プレゼンテーションの作成にあたって、個別の進捗状況を確認し、発表全体の完成を目指す。 *パソコンを持参すること。	プレゼンテーションに必要な視覚的資料及び、発表原稿を作成する。(1時間)。 プレゼンテーション第1週の発表者は発表用配布資料を次週までに提出する。
8	口頭発表の留意点/発表時の質問方法と応答の形式	口頭による発表の特徴と留意点について学習する。また、発表内容に対してどのような質問をするべきか、質問に対しての適切な応答はどのようなものかを学習する。 *パソコンを持参すること。	プレゼンテーションに必要な視覚的資料及び、発表原稿を作成する。(1時間)。 プレゼンテーション第2週の発表者は発表用配布資料を次週までに提出する。
9	実践:プレゼンテーション (1)	視覚資料を使用した口頭発表の実践として、プレゼンテーションを行う。自分の主張を相手に理解してもらった発表のしかたを学ぶ。また、発表を聞いて発表内容についての討議に参加する。	発表者はプレゼンテーションの振り返りシートを作成し、次週に提出。次回発表者は発表用配布資料を提出し、リハーサルをしておくこと。聴講者は発表予定題目について討議に参加するための事前学習を行う(1時間)。
10	実践:プレゼンテーション (2)	視覚資料を使用した口頭発表の実践として、プレゼンテーションを行う。自分の主張を相手に理解してもらった発表のしかたを学ぶ。また、発表を聞いて発表内容についての討議に参加する。	発表者はプレゼンテーションの振り返りシートを作成し、次週に提出。次回発表者は発表用配布資料を提出し、リハーサルをしておくこと。聴講者は発表予定題目について討議に参加するための事前学習を行う(1時間)。
11	実践:プレゼンテーション (3)	視覚資料を使用した口頭発表の実践として、プレゼンテーションを行う。自分の主張を相手に理解してもらった発表のしかたを学ぶ。また、発表を聞いて発表内容についての討議に参加する。	発表者はプレゼンテーションの振り返りシートを作成し、次週に提出。次回発表者は発表用配布資料を提出し、リハーサルをしておくこと。聴講者は発表予定題目について討議に参加するための事前学習を行う(1時間)。
12	実践:プレゼンテーション (4)	視覚資料を使用した口頭発表の実践として、プレゼンテーションを行う。自分の主張を相手に理解してもらった発表のしかたを学ぶ。また、発表を聞いて発表内容についての討議に参加する。	発表者はプレゼンテーションの振り返りシートを作成し、次週に提出。次回発表者は発表用配布資料を提出し、リハーサルをしておくこと。聴講者は発表予定題目について討議に参加するための事前学習を行う(1時間)。
13	実践:プレゼンテーション (5)	視覚資料を使用した口頭発表の実践として、プレゼンテーションを行う。自分の主張を相手に理解してもらった発表のしかたを学ぶ。また、発表を聞いて発表内容についての討議に参加する。	発表者はプレゼンテーションの振り返りシートを作成し、次週に提出。次回発表者は発表用配布資料を提出し、リハーサルをしておくこと。聴講者は発表予定題目について討議に参加するための事前学習を行う(1時間)。
14	実践:プレゼンテーション (6)	視覚資料を使用した口頭発表の実践として、プレゼンテーションを行う。自分の主張を相手に理解してもらった発表のしかたを学ぶ。また、発表を聞いて発表内容についての討議に参加する。	発表者はプレゼンテーションの振り返りシートを作成し、次週に提出。聴講者は発表予定題目について討議に参加するための事前学習を行う(1時間)。
15	後期授業全体のまとめと反省	プレゼンテーションの発表原稿、振り返りシート等を添削して返却するとともに、講評を渡し解説を加える。	後期の講義全体を振り返り、発表・討議の際に注意すべき点を確認しておく(1時間)。

授業科目	心理学 Psychology		担当教員	安念 保昌				
対象学科・年次・学期	看護学科・1年次・前期		選択・必修	必修				
授業形態	講義		単位数	2単位				
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
	○	○	◎	○				
授業目的	人が関わる場所のすべてに、様々な心理学が存在している。心理学の歴史や基礎から始まって、人の行動や心理を科学的な視点で構造化する多様な心理学を紹介していく。そして、だんだんと、医療現場に関わる心理学を展開していく。看護職は、厳格に医学的な治療と、病気で不安を抱えている患者の間を取り持つ重要な立場にあるが、とりわけ、患者の気持ちを受容し、不安な心に寄り添うことが求められる。そういったことに役立てられるような心理学を目指す。							
到達目標	心のメカニズムを客観的な方法によって知ることの重要性を理解し、看護場面における応用について学ぶ。 1) 心理学の基本的なものの考え方を理解する。 2) それぞれの領域の中で、行動や心がどの様に捉えられているのかを理解する。 3) 毎回の内容に関するワークシートや、Miro などを利用したグループワークや簡単な実験調査などを通して体験的に理解する。 4) それを簡潔なレポートにまとめる。復習は、この簡潔なレポートを作成することにある。							
関連科目	生涯発達論							
テキスト	前もって配信される授業資料							
参考書	適宜紹介する。 下山晴彦,他(編著)「心理学事典」(誠心書房) 2014 長田久雄(編著)「看護学生のための心理学(第2版)」(医学書院) 2015							
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点					
	試験	40	毎回復習として課されるワークシートにて、授業内容のエッセンスを自分のエピソード記憶と融合させ、文章化し提出してもらう。またその総まとめとして、定期試験を行う。それらをワークシート:定期試験=6:4で評価する。					
	レポート							
	小テスト							
	提出物	60						
その他								
履修上の留意事項	前もって配信される授業資料に、授業前に目を通して、授業中は、3色ボールペンを使ってノートを取る。主な授業内容は黒、重要な点は赤、自分で思いついた点は青で書く。							
課題に対するフィードバックの方法	授業冒頭、前回提出されたワークシートの回答にコメントしながら、復習する時間を設ける。 試験の採点后、試験問題に関して、授業の流れの中でどの部分から出たのか、またそれについて解説した文書を、Teamsで配信する。							
実務経験を活かした教育内容								
回数(担当)	学習の主題	授業内容					事前・事後学習	
1	心理学は何のために学ぶのか	心理学の基礎、研究対象・領域					事前：配信される授業資料を予習する(2時間)。事後：授業後ワークシートにて復習を行う(2時間)。	
2	心理学の歴史の変遷	心身二元論、内観法、精神分析、ゲシュタルト、行動主義、認知科学					事前：配信される授業資料を予習する(2時間)。事後：授業後ワークシートにて復習を行う(2時間)。	
3	比較心理学	心の起源、脳の進化、言語進化					事前：配信される授業資料を予習する(2時間)。事後：授業後ワークシートにて復習を行う(2時間)。	
4	感覚知覚心理学	感覚知覚の原理、心と行動、視知覚と神経系、閾の概念					事前：配信される授業資料を予習する(2時間)。事後：授業後ワークシートにて復習を行う(2時間)。	
5	注意の心理学	2つのタイプの注意、小実験、注意の2過程説、閾下刺激					事前：配信される授業資料を予習する(2時間)。事後：授業後ワークシートにて復習を行う(2時間)。	

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
6	学習心理学	学習の意味、学習の基本形	事前：配信される授業資料を予習する(2時間)。事後：授業後ワークシートにて復習を行う(2時間)。
7	感情心理学	生理説、認知説、動機・欲求	事前：配信される授業資料を予習する(2時間)。事後：授業後ワークシートにて復習を行う(2時間)。
8	認知心理学	認知心理学への歴史、計算可能性と心的過程	事前：配信される授業資料を予習する(2時間)。事後：授業後ワークシートにて復習を行う(2時間)。
9	記憶の心理学	記憶の成り立ち、意味記憶、エピソード記憶、手続き記憶	事前：配信される授業資料を予習する(2時間)。事後：授業後ワークシートにて復習を行う(2時間)。
10	言語心理学	言葉の成り立ち、コミュニケーションと心の理論	事前：配信される授業資料を予習する(2時間)。事後：授業後ワークシートにて復習を行う(2時間)。
11	性格心理学	類型論と特性論、バーナム効果、パーソナリティ障害	事前：配信される授業資料を予習する(2時間)。事後：授業後ワークシートにて復習を行う(2時間)。
12	臨床心理学	心理的援助の構造、場、時間、面接の技法	事前：配信される授業資料を予習する(2時間)。事後：授業後ワークシートにて復習を行う(2時間)。
13	カウンセリング(1)	精神分析学、来談者中心療法、交流分析	事前：配信される授業資料を予習する(2時間)。事後：授業後ワークシートにて復習を行う(2時間)。
14	カウンセリング(2)	認知行動療法、家族療法、システムズアプローチ	事前：配信される授業資料を予習する(2時間)。事後：授業後ワークシートにて復習を行う(2時間)。
15	健康心理学	ストレス、学習性無力症、レジリエンス、自己効力感、バーンアウト	事前：配信される授業資料を予習する(2時間)。事後：授業後ワークシートにて復習を行う(2時間)。

授業科目	倫理学 Ethics		担当教員	村上 友一			
対象学科・年次・学期	看護学科・1年次・前期		選択・必修	必修			
授業形態	講義		単位数	1単位			
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	◎	○					
授業目的	社会の一員として責任ある行動をとらうる自己を形成するために、倫理的な思考力を形成する。また、将来的に直面しうる諸問題に対応するための情報収集力・論理的思考力を養うとともに、そうした問題を言語化するだけの表現力を身につける。						
到達目標	1.決定主体である自己の成立基盤を理解する。 2.倫理的な問題に対して自分自身で考える力を養成する。 3.自分自身の考えを正しく表現する力を養い、コミュニケーション能力の向上をはかる。						
関連科目	1年後期で学修する「法と人権」、2年前期の「生命倫理」、3年後期「看護倫理」につながる科目である。						
テキスト	特に指定しない。						
参考書	授業内で紹介する。						
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点				
	試験		目標の到達状況を下記の方法で評価する。 レポート 50%、提出物 25%、その他 25%によって評価する。なお、その他には、「事前学習・事後学習」が含まれる。				
	レポート	50					
	小テスト						
	提出物	25					
その他	25						
履修上の留意事項	本講義では自分で考え、それを文章化する時間を設ける（上記、提出物）。この時間は私語を認めるので、友人とのコミュニケーションを通して自分の考えを深めて欲しい。講義がすべて終了した後にレポートが課される。						
課題に対するフィードバックの方法	課題へのフィードバックは期末レポートのみ行う（提出先の moodle において）。						
実務経験を活かした教育内容							
回数 (担当)	学習の主題	授業内容				事前・事後学習	
1	ガイダンス	生命倫理や現代社会において重視される自己決定権の背後に自由主義があることを確認する。				事前学習：自己決定権について自らの見識を言語化しておく。（1時間） 事後学習：講義で扱った問題について理解を深めるために学習課題を提示する。受講者は自ら情報収集・考察し、一定の字数にまとめなければならない。(3時間)	
2	自由主義の帰結	自由主義を突き詰めると、社会規範の多くが浸食されるほか、いくつかの問題が生じることを確認する。				事前学習：自由主義について自らの見識を言語化しておく。（1時間） 事後学習：講義で扱った問題について理解を深めるために学習課題を提示する。受講者は自ら情報収集・考察し、一定の字数にまとめなければならない。(3時間)	
3	自由主義と臓器売買	リバタリアニズムの立場からは容認されてしまう臓器売買、その実態を見ることにより、自由主義の負の側面を考察する。				事前学習：臓器売買について自らの見識を言語化しておく。（1時間） 事後学習：講義で扱った問題について理解を深めるために学習課題を提示する。受講者は自ら情報収集・考察し、一定の字数にまとめなければならない。(3時間)	
4	カントのリバタリアニズム批判	カントの哲学的立場から「自由主義」を批判的に見たときに、何が得られ、何が失われるかを見ておく。				事前学習：哲学者カントについて調べる（理解は求めない）（1時間） 事後学習：講義で扱った問題について理解を深めるために学習課題を提示する。受者は自ら情報収集・考察し、一定の字数にまとめなければならない。（3時間）	

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
5	自由をめぐる実践的考察	リバタリアニズムやカント主義のように極端に走るのではなく、われわれの生活実践から自由主義を再構築する。	事前学習：とくに求めない。他の科目を1時間多く勉強してください。 事後学習：講義で扱った問題について理解を深めるために学習課題を提示する。受講者は自ら情報収集・考察し、一定の字数にまとめなければならない。(3時間)
6	自己決定の成立基盤としての平等	リバタリアンが考えるように平等が自由を破壊するのではなく、むしろ平等が自由を保障することを確認する。	事前学習：とくに求めない。他の科目を1時間多く勉強してください。 事後学習：講義で扱った問題について理解を深めるために学習課題を提示する。受講者は自ら情報収集・考察し、一定の字数にまとめなければならない。(3時間)
7	平等概念の再検討	平等概念は複雑であるので、これを分析・整理する。また、いくつかの事例について考えることを通して、平等と不平等の理解を深める。	事前学習：平等について自分がどのようなイメージを抱いているかを言語化しておく。(1時間) 事後学習：講義で扱った問題について理解を深めるために学習課題を提示する。受講者は自ら情報収集・考察し、一定の字数にまとめなければならない。(3時間)
8	自己と共同体の関係を問い直す	自己決定の主体である個人がどのような存在であるのかを、これまでの考察を整理しつつ説明していく。インフォームド・コンセントの主体となるべき個人のあり方を明確にし、それによってインフォームド・コンセントを別の角度からとらえる視点を提供する。	事前学習：「自己形成」「アイデンティティ」について調べ、講義に備える(1時間) 事後学習：講義で扱った問題について理解を深めるために学習課題を提示する。受講者は自ら情報収集・考察し、一定の字数にまとめなければならない。(3時間)

授業科目	現代社会論 Issues in Modern Society		担当教員	翁 康健			
対象学科・年次・学期	栄養学科・2年次・前期 看護学科・1年次・前期		選択・必修	必修			
授業形態	講義		単位数	2単位			
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	○	○	◎	○			
授業目的	激変し続ける現代社会において、その変化に主体的に対応する必要がある。現代を生きる、医療人としての最低限の社会的常識を理解することがこの授業の目的である。						
到達目標	1.現代社会の諸問題を理解し、自らの対処法が模索できる。 2.地域社会・家族・学校など身近な制度の仕組みを理解し、問題を発見し、対処法を模索できる。 3.現代社会を動かす仕組みを理解し、その対処方法を模索できる。						
関連科目	「国際社会論」は現代社会論の発展科目として、履修することをお勧めします。						
テキスト	特に指定しない。適宜プリントを配布する。						
参考書	1. 櫻井義秀・飯田俊郎・西浦功編「アンビシャス社会学」(北海道大学出版会) 2. 櫻井義秀編「ウェルビーイングの社会学」(北海道大学出版会)						
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点				
	試験		レポート (50%) と講義内で実施するミニ・レポート (50%) から目標の到達状況を評価する。				
	レポート	50					
	小テスト						
	提出物	50					
その他							
履修上の留意事項	・ 講義中に他の受講者の妨げとなる行為があった場合、講義室からの退出を命じることがある。 ・ 講義の進捗状況によって講義計画を変更する場合がある。						
課題に対するフィードバックの方法	各回講義末尾に質疑応答の時間を設ける。加えて、講義後にもミニレポートを通じて意見・感想・疑問点の提出を求める。講義で取り上げることが適切と判断されるものについては、各回講義の冒頭(あるいは末尾)で紹介し、口頭で解説・回答するとともに、必要に応じて適宜資料を作成・配布することとする。						
実務経験を活かした教育内容							
回数(担当)	学習の主題	授業内容				事前・事後学習	
1	「社会学」の概観と社会調査	・ 講義の概要、方法、評価の説明 ・ 現代社会の捉え方(社会的な視点) ・ 社会調査倫理				・ 事前学習: シラバスを確認し、授業の全体の内容を把握すること(2時間) ・ 事後学習: 社会学の中で関心のある話題や、授業で学びたいテーマを考えてみる(2時間)	
2	人間の行為と相互行為を理解する	・ アイデンティティと役割 ・ 社会構造と社会的行為 ・ 逸脱行動と社会変動				・ 事前学習: 第2回講義資料「人間の行為と相互行為を理解する」を確認し、学習範囲を把握しておくこと(2時間) ・ 事後学習: 人間の行為と相互行為のメカニズムについて、自分なりに説明をしてみる(2時間)	
3	家族: 家族関係の変容	・ 家族の制度と形態 ・ 家族の機能と役割 ・ 現代家族の課題と包摂の可能性				・ 事前学習: 第3回講義資料「家族: 家族関係の変容」を確認し、学習範囲を把握しておくこと(2時間) ・ 事後学習: 家族関係の類型および変容について、講義から理解したことをまとめること(2時間)	
4	教育: 学歴社会と文化的再生産	・ 学校教育の機能 ・ 文化的再生産 ・ 「平等」と教育				・ 事前学習: 第4回講義資料「教育: 学歴社会と文化的再生産」を確認し、学習範囲を把握しておくこと(2時間) ・ 事後学習: 社会学の視点から教育を説明してみる(2時間)	

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
5	労働：非正規雇用と若者の就職問題	<ul style="list-style-type: none"> ・雇用労働の成立と生き方の変容 ・職場で経験する労働の諸側面 ・企業構造転換とグローバル化の中の労働 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習：第 5 回講義資料「労働：非正規雇用と若者の就職問題」を確認し、学習範囲を把握しておくこと（2 時間） ・事後学習：労働に関わる問題の例を考え、まとめること（2 時間）
6	階層と階級：格差と社会的排除	<ul style="list-style-type: none"> ・人間社会の歴史と身分・階級・階層 ・日本の社会階層 ・貧困と社会的公正 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習：第 6 回講義資料「階層と階級：格差と社会的排除」を確認し、学習範囲を把握しておくこと（2 時間） ・事後学習：階層と階級の相違点を説明してみる（2 時間）
7	ジェンダーとセクシュアリティ：フェミニズムと LGBT	<ul style="list-style-type: none"> ・ジェンダー、セクシュアリティのはたらき ・フェミニズムと LGBT ・社会生活の維持と再生産ケアとリプロダクション 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習：第 7 回講義資料「ジェンダーとセクシュアリティ：フェミニズムと LGBT」を確認し、学習範囲を把握しておくこと（2 時間） ・事後学習：セクシュアルマイノリティが直面している問題の例を考え、まとめること（2 時間）
8	政治と社会運動：受益圏・受苦圏のジレンマ	<ul style="list-style-type: none"> ・誰が、なぜ運動を起こすのか？ ・社会運動研究の歴史 ・社会運動のいろいろ 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習：第 8 回講義資料「政治と社会運動：受益圏・受苦圏のジレンマ」を確認し、学習範囲を把握しておくこと（2 時間） ・事後学習：政治と社会運動のメカニズムについて、自分なりに説明をしてみること（2 時間）
9	グローバル化：トランスナショナルとエスニシティ	<ul style="list-style-type: none"> ・グローバル化と国民国家 ・グローバル化と社会変容—経済・政治・文化 ・グローバル化時代を生き抜くために 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習：第 9 回講義資料「グローバル化：トランスナショナリズムとエスニシティ」を確認し、学習範囲を把握しておくこと（2 時間） ・事後学習：グローバル化のメリットとデメリットを考え、まとめること（2 時間）
10	メディアとコミュニケーション：情報社会の光と影	<ul style="list-style-type: none"> ・メディアとは何か ・メディアで読み解く現代社会 ・ネット誹謗中傷とインスタ映え 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習：第 10 回講義資料「メディアとコミュニケーション：情報社会の光と影」を確認し、学習範囲を把握しておくこと（2 時間） ・事後学習：メディア社会のメリットとデメリットを考え、まとめること（2 時間）
11	宗教：宗教の社会貢献	<ul style="list-style-type: none"> ・宗教とは ・さまざまな宗教 ・宗教と社会 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習：第 11 回講義資料「宗教：宗教の社会貢献」を確認し、学習範囲を把握しておくこと（2 時間） ・事後学習：宗教の社会的役割について、講義から理解したことをまとめること（2 時間）
12	少子高齢社会：子育て支援と高齢者介護	<ul style="list-style-type: none"> ・少子高齢社会の実像 ・少子高齢化と保健・医療・福祉 ・これからの地域戦略 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習：第 12 回講義資料「少子高齢社会：子育て支援と高齢者介護」を確認し、学習範囲を把握しておくこと（2 時間） ・事後学習：少子高齢社会の問題点を、考えてまとめること（2 時間）
13	社会福祉：医療と社会保障	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉国家の成立 ・福祉国家の危機 ・多様な福祉モデルの展開 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習：第 13 回講義資料「社会福祉：医療と社会保障」を確認し、学習範囲を把握しておくこと（2 時間） ・事後学習：日本の社会福祉の特徴を整理し、まとめること（2 時間）
14	地域社会とソーシャル・キャピタル：結束型と橋渡し型	<ul style="list-style-type: none"> ・地域コミュニティの必要性和可能性 ・都市的生活様式 ・健康・医療・コミュニティとソーシャル・キャピタル 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習：第 14 回講義資料「地域社会とソーシャル・キャピタル：結束型と橋渡し型」を確認し、学習範囲を把握しておくこと（2 時間） ・事後学習：地域社会づくりの設計について、考えてみる（2 時間）
15	全体のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・全体のまとめ ・期末レポートの案内 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習：第 15 回講義資料「全体のまとめ」を確認し、これまでの学習内容を整理すること（2 時間） ・事後学習：15 回分の講義資料を確認し、全体の復習を行うこと（2 時間）

授業科目	生態学 Ecology			担当教員	立澤 史郎		
対象学科・年次・学期	看護学科/栄養学科・1 年次・前期			選択・必修	選択		
授業形態	講義			単位数	1 単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
		○	◎	○			
授業目的	ヒトを含む生物と環境の関係および様々な環境問題について科学的・客観的に理解するために、生態学の基本概念と身近な事例を学ぶ。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「2つの自然」「3つの生態学」について理解し説明できる。 ・関心のある地球環境問題について生態学的観点から説明することができる。 						
関連科目	生物学 A・B、情報リテラシー、生活環境論、生命倫理						
テキスト	ありません。						
参考書	1.日本生態学会編「生態学入門 [第 2 版] (東京化学同人) 2.鷲谷いづみ, 矢原徹一著「保全生態学入門—遺伝子から景観まで」(文一総合出版)						
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点				
	試験		目標の到達状況を毎回のコメントペーパー、レポート、および受講状況を合わせて総合的に評価します。 レポート 40% 提出物 40%：コメントペーパー その他 20%：受講態度など				
	レポート	40					
	小テスト						
	提出物	40					
その他	20						
履修上の留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・高校「生物」教科書（特に生態・環境の項）を読み返しておくことが望ましい。 ・講義の内容および順序は受講生の理解度や関心等により変更する場合があります。 						
課題に対するフィードバックの方法	課題の達成度に応じた説明や情報の追加を授業内で行います。また個別の質問にも対応します。						
実務経験を活かした教育内容	国内外で地域住民・動物・生態系の one-health をめざして行っているプロジェクト等の内容を授業に反映させます。						
回数 (担当)	学習の主題	授業内容				事前・事後学習	
1	暮らしと生態学 (ナチュラルヒストリー基礎)	ヒトを含め生物が環境との相互作用の中で生きていること、それゆえ人・生物・環境の三者のバランス (one-health) が重要であることを理解する。生物の生きざま (生活史) を知る手法として生活痕跡 (フィールドサイン) の見方を学ぶ。				事前学習：過去に学んだ「進化」「適応」について復習しておくこと。(3~4 時間)	
2	鹿学 (かがく) 入門 (ナチュラルヒストリー応用)	生物が環境といかにかかわりあいながら生活しているか、その結果としてどのように多様化しているか、“シカ”を例に学ぶ。				事前学習：身の回りで「野生動物」についてどのようなニュースがあるか調べてみる。(3~4 時間)	
3	個体群生態学 1 (基礎)	個体数の変動過程やその要因に関する基礎概念を学ぶ。またそれが、人口問題の理解や鳥獣害問題の解決・軽減につながることを理解する。				事前学習：身の回りやメディアで見聞きする人口問題に関する記事・ニュースをよく読んでおくこと。(3~4 時間)	
4	個体群生態学 2 (応用：人口問題と鳥獣害)	個体群生態学 (個体数変動) の研究例を学ぶ。また応用事例として、人口問題や鳥獣害問題について学ぶ。				事前学習：身の回りやメディアで見聞きする鳥獣害問題に関するニュースをよく読んでおくこと。(3~4 時間)	
5	群集生態学 1 (基礎)	生物群集 (種数) の変化や生物多様性に関する基礎概念を学ぶ。またそれらが外来種問題と関係していることを理解する。				事前学習：身の回りやメディアで見聞きする生物多様性に関するニュースをよく読んでおくこと。(3~4 時間)	
6	群集生態学 2 (応用：生物多様性と外来種問題)	群集生態学の応用事例として、生物多様性保全の問題と外来種問題について学ぶ。				事前学習：身の回りやメディアで見聞きする外来生物に関するニュースをよく読んでおくこと。(3~4 時間)	

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
7	生態系生態学 1 (基礎)	生態系における物質やエネルギーの循環について学ぶ。またそれが、人類の生存環境の問題と関わることを理解する。	事前学習：身の回りやメディアで見聞きする生態系に関するニュースをよく読んでおくこと。(3~4 時間)
8	生態系生態学 2 (応用： 食物連鎖と生態濃縮)	生態系生態学の応用事例として、食物連鎖と生態濃縮について学ぶ。またそれらの視点を持つことで、人類が自らの生存環境にどのような影響を与えてきたか理解する。	事前学習：身の回りやメディアで見聞きする環境・公害問題に関するニュースをよく読んでおくこと。(3~4 時間)

S

授業科目	スポーツ科学と運動 Sports Science and Exercise			担当教員	大浦 浩		
対象学科・年次・学期	看護学科・1年次・前期			選択・必修	選択		
授業形態	演習			単位数	1単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	◎	○		○			
授業目的	本授業は、身体を動かすことを通し、スポーツの楽しさ、仲間とのコミュニケーション、自他の体調の変化の「気づき」などを知り、社会生活に必要な「協調性」やあらゆる場面に自ら対応していく「積極性」を身につけることを目的とします。						
到達目標	医療人として豊かな人間性、社会生活に必要なマナーや社会性を身につける。						
関連科目	中学レベルの保健体育理論の知識を基盤とするので各自復習しておいてください。						
テキスト	特になし						
参考書	特になし						
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点				
	試験		実技参加への意欲・積極性と受講態度、安全性の評価と技能評価を総合して評価する。(70%) また課題を期限内に提出する事とする。(30%)				
	レポート						
	小テスト						
	提出物	30					
その他	70						
履修上の留意事項	全授業回数の 2/3 以上の出席回数が必要。安全にスポーツを行う為に運動着、運動しやすい靴を着用すること。土足厳禁。感染防止対策として、マスクの着用。時間厳守。授業中の無断退室・飲食・勝手な行動を禁ずる。規則厳守。シラバスに記載されているスポーツ種目の順番、実施回数、種目等は履修者人数によって変更する場合ある。各時間、予習復習時間は 60 分程度。						
課題に対するフィードバックの方法	課題提出物には評価を付けて返却します。 A～C 評価は再提出なし。D 評価は再提出してもらいます。						
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、ポッチャなど講義に織り交ぜながら、インクルーシブ教育について理解しやすいように授業を行います。						
回数 (担当)	学習の主題	授業内容				事前・事後学習	
1	ガイダンス レクリエーション	授業内容と目的、授業内容の構成、受講の諸注意の説明、評価方法について理解する。 軽い運動で身体をほぐす。				シラバスを読む。実技授業に参加できるだけの基礎体づくりと健康管理を日頃から心がける。軽い運動が出来るような服装をすること。	
2	ソフトバレーボール①	基本ルールについて ボール操作とコントロール				ソフトバレーボールを文献やインターネットなどで予習	
3	ソフトバレーボール②	基本練習～攻撃編				ソフトバレーボールを文献やインターネットなどで復習(課題提出①)	
4	ソフトバレーボール③	基本練習～守備編				ソフトバレーボールを文献やインターネットなどで復習(課題提出②)	
5	ソフトバレーボール④	リーグ戦①				ソフトバレーボールを文献やインターネットなどで復習(課題提出③)	
6	ソフトバレーボール⑤	リーグ戦②				ソフトバレーボールを文献やインターネットなどで復習(課題提出④)	
7	ソフトバレーボール⑥	リーグ戦③				ソフトバレーボールを文献やインターネットなどで復習(課題提出⑤)	
8	バドミントン①	各ストロークの基本練習① ハーフコートでシングルスゲーム練習				バドミントンを文献やインターネットなどで予習	

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
9	バドミントン②	各ストロークの基本練習② ハーフコートでシングルスゲーム練習	バドミントンを文献やインターネットなどで復習（課題提出⑥）
10	バドミントン③	ルールの説明 ダブルスゲーム	バドミントンを文献やインターネットなどで復習（課題提出⑦）
11	バドミントン④	ダブルスゲーム	バドミントンを文献やインターネットなどで復習（課題提出⑧）
12	バドミントン⑤／生涯スポーツ（ポッチャ①）	生涯スポーツについて説明、ポッチャのルール説明	文献やインターネットなどで予習
13	バドミントン⑥／ポッチャ②	ダブルスゲーム	バドミントンとポッチャについて文献やインターネットなどで復習（課題提出⑨）
14	バドミントン⑦／ポッチャ③	ダブルスゲーム	バドミントンとポッチャについて文献やインターネットなどで復習（課題提出⑩）
15	まとめ	ソフトバレーボール、バドミントンゲーム	半期で実施した各実技種目等の復習

授業科目	スポーツ理論 Sports Theory			担当教員	大浦 浩		
対象学科・年次・学期	看護学科/看護学科・1年次・後期			選択・必修	選択		
授業形態	講義			単位数	1単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
		○		◎			
授業目的	看護師・養護教諭・保健師・栄養士・管理栄養士は、患者・生徒・クライアント等の健康を預かる大切な役割を担っている。そして、その健康の保持増進に影響を及ぼすとされるのが運動（スポーツ）である。本科目では、健康を含めた対象者の QOL に大きく関わる運動やスポーツについて自ら学び体験し、知識を構築するだけでなく、自身の運動習慣確立の第一歩とする事を目的とする。						
到達目標	1. 「健康とスポーツ（体力）との関連」や「栄養と睡眠」について理解する。 2. 「心身のつながりとスポーツとの関連」や「動機づけ」のメカニズムについて理解する。 3. 「トレーニング理論」と「運動プログラムの組み方」や「コンディションのセルフチェック法」について理解する。 4. 「スポーツを取り巻く社会変化」について理解する。						
関連科目	中学レベルの保健体育理論の知識を基盤とするので各自復習しておいてください。						
テキスト	プリントを配布						
参考書	1. 杉原隆著「運動指導の心理学」（大修館書店） 2. (特非) 日本トレーニング指導者協会編著「JATI トレーニング指導者テキスト【理論編】」（ベースボールマガジン社） 3. (特非) 日本トレーニング指導者協会編著「JATI トレーニング指導者テキスト【実践編】」（ベースボールマガジン社）						
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点				
	試験	100	目標の到達状況を受験条件（講義出席回数 2/3 以上）を満たした学生に対し、筆記試験にて 100%評価する。				
	レポート						
	小テスト						
	提出物						
その他							
履修上の留意事項	他者の学習の妨げとなるような私語や携帯電話の使用、飲食等を禁じる（飲み物は蓋付のもので、飲む時以外は机の上に置かなければ可）。禁止行為に対しては注意・指摘するが、改善が見られない場合は途中退室を命じることがある。大学生として節度ある受講態度を心掛けつつ、受講者間において講義内容に関する自由闊達な議論が展開されることを望む。尚、シラバスに記載されている内容や順番は状況により変更する場合がある。各授業の前後に3～4時間の予習・復習を要する。						
課題に対するフィードバックの方法	まとめの確認レポートについては、翌週の授業時に返却し解答・解説をする。						
実務経験を活かした教育内容							
回数(担当)	学習の主題	授業内容				事前・事後学習	
1	・ガイダンス ・「こころとからだ」のつながり	講義の目的と内容構成、受講の諸注意、評価方法、講義の進め方について理解する。 スポーツ理論を学ぶ上で基本となる「心身の関連」について理解する。				シラバスを読む。	
2	・スポーツと動機づけについて	いわゆる“モチベーション”の正体を知り、その維持向上のメカニズムを学習する。スポーツ活動における成功（失敗）体験が人に及ぼす影響や自己コントロール法について理解する。				「やる気」と「モチベーション」の違いを理解し、自分の精神を自己コントロールする訓練を行う。	
3	・フィードバックについて	運動学習における「フィードバック構造」について学習し、運動上達のメカニズムを理解する。フィードバックの効用を実験を通して体感する。				フィードバックを、自己の向上だけでなく、他者とのコミュニケーションにも活用する。	
4	・コーチングについて	コーチングの基礎を学習し、医療従事者、運動指導者に限らず、誰もが一度は遭遇する「他者を“コーチング”する場面」で力を発揮できるように準備する。				学習したコーチングスキルを日常生活で使えるようになる。	
5	・コンディショニングの基本について	より良いスポーツ活動のために必要なコンディショニングは、心身のセルフチェックを行うことから始まる。				自身の状態を確認し、以降のトレーニングにつなげる。	

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
6	・トレーニング理論と運動処方について	トレーニングの原則（運動 - 栄養 - 休養（超回復））について学習し、トレーニング計画作成の基本を理解する。	簡単なトレーニングメニューの作成や、一定期間のトレーニング計画の立案をする。
7	・各年代の体力特性および適正な運動処方について	年代別の体力特性について触れ、ジュニア期を中心に、人の発育発達に応じた適切な運動選択の方法について学習する。	”いつ“、“何”を基準に、“どのような”運動を行えば良いのかを考え、理解する。
8	・スポーツと社会（オリンピック、ドーピング、人種、DNA） ・総括	スポーツに纏わる様々な社会問題を通して、今後のスポーツ界はどうなっていくのか、56年ぶりの自国開催となった「東京五輪 2020」を振り返りながら考察する。	オリンピックの歴史やスポーツ界の闇について知り、未来のスポーツ界について思いをはせる。

授業科目	法と人権 Law and Human Rights		担当教員	神元 隆賢			
対象学科・年次・学期	看護学科/栄養学科・1年次・後期		選択・必修	選択			
授業形態	講義		単位数	2単位			
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	◎	○	◎	○			
授業目的	わが国の基礎法にしてすべての法律の根本を定義する根本規範である日本国憲法の内容は、総論、人権保障、統治機構に分けられる。この授業は、第1～11回では人権保障に関する問題をとりあげ、具体的事例を踏まえて学習することにより、社会生活を営むうえで必要な人権の基礎知識と法的思考を身につけることを目的とする。第12～14回では医療と人権に関する諸問題を学習することにより、「食」という人の健康の根本に携わる者として必要な法知識を身につけることを目的とする。						
到達目標	1.日本国憲法のうちの人権論に関する主要な判例および学説を理解したうえで、社会や世論で問題（話題）とされている事象について、現代憲法学の観点から議論をすることができる。 2.医療人としての職務と人権、そして法との関わりを、具体的な事例を通じて理解したうえで、法的・倫理的課題を克服するための一つの視角を得る。						
関連科目	1年前期で学修する「倫理学」、後期の「関係法規」、3年前期「医療安全論」につながる科目である。						
テキスト	初宿正典他「いちばんやさしい憲法入門（第6版）」（有斐閣アルマ、2020年）						
参考書	1.芦部信喜（高橋和之補訂）「憲法（第7版）」（岩波書店、2019年） 2.戸松秀典「憲法」（弘文堂、2015年）						
評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準・観点				
	試験	60	原則、この授業は対面で実施するが、コロナ禍により困難である場合にはオンライン授業で実施する。授業期間中にコロナ感染状況が変化し、対面授業とオンライン授業が切り替わった場合には、評価方法はオンライン授業のものを採用する。評価基準は、試験・レポートでは、文章の完成度と、私見を理論的に論述できるかという理論構成力を重視する。小テストでは、人権にかかる基本的知識の習得度を重視する。 【対面授業】2/3以上への出席を必要条件とし、宿題型のレポート、授業15回目に実施する小テスト、学期末の試験によって成績を評価する。評価割合は左記参照。試験を受験しなかった場合は、評価の対象としない。追試験は実施するが、レポート・小テストの提出延長はコロナ隔離等の特段の事情がなければ認めない。 【オンライン授業】授業15回目で宿題型レポートを課し、その点数のみ（100%）で評価する。レポートの提出延長はコロナ隔離等の特段の事情がなければ認めない。				
	レポート	20					
	小テスト	20					
	提出物						
	その他						
履修上の留意事項	【対面授業】PowerPointと教科書を併用し、授業前日までにMicrosoft TeamsにてPowerPointデータをエクスポートしたPDFファイルを配布する。 【オンライン授業】MP4動画とPDFファイルをMicrosoft Teamsにて配布する。 担当教員への連絡はkanmoto@hgu.jpまで。						
課題に対するフィードバックの方法	レポートについてはすべてにコメントを返す。小テスト、定期試験については模範解答及び講評をMicrosoft Teamsにて後日公開する。						
実務経験を活かした教育内容							
回数(担当)	学習の主題	授業内容				事前・事後学習	
1	ガイダンス、法学入門(1)	・授業の概要、方法、成績評価方法の説明 ・法とは何か				事前：シラバスを読んでおく（30分）。 事後：自分の考えをノートにまとめる（1時間30分）。	
2	法学入門(2)	・憲法、民法、刑法の機能 ・判例と学説				事前：とくになし。 事後：自分の考えをノートにまとめる（2時間）	
3	外国人の権利	・外国人に参政権（選挙権、被選挙権）を認める余地はあるか				事前：テキストの「Theme2」を読む（1時間）。 事後：自分の考えをノートにまとめる（1時間）。	

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
4	プライバシー権	・プライバシー権保護の重要性 ・名誉毀損とは ・「宴のあと」事件	事前：テキストの「Theme3」を読む（1時間）。 事後：自分の考えをノートにまとめる（1時間）
5	表現の自由（1）プライバシー権との調和	・名誉毀損における真実性の証明による不処罰	事前：テキストの「Theme3」と前回のレジュメ・ノートを読む（1時間）。 事後：自分の考えをノートにまとめる（1時間）
6	表現の自由（2）ポルノの権利	・わいせつ文書等頒布罪 ・許容される性表現の限界	事前：テキストの「Theme8」を読む（1時間）。 事後：自分の考えをノートにまとめる（1時間）
7	法の下での平等	・平等権の意味 ・尊属殺人罪違憲判決事件	事前：テキストの「Theme5,6」を読む（1時間）。 事後：自分の考えをノートにまとめる（1時間）
8	信教の自由	・神戸高専剣道実技拒否事件 ・オウム真理教解散命令事件	事前：テキストの「Theme7」を読む（1時間）。 事後：自分の考えをノートにまとめる（1時間）
9	生存権	・「健康で文化的な最低限度の生活」とは	事前：テキストの「Theme11」を読む（1時間）。 事後：自分の考えをノートにまとめる（1時間）
10	教育権	・家永教科書裁判 ・旭川学テ事件	事前：テキストの「Theme12」を読む（1時間）。 事後：自分の考えをノートにまとめる（1時間）。
11	死刑制度	・死刑存置論 ・死刑廃止論	事前：テキストの「Theme13」を読む（1時間）。 事後：自分の考えをノートにまとめる（1時間）
12	人の始期・終期	・胎児と人、人と死体を区別する法的基準 ・人はいつから「人」として法的に保護されるか	事前：とくになし。 事後：自分の考えをノートにまとめる（2時間）
13	自己決定権（1）被害者の同意	・自殺、自殺関与、同意殺人（死に同意した者の殺害）の違法性 ・同意傷害（負傷に同意した者の傷害）における傷害罪の成否 ・医療行為と傷害	事前：とくになし。 事後：自分の考えをノートにまとめる（2時間）
14	自己決定権（2）安楽死・尊厳死	死期が切迫した患者の苦痛を除去するための殺害、延命治療中止は許容されるか	事前：前回の授業内容を復習し、安楽死・尊厳死の是非について、自分の考えを整理しておく（1時間）。 事後：自分の考えをノートにまとめる（1時間）
15	授業のまとめ	・これまでの総括 ・学期末試験に向けて ・小テスト	事前：授業全体を振り返って、疑問点をまとめておく（1時間）。 事後：学期末試験に向けてこれまでのノートをまとめて考えを整理する（1時間）

授業科目	地域社会文化論 Community Culture Theory			担当教員	澤井 玄		
対象学科・年次・学期	看護学科/栄養学科・1 年次・後期			選択・必修	選択		
授業形態	講義			単位数	2 単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
		○	◎	○			
授業目的	「節分にまくのは落花生」「赤飯には甘納豆が入っている」のは普通だろうか、変わっているのだろうか。いずれも北海道の習慣で、全国的なものではない。この授業では、本学の所在する北海道の気候や人柄・食文化・習慣などを客観化することなどを通じて、自分の「普通」が他者にとっても「普通」とは限らないことを理解する。そして「自分は正しい」だけでなく「他者も正しい」ことを認められる思考を身に付けたい。またアイヌ文化についても適宜触れていきたい。						
到達目標	北海道の地域特性を理解するとともに、地域・時代・環境により、「正しい」こと、「当たり前」のことは不変ではないことを理解する。						
関連科目	「現代社会論」「社会貢献と活動」に関連する。						
テキスト	特になし。毎回資料を配布する。						
参考書	必要に応じて紹介する。可能であれば『なにこれ!?北海道学』池田貴夫著(北海道新聞社 2013 年)を見ておくこと。また本講義にかかわる事項以外にも、日刊の総合新聞(web ではなく紙の)にできるだけ毎日、目を通すこと。						
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点				
	試験	50	目標への到達状況を試験等の結果・提出物・その他授業への取り組み姿勢などにより総合的に評価する。講義に取り上げる事項に関連するアンケートを複数回実施する。これは提出物として評価するので誠実かつできるだけ詳細に回答すること。欠席回数が授業回数の 1/3 を超えた場合は試験の受験資格を失う。定期試験を受験しなかった場合は評価の対象とならない。 <遠隔授業となった場合の評価方法については別途指示する>				
	レポート						
	小テスト						
	提出物	40					
その他	10						
履修上の留意事項	授業中の私語・許可を得ない入退出等、授業の進行の妨げとなる行為は厳禁する。上記に違反する者は学生証を提示させ、繰り返し注意を受ける者については以後の出席を認めない場合があるので十分注意のこと。						
課題に対するフィードバックの方法	毎回の出席 Forms における質問・感想および講義内容に関連するアンケートに対する回答・コメント等は、原則として次回講義時に口頭または必要に応じて資料を配布しておこなう。						
実務経験を活かした教育内容	道内各地で調査の機会があり、地域ごとに方言・産物・食生活等に差異・特色があることから、履修生たちの地元の特色も聞き出しながら授業展開を行っていく。						
回数(担当)	学習の主題	授業内容				事前・事後学習	
1	イントロダクション	<ul style="list-style-type: none"> 私たちの「正しい」は世界中で正しいのだろうか。例:「命は唯一無二」なのか。 NHK スペシャル『ヤノマミ』ビデオ前半視聴。 『地球の食卓』(TOTO 出版)から世界の食生活を垣間見る。 初回アンケート(生活の中でのカルチャーショック) 				配付資料を復習しておくこと。アンケートに回答すること。(計 4.5 時間)	
2	地域・文化で異なる「当たり前」	<ul style="list-style-type: none"> 『世界の食卓』続き。 増加する在日外国人。習慣の違い。 NHK スペシャル『ヤノマミ』ビデオ後半視聴。 地域・文化に関するアンケート。 				配付資料を復習しておくこと。アンケートに回答すること。(計 4.5 時間)	
3	命は「唯一無二」のものか?	<ul style="list-style-type: none"> 前回アンケート結果報告。 ヤノマミ族の新生児を「天に返す」行為について。 世界各地・各時代の人口抑制(墮胎・間引き)。 				配付資料を復習しておくこと。(計 3.5 時間)	
4	親子・家族とは何か	<ul style="list-style-type: none"> 生物学的な親子と社会的な親子。 様々な親子のあり方。 どこまでが家族か。「家族」に関するアンケート。 				配付資料を復習しておくこと。アンケートに回答すること。(計 4.5 時間)	
5	日本の家族像	<ul style="list-style-type: none"> 江戸時代～現代の日本の家族像の変化。 「我が子」か「神の子」か。 誕生から死亡までの日本の儀礼・習慣。 				配付資料を復習しておくこと。(計 3.5 時間)	
6	家族・家庭とは何か	<ul style="list-style-type: none"> 家族団欒(だんらん)の誕生と、家庭の食卓の変遷。明治からサザエさん ちびまる子ちゃん、そして現代。 家庭内教育の場としての食卓・団欒。 				配付資料を復習しておくこと。(計 3.5 時間)	

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
7	現代の家族と食卓	<ul style="list-style-type: none"> ・家族のあり方の変化。 ・『家族の勝手でしょ』(岩村暢子・新潮社) にみる孤食・個食・勝手食い・バラバラ食いなど ・家庭内教育機会の減少。 	配付資料を復習しておくこと。(計 3.5 時間)
8	日本人の身体観	<ul style="list-style-type: none"> ・文化としての身体。 ・日本人の身体観・体に関する諺。 ・現代医療に必要な、文化による身体観の相違への理解。 	配付資料を復習しておくこと。(計 3.5 時間)
9	伝統的生活文化（伝統医療）と現代医療	<ul style="list-style-type: none"> ・現代医療と伝統医療の対立と共存。 ・民間治療・まじないのアンケート。 	配付資料を復習しておくこと。アンケートに回答すること。(計 4.5 時間)
10	方言と意思疎通	<ul style="list-style-type: none"> ・方言のために医療従事者が病状把握を誤る現状。「はらあんべ（腹塩梅）ニヤニヤすってや」など ・臨床方言学の提唱。 	配付資料を復習しておくこと。(計 3.5 時間)
11	北海道の自然と歴史	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道の自然環境 ・北海道に歴史は無いのか、明治時代以前から考える。 	配付資料を復習しておくこと。(計 3.5 時間)
12	明治から現代の北海道	<ul style="list-style-type: none"> ・本州からの移住 ・故地からの伝統継承と新しい生活 	配付資料を復習しておくこと。(計 3.5 時間)
13	北海道に住む人々の習慣・考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道人の気質・習慣・食文化・消費動向など・節分の風習アンケート 	配付資料を復習しておくこと。アンケートに回答すること。(計 4.5 時間)
14	アイヌ民族の今 北海道の疾病と特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・アイヌ民族の現状 ・北海道に多い病気・少ない病気とその要因 	配付資料を復習しておくこと。(計 3.5 時間)
15	講義のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの講義のまとめ。 	配付資料を復習しておくこと。(計 6 時間)

授業科目	形態機能学Ⅰ Anatomy and Physiology Ⅰ			担当教員	家子 正裕		
対象学科・年次・学期	看護学科・1年次・前期			選択・必修	必修		
授業形態	講義			単位数	2単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP5	DP6
			○	◎			
授業目的	形態機能学Ⅱとともに、人体の構造と機能を生活行動と連動させながら系統的に学習し、これから学ぶ病態学、疾病治療論、看護学などの基礎を支える科目とする。ここでは、形態機能学の基礎知識、身体の支持・運動に関わる骨格系と筋系について正常の構造・形態と機能、血液の働きに関する血液系、血液の循環とその調節に関する循環器系、呼吸とその調節に関する呼吸器系、体温維持に関する体温調節機構、身体機能の防御と適応に関する生体防御系を学び、ヒトの「生きる仕組み」の基本を理解する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人体の各部位の名称や解剖学用語を説明できる。 2. 人体を構成する細胞、組織、器官、器官系の特徴と機能を説明できる。 3. 運動器の構造を機能と関連づけて説明できる。 4. 血液の組成、血液型を機能と関連づけて説明できる。 5. 循環器の構造を機能と関連づけて説明できる。 6. 呼吸器の構造を機能と関連づけて説明できる。 7. 体温とその調節の仕組みを説明できる。 8. 生体防御機構の概要を機能と関連づけて説明できる。 						
関連科目	1年後期に履修する形態機能学Ⅱと密接に関連する。						
テキスト	高松 研、堀内ふき「生体のしくみ標準テキスト第3版 新しい解剖生理」(医学映像教育センター)【電子テキスト】						
参考書	坂井建雄、岡田隆夫、宇賀賀紀「系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能1」(医学書院)						
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点				
	試験	100	定期試験：到達目標に関する定期試験を実施し、学習到達度を評価します。				
	レポート						
	小テスト						
	提出物						
その他							
履修上の留意事項	教員が作成した講義資料を中心に講義を行います。予め Web 上に公開された講義資料とテキストの関連部分を必ず事前学習すると共に、講義資料に添付された課題（復習問題）を自ら解答して事後学習することが必要です。						
課題に対するフィードバックの方法	毎回の講義資料に添付された課題（復習問題）については、次回の講義日までに模範解答と解説を Web 上で公開しますので、自分の解答を必ず確認して理解を深めることが必要です。チャットによる質問等についてはいつでも受け付けて対応します。						
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、臨床現場の事例などを講義に織り交ぜながら、臨床上必要な形態機能学的知識について理解しやすいように授業を行います。						
回数 (担当)	学習の主題	授業内容			事前・事後学習		
1	科目ガイダンス/ 形態機能学総論	講義日程、自学自習方法の説明とともに以下の項目についての講義を行う。 ・ヒトの体の最小単位と系統 ・人体の基準平面 ・体を構成する4つの組織			事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する（2時間） 事後：講義内容を整理し、課題にて理解度を確認する（2時間）		
2	骨格系の構造と機能 (1)	・人体の骨格系 ・骨の形態と構造 ・骨の組織と組成 ・骨の生理機能			事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する（2時間） 事後：講義内容を整理し、課題にて理解度を確認する（2時間）		
3	骨格系の構造と機能 (2)	・骨の連結の種類 ・関節の種類と機能 ・不動性連結の種類と機能 ・骨格筋の構造と作用			事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する（2時間） 事後：講義内容を整理し、課題にて理解度を確認する（2時間）		
4	体幹の骨格と筋	・脊柱と胸郭 ・頭頸部の骨格と筋 ・胸部、背部、腹部の筋			事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する（2時間） 事後：講義内容を整理し、課題にて理解度を確認する（2時間）		

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
5	上肢の骨格と筋	<ul style="list-style-type: none"> ・ 上肢帯の骨格と筋群 ・ 自由上肢の骨格と筋群 ・ 上肢の運動 	事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する（2時間） 事後：講義内容を整理し、課題にて理解度を確認する（2時間）
6	下肢の骨格と筋	<ul style="list-style-type: none"> ・ 下肢帯の骨格と筋群 ・ 自由下肢の骨格と筋群 ・ 下肢の運動 	事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する（2時間） 事後：講義内容を整理し、課題にて理解度を確認する（2時間）
7	筋収縮のしくみ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 随意筋の収縮機構 ・ 遅筋と速筋の特徴 ・ 不随意筋収縮の特徴 	事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する（2時間） 事後：講義内容を整理し、課題にて理解度を確認する（2時間）
8	血液の成分と機能	<ul style="list-style-type: none"> ・ 血液の組成と機能 ・ 赤血球の産生と機能 ・ 白血球の種類と機能 ・ 血小板の産生と機能 ・ 血液凝固と線溶系 	事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する（2時間） 事後：講義内容を整理し、課題にて理解度を確認する（2時間）
9	血液型の種類と意義	<ul style="list-style-type: none"> ・ ABO 血液型 ・ Rh 血液型 ・ その他の血液型 ・ 血液型と輸血 	事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する（2時間） 事後：講義内容を整理し、課題にて理解度を確認する（2時間）
10	循環器の構造と機能 (1)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 血管の構造と種類 ・ 心臓の構造と機能 ・ 心臓収縮と心電図 ・ 血圧の成り立ち 	事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する（2時間） 事後：講義内容を整理し、課題にて理解度を確認する（2時間）
11	循環器の構造と機能 (2)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毛細血管における体液移動 ・ 静脈系の特徴と静脈還流の調節 ・ リンパ循環のしくみ ・ 胎生期循環の特徴 	事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する（2時間） 事後：講義内容を整理し、課題にて理解度を確認する（2時間）
12	呼吸器の構造と機能 (1)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 呼吸器系の概略 ・ 鼻腔、咽頭、喉頭の構造と発声のしくみ ・ 気管と気管支の構造と特徴 ・ 肺の構造と区分、胸部 X 線写真の見方 	事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する（2時間） 事後：講義内容を整理し、課題にて理解度を確認する（2時間）
13	呼吸器の構造と機能 (2)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 縦隔の区分 ・ 胸膜腔の構造と呼吸運動 ・ 呼吸ガス交換とガス運搬 ・ 呼吸運動の調節と呼吸機能検査 	事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する（2時間） 事後：講義内容を整理し、課題にて理解度を確認する（2時間）
14	体温調節機構	<ul style="list-style-type: none"> ・ 熱産生と熱放散のしくみ ・ 体温の意義と測定法 ・ 体温調節のしくみ ・ 発熱パターン ・ 高体温と低体温における身体の反応 	事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する（2時間） 事後：講義内容を整理し、課題にて理解度を確認する（2時間）
15	生体防御機構のしくみ 定期試験ガイダンス	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生体防御系の種類 ・ 免疫系の種類と構成成分 ・ 免疫細胞の種類と機能 ・ 定期試験について 	事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する（2時間） 事後：講義内容を整理し、課題にて理解度を確認する（2時間）

授業科目	形態機能学 II Anatomy and Physiology II		担当教員	家子 正裕、千葉 仁志			
対象学科・年次・学期	看護学科・1年次・後期		選択・必修	必修			
授業形態	講義		単位数	2単位			
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
			○	◎			
授業目的	形態機能学Ⅰとともに人体の構造と機能を生活行動と連動させながら系統的に学習し、これから学ぶ病態学、疾病治療論、看護学の基礎を支える科目とする。ここでは食物の消化と栄養素の吸収に関わる消化器系、体液の調節と尿の生成に関わる泌尿器系、内臓機能の調節に関わる内分泌系、情報の受容と処理に関わる神経系と感覚器系、生殖器の正常な形態と機能について学び、ヒトの「生きる仕組み」の基本を理解する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 上部消化管と下部消化管の構造を機能と関連づけて説明できる。 2. 肝臓・胆嚢・膵臓の構造を機能と関連づけて説明できる。 3. 泌尿器の構造を尿の生成機構および排尿調節機構と関連づけて説明できる。 4. 体液、電解質および酸塩基平衡について構成と機能を関連づけて説明できる。 5. 内分泌器官の構造を内分泌による内臓機能の調節に関連づけて説明できる。 6. 中枢神経と末梢神経の構造を機能と関連づけて説明できる。 7. 感覚器の構造を機能と関連づけて説明できる。 8. 生殖器の構造を機能と関連づけて説明できる。 						
関連科目	1年前期に履修する形態機能学Ⅰと密接に関連する。						
テキスト	高松 研、堀内ふき「生体のしくみ標準テキスト第3版 新しい解剖生理」(医学映像教育センター)【電子テキスト】						
参考書	坂井建雄、岡田隆夫、宇賀貴紀「系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能1」(医学書院)						
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点				
	試験	100	定期試験：到達目標に関する定期試験を実施し、学習到達度を評価します。 家子 80% 千葉 20%				
	レポート						
	小テスト						
	提出物						
その他							
履修上の留意事項	教員が作成した講義資料を中心に講義を行います。予め Web 上に公開された講義資料とテキストの関連部分を必ず事前学習すると共に、講義資料に添付された課題（復習問題）を自ら解答して事後学習することが必要です。						
課題に対するフィードバックの方法	毎回の講義資料に添付された課題（復習問題）については、次回の講義日までに模範解答と解説を Web 上で公開しますので、自分の解答を必ず確認して理解を深めることが必要です。チャットによる質問等についてはいつでも受け付けて対応します。						
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、臨床現場の事例などを講義に織り交ぜながら、臨床上必要な形態機能学的知識について理解しやすいように授業を行います。						
回数 (担当)	学習の主題	授業内容			事前・事後学習		
1 (家子)	科目ガイダンス 消化管の構造と機能 (1)	講義日程、自学自習方法の説明とともに以下の項目についての講義を行う。 ・口腔と咽頭の構造と咀嚼および嚥下機能 ・上部消化管の構造と機能			事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する (2時間) 事後：講義内容を整理し、課題にて理解度を確認する (2時間)		
2 (家子)	消化管の構造と機能 (2)	・下部消化管の構造と機能 ・栄養素の消化と吸収 ・消化管ホルモン			事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する (2時間) 事後：講義内容を整理し、課題にて理解度を確認する (2時間)		
3 (家子)	肝臓・胆嚢・膵臓の構造と機能	・肝臓の区分と多様な機能 ・胆嚢の構造と機能 ・膵臓の構造と機能			事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する (2時間) 事後：講義内容を整理し、課題にて理解度を確認する (2時間)		
4 (家子)	腎臓の構造と機能	・腎臓と排泄路の構造 ・尿の生成と調節機構 ・排尿調節機構			事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する (2時間) 事後：講義内容を整理し、課題にて理解度を確認する (2時間)		

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
5 (千葉)	体液の調節機構	<ul style="list-style-type: none"> ・水分の調節 ・電解質の調節 ・酸塩基平衡のしくみ 	事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する（2時間） 事後：講義内容を整理し、課題にて理解度を確認する（2時間）
6 (千葉)	内分泌系の構造と機能（1）	<ul style="list-style-type: none"> ・ホルモンの種類と化学構造 ・ホルモン分泌の調節 ・視床下部と下垂体ホルモン ・甲状腺ホルモン 	事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する（2時間） 事後：講義内容を整理し、課題にて理解度を確認する（2時間）
7 (千葉)	内分泌系の構造と機能（2）	<ul style="list-style-type: none"> ・副甲状腺ホルモン ・膵臓ホルモン ・副腎皮質/髄質ホルモン ・性ホルモン 	事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する（2時間） 事後：講義内容を整理し、課題にて理解度を確認する（2時間）
8 (家子)	神経系の構造と機能（1）	<ul style="list-style-type: none"> ・神経系の細胞の種類と機能 ・神経細胞の構造と興奮のしくみ ・神経筋接合部の構造と興奮の伝達 	事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する（2時間） 事後：講義内容を整理し、課題にて理解度を確認する（2時間）
9 (家子)	神経系の構造と機能（2）	<ul style="list-style-type: none"> ・脳の構造と機能 ・脳室と髄膜 ・脳脊髄液の生成と循環 	事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する（2時間） 事後：講義内容を整理し、課題にて理解度を確認する（2時間）
10 (家子)	神経系の構造と機能（3）	<ul style="list-style-type: none"> ・脊髄の構造と機能 ・脳神経と脊髄神経の構造と機能 ・神経伝導路 	事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する（2時間） 事後：講義内容を整理し、課題にて理解度を確認する（2時間）
11 (家子)	神経系の構造と機能（4）	<ul style="list-style-type: none"> ・自律神経系の種類と機能 ・脳の高次機能 	事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する（2時間） 事後：講義内容を整理し、課題にて理解度を確認する（2時間）
12 (家子)	感覚器の構造と機能（1）	<ul style="list-style-type: none"> ・眼球と眼球付属器の構造と視覚機能 ・対光反射と遠近調節 ・眼球運動と神経支配 	事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する（2時間） 事後：講義内容を整理し、課題にて理解度を確認する（2時間）
13 (家子)	感覚器の構造と機能（2）	<ul style="list-style-type: none"> ・耳の構造と聴覚および平衡覚 ・舌の構造と味覚 ・嗅上皮と嗅覚 ・体性感覚の種類 ・皮膚の構造と機能 ・疼痛の分類 	事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する（2時間） 事後：講義内容を整理し、課題にて理解度を確認する（2時間）
14 (家子)	生殖器の構造と機能（1）	<ul style="list-style-type: none"> ・性分化のしくみ ・男性生殖器の構造と生殖機能 	事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する（2時間） 事後：講義内容を整理し、課題にて理解度を確認する（2時間）
15 (家子)	生殖器の構造と機能（2） 定期試験ガイダンス	<ul style="list-style-type: none"> ・女性生殖器の構造と生殖機能 ・受精のしくみ ・定期試験について 	事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する（2時間） 事後：講義内容を整理し、課題にて理解度を確認する（2時間）

授業科目	感染免疫学 Infectious Diseases and Immunology			担当教員	家子 正裕		
対象学科・年次・学期	看護学科・1年次・後期			選択・必修	必修		
授業形態	講義			単位数	2単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
			○	◎			
授業目的	種々の病原微生物に関する生物学的知識と生体側の感染防御機構である免疫のしくみの基本を学び、個々の病原体による感染の成立から発病に至る病態生理に関する理解を深める。さらに新興感染症や再興感染症、院内感染や日和見感染等の概念を理解し、感染に対する予防対策の基本概念であるスタンダード・プリコーションについて学習する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 感染症の原因となる病原微生物（細菌、ウイルス、真菌、寄生虫）の主要なものについて各々が起こす疾病と病原性の特徴および感染経路を概説できる。 2. 感染症の治療（抗菌薬、抗ウイルス薬）と予防（ワクチン）について概説できる。 3. 日和見感染について、院内感染や多剤耐性菌との関連性を考えながら説明できる。 4. 院内感染防止の観点からスタンダード・プリコーションについて説明できる。 5. 消毒法・滅菌法の原理を理解し、適切な方法を選択できる。 6. 感染症に対するヒトの免疫機構と免疫検査について概説できる。 						
関連科目	1年前期に履修した形態機能学Ⅰ、1年後期に履修する形態機能学Ⅱ、病態学と密接に関連する。						
テキスト	藤本秀士 編著「わかる！身につく！病原体・感染・免疫 改訂3版」(南山堂) 【電子テキスト】						
参考書	矢野久子、安田陽子 編「ナースング・グラフィカ 臨床微生物・医動物」(メディカ出版)						
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点				
	試験	100	定期試験：到達目標に関する定期試験を実施し、学習到達度を評価します。				
	レポート						
	小テスト						
	提出物						
その他							
履修上の留意事項	感染症に関わるニュース等に日頃から注意を向け、何が問題となっているかを常に意識して本講義に臨むこと。教員が作成した講義資料を中心に講義を行います。予め Web 上に公開された講義資料とテキストの関連部分を必ず予習すると共に、講義資料に添付された課題（復習問題）を自ら解答して事後学習を行うことが必要です。						
課題に対するフィードバックの方法	毎回の講義資料に添付された課題（復習問題）については、次回の講義日までに模範解答と解説を Web 上で公開しますので、自分の解答を必ず確認して理解を深めることが必要です。チャットによる質問等についてはいつでも受け付けて対応します。						
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、臨床現場の事例などを講義に織り交ぜながら、臨床上必要な感染免疫学的知識について理解しやすいように授業を行います。						
回数 (担当)	学習の主題	授業内容			事前・事後学習		
1	科目ガイダンス 感染症とは何か	講義日程、自学自習方法の説明とともに以下の項目についての講義を行う。 ・感染症の歴史 ・感染と感染症の違い			事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する（2時間） 事後：講義内容を整理し、課題にて理解度を確認する（2時間）		
2	感染症の現状と 感染症法	・新興感染症と再興感染症 ・感染症法の成立経過と内容 ・感染症情報			事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する（2時間） 事後：講義内容を整理し、課題にて理解度を確認する（2時間）		
3	感染様式の種類、病原体の種類と生物学的特徴	・感染様式の種類と特徴 ・人獣共通感染症 ・感染症の成立要因 ・細菌、真菌、ウイルスの生物学的な特徴			事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する（2時間） 事後：講義内容を整理し、課題にて理解度を確認する（2時間）		
4	感染経路	・水平感染と垂直感染とその対策 ・接触感染、飛沫感染と空気感染 ・その他、糞口感染、性行為感染、医原性感染、節足動物媒介感染など			事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する（2時間） 事後：講義内容を整理し、課題にて理解度を確認する（2時間）		

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
5	感染免疫のしくみ (1)	<ul style="list-style-type: none"> ・自然免疫と獲得免疫の違い ・獲得免疫における液性免疫と細胞性免疫 ・抗原の種類と抗原性を発揮するための条件 	事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する（2時間） 事後：講義内容を整理し、課題にて理解度を確認する（2時間）
6	感染免疫のしくみ (2)	<ul style="list-style-type: none"> ・液性免疫の担い手である抗体の種類と役割 ・感染症の診断における免疫検査の基本 	事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する（2時間） 事後：講義内容を整理し、課題にて理解度を確認する（2時間）
7	感染症の予防（1）	<ul style="list-style-type: none"> ・ワクチンの意義と種類、定期接種と任意接種 ・スタンダード・プリコーションと感染経路別対策 	事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する（2時間） 事後：講義内容を整理し、課題にて理解度を確認する（2時間）
8	感染症の予防（2）	<ul style="list-style-type: none"> ・滅菌と消毒 ・滅菌法と消毒法の具体例とそれらの適切な選択法 	事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する（2時間） 事後：講義内容を整理し、課題にて理解度を確認する（2時間）
9	細菌感染症の治療 細菌感染症（1）	<ul style="list-style-type: none"> ・抗菌薬の作用機序別分類と副作用 ・抗菌薬に対する細菌の耐性機構 ・ブドウ球菌、レンサ球菌、腸球菌、ナイセリア属の菌の特徴と代表的疾患 	事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する（2時間） 事後：講義内容を整理し、課題にて理解度を確認する（2時間）
10	細菌感染症（2）	腸内細菌科、ビブリオ属、グラム陰性好気性菌（緑膿菌、レジオネラ菌、百日咳菌）、リステリア菌、ジフテリア菌などの特徴と代表的疾患	事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する（2時間） 事後：講義内容を整理し、課題にて理解度を確認する（2時間）
11	細菌感染症（3）	抗酸菌（結核菌）、らせん菌、嫌気性菌、スピロヘータ、マイコプラズマ、リケッチア、クラミジアの特徴と代表的疾患	事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する（2時間） 事後：講義内容を整理し、課題にて理解度を確認する（2時間）
12	ウイルス感染症 (1)	<ul style="list-style-type: none"> ・ウイルス学総論 ・DNA ウイルス：ヘルペスウイルス、アデノウイルス、パピローマウイルス他 	事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する（2時間） 事後：講義内容を整理し、課題にて理解度を確認する（2時間）
13	ウイルス感染症 (2)	RNA ウイルス：オルトミクソウイルス、コロナウイルス、レトロウイルスなど全てのRNAウイルス	事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する（2時間） 事後：講義内容を整理し、課題にて理解度を確認する（2時間）
14	ウイルス感染症 (3) 真菌感染症 寄生虫感染症	<ul style="list-style-type: none"> ・肝炎ウイルス ・真菌（カンジダ、アスペルギルス、ニューモンスチスなど） ・寄生虫：内部寄生虫（原虫類、蠕虫類）、外部寄生虫 	事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する（2時間） 事後：講義内容を整理し、課題にて理解度を確認する（2時間）
15	感染症トピックス 定期試験ガイダンス	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症法改正について ・定期試験について 	事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する（2時間） 事後：講義内容を整理し、課題にて理解度を確認する（2時間）

授業科目	病態学 Pathology		担当教員	家子 正裕			
対象学科・年次・学期	看護学科・1年次・後期		選択・必修	必修			
授業形態	講義		単位数	2単位			
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
			○	◎			
授業目的	看護を含む最適な医療を提供するためには、対象となる各種疾患の特徴を正しく理解する必要がある。本科目では様々な病変がなぜ、どのように発生・経過し、治療によってどのように変化するのか？といったことを形態的、機能的な視点などから学習し、理論に基づいた看護を実践するための基礎知識の理解と習得（堅固な土台作り）を目的とする。						
到達目標	1. 病態学総論（各種臓器に生じる多彩な病変の共通事項）の概要を説明できる。 1) 疾患を病態毎に分類できる。 2) 病名から疾患の病態を説明できる。 2. 代表的な病態の発生機序、経時的变化を説明できる。 3. 正常組織との対比や、各種疾患の関連性を説明できる。						
関連科目	1年前期に履修した形態機能学Ⅰ、1年後期に履修する形態機能学Ⅱ、感染免疫学と密接に関連する。						
テキスト	編/深山正久「はじめの一步の病理学 第2版」(羊土社) 【電子テキスト】						
参考書	田中越郎「系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進② 病態生理学」(医学書院) 小林正伸「なるほどなっとく病理学 病態形成の基本的な仕組み(改訂2版)」(南山堂)						
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点				
	試験	100	定期試験：到達目標に関する定期試験を実施し、学習到達度を評価します。				
	レポート						
	小テスト						
	提出物						
その他							
履修上の留意事項	病変の特徴、発症機序などを学ぶためには、正常組織の構造や機能の理解が前提となるため、形態機能学Ⅰ及びⅡでの学習内容を再確認したうえで受講すること。教員が作成した講義資料を中心に講義を行います。予め Web 上に公開された講義資料とテキストの関連部分を必ず予習すると共に、講義資料に添付された課題（復習問題）を自ら解答して事後学習を行うことが必要です。						
課題に対するフィードバックの方法	毎回の講義資料に添付された課題（復習問題）については、次回の講義日までに模範解答と解説を Web 上で公開しますので、自分の解答を必ず確認して理解を深めることが必要です。チャットによる質問等についてはいつでも受け付けて対応します。						
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、臨床現場の事例などを講義に織り交ぜながら、臨床上必要な病態学的知識について理解しやすいように授業を行います。						
回数(担当)	学習の主題	授業内容				事前・事後学習	
1	科目ガイダンス 病態学概論～病態学とは何か	講義日程、自学自習方法の説明とともに以下の項目についての講義を行う。 ・病態学と病理学の異同 ・病理診断の役割と各種病理検査の概要 ・病気の種類と発症要因				事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する（2時間） 事後：講義内容を整理し、課題にて理解度を確認する（2時間）	
2	退行性病変（1）	・変性や代謝障害の原因と経過に伴う形態や機能への影響 ・糖質、脂質、タンパク質の代謝障害と色素変性				事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する（2時間） 事後：講義内容を整理し、課題にて理解度を確認する（2時間）	
3	退行性病変（2）	・萎縮の種類、萎縮と低形成の違い ・萎縮と肥大の対比 ・壊死とアポトーシスの違い				事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する（2時間） 事後：講義内容を整理し、課題にて理解度を確認する（2時間）	
4	進行性病変（1）	・分化と増殖の対比 ・肥大の分類 ・過形成の具体例				事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する（2時間） 事後：講義内容を整理し、課題にて理解度を確認する（2時間）	

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
5	進行性病変 (2)	再生組織と肉芽組織の役割、創傷治癒、化生について理解する。 ・再生 ・肉芽組織 ・創傷治癒 ・異物処理 ・化生の種類	事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する (2 時間) 事後：講義内容を整理し、課題にて理解度を確認する (2 時間)
6	循環障害 (1)	・高血圧と低血圧 ・ショックの分類と特徴 ・充血とうっ血の違い ・虚血の病態と代表的疾患	事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する (2 時間) 事後：講義内容を整理し、課題にて理解度を確認する (2 時間)
7	循環障害 (2)	・側副循環の原因と合併症 ・出血の種類と特徴 ・血栓症と塞栓症	事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する (2 時間) 事後：講義内容を整理し、課題にて理解度を確認する (2 時間)
8	炎症 (1)	・炎症の定義 ・炎症の四 (五) 大徴候 ・急性炎症の特徴 ・炎症マーカーの意義	事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する (2 時間) 事後：講義内容を整理し、課題にて理解度を確認する (2 時間)
9	炎症 (2)	・慢性炎症の発症機序 ・慢性炎症における肉芽組織の役割 ・急性炎症と慢性炎症の対比 ・特異性炎の定義と代表的疾患	事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する (2 時間) 事後：講義内容を整理し、課題にて理解度を確認する (2 時間)
10	免疫 (1)	・免疫の歴史 ・免疫学発展の画期的事項とは～その 1 とその 2 ・フローサイトメトリーの発展 ・モノクローナル抗体と CD 分類	事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する (2 時間) 事後：講義内容を整理し、課題にて理解度を確認する (2 時間)
11	免疫 (2)	・免疫系を構成する免疫細胞の機能 ・免疫疾患の種類 (免疫不全、アレルギー等) ・自己免疫疾患と膠原病 ・移植免疫	事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する (2 時間) 事後：講義内容を整理し、課題にて理解度を確認する (2 時間)
12	腫瘍 (1)	・腫瘍の分類 ・良性腫瘍と悪性腫瘍の違い ・癌腫と肉腫の違い ・転移の種類と特徴	事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する (2 時間) 事後：講義内容を整理し、課題にて理解度を確認する (2 時間)
13	腫瘍 (2)	・癌の進行度 ・癌原遺伝子と癌遺伝子 ・発癌のしくみ (化学物質、感染因子) ・腫瘍マーカーの種類と意義	事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する (2 時間) 事後：講義内容を整理し、課題にて理解度を確認する (2 時間)
14	先天異常	・遺伝疾患の分類と遺伝様式 ・代表的な先天異常についての要因と発生機序 ・代表的な染色体異常と出生前診断	事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する (2 時間) 事後：講義内容を整理し、課題にて理解度を確認する (2 時間)
15	病態学トピックス 定期試験ガイダンス	・病態学に関連するトピックスや話題 ・看護師国家試験における病態学関連問題の分析 ・定期試験について	事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する (2 時間) 事後：講義内容を整理し、課題にて理解度を確認する (2 時間)

授業科目	栄養代謝学 Nutrition and Metabolism			担当教員	渡辺 いつみ、金高 有里、岡本 智子		
対象学科・年次・学期	看護学科・1年次・後期			選択・必修	必修		
授業形態	講義			単位数	2単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
			○	◎			
授業目的	栄養に関する知識を習得、看護業務にとっての栄養学を学ぶ意義や大切さを知る。						
到達目標	栄養学・食品学・代謝・消化吸収などの基礎知識と最新の臨床栄養、栄養ケアマネジメントなどを習得し、栄養問題に対する対処方法を学修する。						
関連科目	生物学A・B、形態機能学Ⅰおよび病態学の一部と関連する						
テキスト	津田とみ著「よくわかる専門基礎講座 栄養学」(金原出版)						
参考書	ハンス・コンラート・ビーザルスキー、ペーター・グリム、スザンネ・ノビッキー・グリム著「基礎・栄養素・栄養医療の実践からなるカラーアトラス栄養学 オールカラービジュアル栄養図解 第8版」(ガイアブックス)						
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点				
	試験	91	到達目標の達成度を定期試験に対して91点満点・提出物に対して9点満点で採点する。 各担当の評価割合は以下の通り。 渡辺 40点：定期試験 34点 提出物 6点 金高 47点：定期試験 44点 提出物 3点 岡本 13点：定期試験 13点				
	レポート						
	小テスト						
	提出物	9					
その他							
履修上の留意事項	人間栄養学と看護の関連性を認識して欲しい。						
課題に対するフィードバックの方法	課題提出日の翌週の授業内において、解答・解説を行う。(翌週の担当者が変更となる場合、解説等の実施日を変更する場合があります)						
実務経験を活かした教育内容							
回数(担当)	学習の主題	授業内容				事前・事後学習	
1 (渡辺)	ガイダンス・栄養管理とは	ガイダンス、健常者と傷病者の栄養管理、保険制度と栄養・食事				事前：教科書第7章を読んでおくこと。(2時間) 事後：授業内容を整理し、ノートにまとめる。(2時間)	
2 (金高)	体の構成と食事栄養	人体の構成成分、食品の栄養素、代謝、酵素、エネルギー、食事摂取基準				事前：教科書を読んでおくこと。(2時間) 事後：授業内容を整理し、ノートにまとめる。(2時間)	
3 (金高)	糖質の消化・吸収・代謝	糖質の構造、消化、吸収、代謝				事前：教科書を読んでおくこと。(2時間) 事後：授業内容を整理し、ノートにまとめる。(2時間)	
4 (金高)	脂質の消化・吸収・代謝	脂質の構造、消化、吸収、代謝				事前：教科書を読んでおくこと。(2時間) 事後：授業内容を整理し、ノートにまとめる。(2時間)	
5 (金高)	蛋白質の消化・吸収・代謝	蛋白質とアミノ酸、消化、吸収、代謝				事前：教科書を読んでおくこと。(2時間) 事後：授業内容を整理し、ノートにまとめる。(2時間)	
6 (金高)	エネルギー代謝	食事エネルギー、エネルギー消費、体内エネルギー貯蔵、肥満と痩せ				事前：教科書を読んでおくこと。(2時間) 事後：授業内容を整理し、ノートにまとめる。(2時間)	

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
7 (金高)	水と電解質、ビタミン	水と血液、pH、ミネラル、ビタミン	事前:教科書を読んでおくこと。(2時間) 事後:授業内容を整理し、ノートにまとめる。(2時間)
8 (金高)	代謝の調節と異常	遺伝子、ホルモン、神経、代謝病(メタボリックシンドローム)	事前:教科書を読んでおくこと。(2時間) 事後:授業内容を整理し、ノートにまとめる。(2時間)
9 (渡辺)	ライフサイクルと栄養	乳幼児期、学童期、思春期、青年期、妊娠期、老年期	事前:教科書第4章を読んでおくこと。(2時間) 事後:授業内容を整理し、ノートにまとめる。(2時間)
10 (渡辺)	栄養管理の実際 1	栄養ケアとは、臨床および介護における栄養ケアと食事、日本人の食事摂取基準	事前:教科書第6章を読んでおくこと。(2時間) 事後:授業内容を整理し、ノートにまとめる。(2時間)
11 (渡辺)	栄養管理の実際 2	栄養評価方法(スクリーニング・アセスメント)と栄養計画	事前:教科書第8章を読んでおくこと。(2時間) 事後:授業内容を整理し、ノートにまとめる。(2時間)
12 (岡本)	栄養投与方法	経口栄養・経腸栄養・経静脈栄養	事前:教科書第9章を読んでおくこと。(2時間) 事後:授業内容を整理し、ノートにまとめる。(2時間)
13 (岡本)	チーム医療	栄養管理とチーム医療の実際	事前:教科書第11章、ならびに配布資料を読んでおくこと。(2時間) 事後:授業内容を整理し、ノートにまとめる。(2時間)
14 (渡辺)	疾患と栄養 1	内分泌疾患、腎疾患、消化器疾患の栄養管理	事前:教科書第10章を読んでおくこと。(2時間) 事後:授業内容を整理し、ノートにまとめる。(2時間)
15 (渡辺)	疾患と栄養 2、まとめ	低栄養、その他の疾患の栄養管理	事前:教科書第10章を読んでおくこと。(2時間) 事後:授業内容を整理し、ノートにまとめる。(2時間)

授業科目	生涯発達論 Lifelong Development		担当教員	安念 保昌				
対象学科・年次・学期	看護学科・1年次・前期		選択・必修	必修				
授業形態	講義		単位数	1単位				
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
			◎	○				
授業目的	「個体発生は、系統発生を繰り返す」とエルンスト・ヘッケルの反復説にあるように、長い進化の中で生物はそれぞれの種で生まれては死んでゆくことを繰り返してきた。発達心理学は、その言葉通りで言えば生まれて、成長していくことに焦点を当ててきたが、世界で最先端の少子高齢化が進む日本で、心身共に成長を過ぎて、老齢期そして死を迎えるまでの人の一生をとらえる生涯発達心理学に変わってきている。子育てを通じての親子関係が、孫育ての関係に替わっていくことで、人は長寿社会を構成するようになった。こうした世代間関係の在り方をライフサイクル、世代間発達を学修する。							
到達目標	1) 発達心理学の基礎を理解する。 2) 発生から成熟までの変化を理解する。 3) 青年期から成人期までの変化を理解する。 4) 中年期から老いへの対応を理解する。 5) 毎回の内容に関するワークシートや、Miro などを利用したグループワークや簡単な実験調査などを通して体験的に理解する。 6) それを簡潔なレポートにまとめることができること。復習は、この簡潔なレポートを作成することにある。							
関連科目	心理学(看護)							
テキスト	前もって配信される授業資料							
参考書	適宜紹介する。 西村純一・平野真理(編著)「生涯発達心理学」(ナカニシヤ出版)2019 高橋一公・中川佳子(編著)「生涯発達心理学15講」(北大路書房)2014							
評価方法・基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準・観点					
	試験	40	毎回復習として課されるワークシートにて、授業内容のエッセンスを自分のエピソード記憶と融合させ、文章化し提出してもらおう。またその総まとめとして、定期試験を行う。それらをワークシート:定期試験=6:4で評価する。					
	レポート							
	小テスト							
	提出物	60						
その他								
履修上の留意事項	前もって配信される授業資料に、授業前に目を通して、授業中は、3色ボールペンを使ってノートを取ること。主な授業内容は黒、重要な点は赤、自分で思いついた点は青で書く。							
課題に対するフィードバックの方法	授業冒頭、前回提出されたワークシートの回答にコメントしながら、復習する時間を設ける。 試験の採点后、試験問題に関して、授業の流れの中でどの部分から出たのか、またそれについて解説した文書を、Teamsで配信する。							
実務経験を活かした教育内容								
回数(担当)	学習の主題	授業内容				事前・事後学習		
1	生涯発達心理学の基礎	心とは何か：認識と精神発達、発達の意義、氏か育ちか				事前：配信される授業資料を予習する(2時間)。事後：授業後ワークシートにて復習を行う(2時間)。		
2	成長・成熟の過程	学習理論からみた発達、比較行動学による発達理論、刻印付け、生理的早産としての人間、愛着の発達理論				事前：配信される授業資料を予習する(2時間)。事後：授業後ワークシートにて復習を行う(2時間)。		
3	個体発生と乳児期の発達	胎生期、新生児の特徴、新生児微笑、乳児期の認知的発達、愛着形成、ピアジェの認知発達理論、				事前：配信される授業資料を予習する(2時間)。事後：授業後ワークシートにて復習を行う(2時間)。		
4	幼児期の機能と発達	ことばの発達、幼児期の認知発達、社会性の発達、心の理論、社会脳				事前：配信される授業資料を予習する(2時間)。事後：授業後ワークシートにて復習を行う(2時間)。		
5	児童期の発達	思考と道徳性の発達、遊びと対人関係、発達障害、ASD				事前：配信される授業資料を予習する(2時間)。事後：授業後ワークシートにて復習を行う(2時間)。		

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
6	疾風怒濤の時代	アイデンティティの獲得と危機、精神病理、キャリア発達理論	事前：配信される授業資料を予習する(2時間)。事後：授業後ワークシートにて復習を行う(2時間)。
7	家族の形成と発達	家族理論、母性と父性、世代間の連鎖	事前：配信される授業資料を予習する(2時間)。事後：授業後ワークシートにて復習を行う(2時間)。
8	中年期から老年期	ライフサイクル論、中年期の課題と危機、老年期の不適応と障害	事前：配信される授業資料を予習する(2時間)。事後：授業後ワークシートにて復習を行う(2時間)。

授業科目	環境保健論 Environmental Medicine			担当教員	濱岡 直裕、小林 宣道		
対象学科・年次・学期	看護学科・1年次・後期			選択・必修	必修		
授業形態	講義			単位数	1単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
			○	◎			
授業目的	身のまわりの物理学的環境、化学的環境、生物学的環境、社会的環境は、われわれの健康に影響に及ぼしている。健康とは何か、健康問題とは何かについて、自然・社会・文化的環境及び生活習慣から理解し、疾病の予防を通じて、公衆衛生の必要性を理解する。						
到達目標	1. 環境と人とのかかわり、環境の評価方法について理解する。 2. 物理的環境要因と健康影響を理解し、その予防策について理解する。 3. 化学的環境要因と健康影響を理解し、その予防策について理解する。 4. 生物的環境要因と健康影響を理解し、その予防策について理解する。						
関連科目	高校までの物理、化学、生物の知識を基礎とする。						
テキスト	辻一郎、小山洋編「シンプル衛生公衆衛生学 2023」(南江堂)						
参考書	適宜紹介する						
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点				
	試験	50	試験、小テスト、および本科目に対する学修の取り組み姿勢(授業への集中度、積極性、授業中の受講態度)により目標の到達状況を評価する。 小テストは2回実施する(小林:1回・評価割合20%、濱岡:1回・評価割合20%)。最終試験は最終回終了翌週に実施する(定期試験日程ではない)。				
	レポート						
	小テスト	40					
	提出物						
その他	10						
履修上の留意事項	・日頃から身のまわりにある健康に影響するニュースなどに注目することが望ましい。						
課題に対するフィードバックの方法	小テストの出題内容は授業内で解説する。						
実務経験を活かした教育内容							
回数(担当)	学習の主題	授業内容			事前・事後学習		
1 (濱岡)	健康と公衆衛生について	環境保健とは何か。健康とは何か。地球環境による健康影響とは何か。どのような健康被害となるか。			事前にテキストを予習し、事後に配布資料で復習する(各1時間程度)。		
2 (小林)	物理的環境要因について	物理的環境要因とは何か。どのような健康被害となるか。量-反応関係とは何か。どのように予防するか。			事前にテキストを予習し、事後に配布資料で復習する(各1時間程度)。		
3 (小林)	化学的環境要因について	化学的環境要因とは何か。どのような健康被害となるか。量-反応関係とは何か。どのように予防するか。			事前にテキストを予習し、事後に配布資料で復習する(各1時間程度)。		
4 (小林)	生物学的環境要因について:感染症(1)	感染症とは何か。どのような健康被害となるか。どのように予防するか			事前にテキストを予習し、事後に配布資料で復習する(各1時間程度)。		
5 (小林)	生物学的環境要因について:感染症(2)・小テスト1	感染症とは何か。どのような健康被害となるか。どのように予防するか。			事前にテキストを予習し、事後に配布資料で復習する(各1時間程度)。		
6 (濱岡)	生物学的環境要因について:食	食による影響は何か。どのような健康被害となり、どのように予防するか。			事前にテキストを予習し、事後に配布資料で復習する(各1時間程度)。		
7 (濱岡)	生活環境と健康影響トピック	食による健康の維持増進にはどのようなことがあるか。			事前にテキストを予習し、事後に配布資料で復習する(各1時間程度)。		
8 (濱岡)	食品と健康について・小テスト2	近年注目される食品と健康問題にはどのようなことがあるか。			事前にテキストを予習し、事後に配布資料で復習する(各1時間程度)。		

授業科目	関係法規 Law and Regulation			担当教員	安藤 陽子、武澤 千尋、近藤 明代、 川口 桂嗣、作並 亜紀子		
対象学科・ 年次・学期	看護学科・1年次・後期			選択・必修	必修		
授業形態	講義			単位数	1単位		
学科ディプロ マ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
				○		◎	
授業目的	保健医療業務は人間の生命や健康に直接関係する業務であるため、業務従事者の資格や業務内容及び国民への業務の提供システムが多岐の法規によって規制されていることを学ぶ。さらに、関係する保健医療従事者との連携・協働も法規で求められていることや、関係法規の体系や内容を理解することは、看護職として自身の役割や責任を果たすうえで欠かすことのできないことを学ぶ。						
到達目標	1.保健医療活動を行う上で必要な関係法規を理解するための基本的知識を習得する。 2.保健師助産師看護師法をはじめとする保健医療従事者に関する法規を理解する。 3.医事と薬務に関する主要な法規を理解する。 4.主要な保健衛生法規を理解する。 5.関係法規を学ぶことは看護職としての役割や責任を果たす上で重要であることを理解する。						
関連科目	法と人権、社会福祉論、保健医療福祉論						
テキスト	松原孝明編著「Basic & Practice 看護学テキスト専門基礎分野 看護・医療で学ぶ人のためのよくわかる関係法規」(学研メディカル秀潤社)						
参考書	必要に応じプリントを配付する。						
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点				
	試験	70	・定期試験：到達目標に関する定期試験（筆記試験によって、目標達成度を評価する。(小川43点分、近藤18点分、安藤9点分) ・講義内で小テスト(3回目以降全6回、各回満点5点)を実施し、講義内容の理解について確認する。				
	レポート						
	小テスト	30					
	提出物						
その他							
履修上の 留意事項	・授業内容について事前にテキストを確認し予習しましょう。 ・疑問点は先延ばしにせず、授業中か授業終了後に担当教員に質問しましょう。						
課題に対するフィ ードバックの方法	講義内で小テストを行い、結果を次の講義で個人にフィードバックすると共に、全体にも補足説明を行います。						
実務経験を 活かした教育内容	実務経験者の立場から、保健師活動の体験を織り交ぜながら、関係法規を理解するために必要な知識を理解しやすいように授業を行います。						
回数 (担当)	学習の主題	授業内容				事前・事後学習	
1 (安藤)	関係法規を理解するための基礎知識	1.法規の概要 ・法の種類 ・法の効力の優劣 ・その他の法規に関する事項 2.法律の読み方				事前：授業内容をテキストで予習する(1時間)。 事後：プリントの<学習のポイント>を中心に復習する(2時間)。	
2 (武澤)	看護法	1.保健師助産師看護師法 2.看護師等の人材確保の促進に関する法律				事前：テキスト、配付プリントで予習する(1時間)。 事後：プリントの<学習のポイント>を中心に復習する(2時間)。	
3 (安藤)	医療法、看護法以外の保健医療従事者に関する法律	1.医療法 2.医療従事者の資格、業務に関する基本的な考え方 3.医師法、歯科医師法 小テスト				事前：テキスト、配付プリントで予習する(1時間)。 事後：プリントの<学習のポイント>を中心に復習する(2時間)。	
4 (安藤)	薬事法	1.医薬品医療機器等法 2.麻薬及び抗精神薬取締法 3.大麻取締法、覚せい剤取締法 小テスト				事前：テキスト、配付プリントで予習する(1時間)。 事後：プリントの<学習のポイント>を中心に復習する(2時間)。	
5 (作並)	保健衛生法規①	1.感染症法 2.予防接種法 小テスト				事前：テキスト、配付プリントで予習する(1時間)。 事後：プリントの<学習のポイント>を中心に復習する(2時間)。	

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
6 (川口)	保健衛生法規②	1.地域保健法 2.健康増進法 3.がん対策基本法 小テスト	事前:テキスト、配付プリントで予習する(1時間)。 事後:プリントの<学習のポイント>を中心に復習する(2時間)。
7 (近藤)	保健衛生法規③	1.母子保健法 2.母体保護法 小テスト	事前:テキスト、配付プリントで予習する(1時間)。 事後:プリントの<学習のポイント>を中心に復習する(2時間)。
8 (武澤)	保健衛生法規④	1.学校保健安全法 2.労働基準法、労働安全衛生法 小テスト	事前:テキスト、配付プリントで予習する(1時間)。 事後:プリントの<学習のポイント>を中心に復習する(2時間)。

授業科目	特別総合科目 Study with Extracurricular Activities			担当教員	近藤 明代 他		
対象学科・ 年次・学期	看護学科・1年・通年			選択・必修	選択		
授業形態	演習			単位数	1単位		
学科ディプロ マ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	◎	○	○	○		○	
授業目的	本学は、人間力を根幹とした医療人の育成という教育理念に基づき、専門職業人としての資質の向上を目指している。本科目では、学生自らが健康、社会・環境、栄養、保健医療福祉に関する課題を掲げ、課外活動に積極的に参加、学修を積み重ねることで看護師としての専門科目を履修する際の基盤をつくることをねらいとする。						
到達目標	1) 自己の人間力を育成しかつ専門職業人としての資質向上につながる活動に計画的・主体的に参加することができる。 2) 活動内容と学びを保健医療福祉の視点から記述できる。 3) 活動を通して、専門職業人（看護師）の役割について考えることができる。						
関連科目							
テキスト	なし						
参考書	なし						
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点				
	試験		評価のためには、以下の3点が必要となる。1) 学習のねらいに合致した自主的活動が授業の30時間相当あること。2) 活動がポートフォリオにまとめられていること。3) 各活動の学びがレポートにまとめられていること。提出されたポートフォリオ（上記3点含む）から総合的に評価する。詳細は、ガイダンスで説明する。				
	レポート						
	小テスト						
	提出物	100					
その他							
履修上の 留意事項	必ずガイダンスを受講してください。						
課題に対するフィ ードバックの方法							
実務経験を 活かした教育内容							
回数 (担当)	学習の主題	授業内容				事前・事後学習	
1	科目ガイダンス	①学修のねらいと学修の進め方 ②単位認定の方法					
2~15	自主的活動	各種活動とポートフォリオの作成					

授業科目	看護学概論 Introduction to Nursing		担当教員	大日向 輝美			
対象学科・年次・学期	看護学科・1年次・前期		選択・必修	必修			
授業形態	講義		単位数	2単位			
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
			○	○	◎		
授業目的	<p>本科目は、「看護とは何か」「看護職者とは何をする者か」を主たるテーマに展開します。具体的には、看護の主要4概念である「看護」「人間」「健康」「環境」に関し、「看護とは」「人間とは」「健康とは」といった問に対する自分なりの回答を導くための知識を修得するとともに、現代の看護・看護職者がかかえている課題を踏まえ、将来の看護・看護職者の在り方を展望し、看護に向き合う自己の役割・責任の自覚を高めます。そのためには、先人は看護をどのように導いてきたのか、看護の対象である人間はどのような存在であるのか、そもそも健康とはいかなる状態であるのか、看護は社会の中でどのような役割・機能を担うのか、といった広い視野での学修を要します。看護学概論は、看護・看護学を学ぶ出発点です。これから看護・看護学に取り組む学生の皆さんにとって、「多くのことが見えてくる」ための土台づくりを行います。</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護の概念について説明できる。 2. 看護職者の役割・機能について説明できる。 3. 看護の対象である人間の基本的な特性を説明できる。 4. 健康の概念について説明できる。 5. 人間の健康と環境との関係を説明できる。 6. 保健医療福祉における看護・看護職者の役割について説明できる。 7. 看護・看護職者の将来像について自分なりの考えを表明できる。 						
関連科目	看護技術総論、看護技術論Ⅰ、看護技術論Ⅱ、看護技術論Ⅲ、看護倫理、基礎看護実習Ⅰ・Ⅱ						
テキスト	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高橋照子「看護学概論」(南江堂) 2. F.Nightingale (湯槇ます他訳)「看護覚え書」(現代社) 3. V.Henderson (湯槇ます他訳)「看護の基本となるもの」(日本看護協会出版会) 4. 日本看護協会編「看護職の基本的責務」(日本看護協会出版会) 						
参考書	<ol style="list-style-type: none"> 1. 稲田八重子他訳「新版・看護の本質」(現代社) 2. 看護史研究会編「看護学生のための世界看護史」(医学書院) 3. 看護史研究会編「看護学生のための日本看護史」(医学書院) 4. 日本看護歴史学会編「日本の看護のあゆみ(歴史を作るあなたへ)」(日本看護協会出版会) 5. 川島みどり「チーム医療と看護」(看護の科学社) 6. 細田満和子「「チーム医療」とは何か」(日本看護協会出版会) 7. 舟島なをみ「看護のための人間発達学」(医学書院) 8. 上田礼子「生涯人間発達学」(三輪書店) 						
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点				
	試験	40%	<p>試験：定期試験期間に実施します。試験内容に関しては最終授業で説明します。 提出物：授業中に示されるキーワードからミニレポートを作成し、提出します。評価基準を含む詳細は、授業中に説明します。 その他：授業中に取り組んだワークシートの提出状況により評価します。</p>				
	レポート						
	小テスト						
	提出物	40%					
その他	20%						
履修上の留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業にかかわる全ての学修行動は、「学習活動の手引き」に沿って行いましょう。また、「学びの理解」での学修を活かすように努めましょう。 ・ 授業は、学生と教員、学生同士の対話の場なので、互いに respect する姿勢をもって参加しましょう。 ・ 授業は、書く、描く、話す、といったアクティブラーニングをとり入れて進めますので、積極的に取り組みましょう。 						
課題に対するフィードバックの方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 提出物は基本的にコメントを付して返却します。 ・ ミニレポートの記載内容や質問事項に関し、その一部を授業中に紹介し、コメントします。 ・ 前時の取組みに対し、必要に応じて次の時間にコメントします。 						
実務経験を活かした教育内容							

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
1	ガイダンス ※「学習の手引き」を持参する 看護と看護学	基礎看護学の概要 看護学概論の目的・目標 学習内容・方法、履修上の留意点 看護と看護学 ・「学問」とは何か ・「看護学」とは何か	事前 (30分): 「学習の手引き」の熟読 事後 (30分): 感想文
2	看護とは何か_1	F. Nightingale が描いた看護と未来 ・ Nightingale は何をしたのか ・ Nightingale はどのように考えたのか ・ Nightingale はどんな未来を描いたのか 看護を説明する概念とは	事後 (60分): 感想文
3	看護とは何か_2 ※テキスト 1, 2	F・Nightingale の看護論 ・看護であるもの、看護でないもの	事前 (120分): テキスト 2 (序章) を読んで、ワークシートに取り組む 事後 (60分): 感想文
4	看護とは何か_3 ※テキスト 1, 3	V. Henderson の看護論 ・ Henderson が描いた看護師の役割と機能 看護職者と他の医療関係者の違い	事前 (120分): テキスト 3 (はじめに、I、II、III) を読んで、ワークシートに取り組む 事後 (60分): 感想文
5	看護とは何か_4 ※テキスト 1, 4	看護の定義 看護の歴史の変遷 職業としての看護の歴史 日本における戦前から戦後の看護	事後 (60分): 感想文
6	看護職者は何をするのか_1 ※テキスト 1	F・Nightingale 「看護教育の ABC」 F・Nightingale 「三重の関心」 日本における看護職の法的位置、役割責任	事後 (60分): 感想文
7	看護職者は何をするのか_2 ※テキスト 1	看護職者は何をしているのか 看護職者には何ができるのか	事後 (60分): 感想文・ミニレポート
8	人間はどのような存在か_1 ※テキスト 1	看護の対象としての人間 ・成長と発達 ・基本的欲求と適応 ・人間と環境 統合体としての人間と生活 ・看護における生活の意味 ・統合体としての人間	事後 (60分): 感想文・ミニレポート
9	人間の健康とはどのようなことか_1 ※テキスト 1	健康の概念 ・健康の定義 ・健康の概念の発展過程	事後 (60分): 感想文
10	人間の健康とはどのようなことか_2 ※テキスト 1	健康の成立要因 ・健康と環境の関係 ・健康と生活環境 健康と看護	事後 (60分): 感想文・ミニレポート
11	看護実践とは何か_1 ※テキスト 1, 4	看護実践の構造 看護職者に求められる倫理	事後 (60分): 感想文
12	看護実践とは何か_2 ※テキスト 1	生活援助技術と治療関連技術 看護実践におけるコミュニケーション 看護における観察 看護診断・看護過程・臨床判断	事後 (60分): 感想文
13	保健医療福祉における看護職者の役割とは何か ※テキスト 1	保健医療福祉における看護の役割 同職種・多職種の連携・協働 拡大する看護の場と役割	事後 (60分): 感想文・ミニレポート
14	看護・看護職者はどこに向かうのか_1 ※テキスト 1	看護職の働く場 新たな役割獲得と専門職としての向上	事後 (60分): 感想文
15	看護・看護職者はどこに向かうのか_2 ※テキスト 1 試験ガイダンス	専門職としての向上 看護の発展と未来 定期試験の内容、学修の取組み	事後 (60分): 感想文・ミニレポート

授業科目	看護技術総論 Introduction to Nursing Arts			担当教員	本吉 明美、大日向 輝美、首藤 英里香、 園田 典子、横山 桂子		
対象学科・ 年次・学期	看護学科・1年次・前期			選択・必修	必修		
授業形態	演習			単位数	1単位		
学科ディプロ マ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
			○	○	◎		
授業目的	看護実践に必要な看護技術の概念と特性について学び、看護実践における看護技術の意義を理解する。また、看護技術における安全性、安楽性、自立性の基本原則、および看護技術を提供する際に必要となる能力や態度を理解する。さらに、看護共通技術である感染予防技術、バイタルサインズの観察技術、ボディメカニクスの基本原理、環境調整技術の基本について根拠をもとに学ぶ。講義・演習において学生間で主体的かつ能動的に学び合うことを通して、看護実践に必要な知識・技術・態度を育むとともに、内省力を高めることをねらいとする。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護技術の定義が意味するものを説明できる。 2. 看護技術における安全・安楽・自立・自律の概念を説明できる。 3. 感染予防策の概要と感染経路対策を説明できる。 4. ボディメカニクスの具体的な活用法を説明できる。 5. 対象者の安全・安楽を考えた生活環境を整える意義を説明できる。 6. バイタルサインズを観察する意義と観察方法を説明できる。 7. 感染予防、環境調整、バイタルサインズに関する基本的な看護技術を根拠に基づき実施し、評価できる。 						
関連科目	看護学概論、援助関係論、看護基礎実習Ⅰ、看護技術論Ⅰ、看護技術論Ⅱ、看護技術論Ⅲ、看護基礎実習Ⅱ、看護倫理が関連科目である。						
テキスト	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高橋照子「看護学原論」(南江堂) 2. 深井喜代子他「基礎看護学②基礎看護技術Ⅰ」(メヂカルフレンド社) 3. 深井喜代子他「基礎看護学③基礎看護技術Ⅱ」(メヂカルフレンド社) 4. ヘンダーソン、湯楨ます他訳「看護の基本となるもの」(日本看護協会出版会) 5. ナイチンゲール、湯楨ます他訳「看護覚え書」(現代社) 						
参考書	1. 堺章「目でみるからだのメカニズム」(医学書院)						
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点				
	試験	50	小テストでは、各単元に必要な知識の理解度を評価する(10%)。提出物は、指定した期限までに提出されたものを評価の対象とし、演習の事前学習課題および演習後記録の提出状況と学習態度を含めて評価する(40%)。定期試験では、筆記試験の解答状況により各単元に関連する知識の理解度を評価する(50%)。				
	レポート						
	小テスト	10					
	提出物	40					
その他							
履修上の 留意事項	<p>本授業は、一斉講義と技術演習の授業形態で行います。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学習の主題ごとに、テキストや専門基礎科目の学習も参考にして予習を行い、講義に臨みましょう。 2. 演習は2クラス編制で行うため、演習要項で自分の演習時間を必ず確認して臨みましょう。 3. 各技術演習の事前学習として、指定の資料やテキスト、視聴覚教材で予習し、当該技術の目的、要点・留意点、理由・根拠などを調べておくとともに、事前学習課題に取り組み演習時に持参してください。 4. 各技術演習後は、演習後記録を所定の用紙に記載し、指定された提出期限までに提出してください。 5. 本科目では全ての演習項目を体験し、課題を提出しなければなりません。演習を欠席したまま補充学習を行っていない場合は単位認定の対象外となります。 						
課題に対するフ ィードバックの 方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小テストは、実施後に解答・解説を行います。 2. 演習の事前学習課題・演習後記録は、基本的にコメントを付して返却、または必要に応じて授業内でコメントをします。 						
実務経験を 活かした教育内容	実務経験者の立場から、臨床現場の事例を織り交ぜながら看護技術について理解できるように授業を行っています。						
回数 (担当)	学習の主題	授業内容			事前・事後学習		
1 (大日向)	看護技術とは何か	看護実践における看護技術の意味を理解する			事後学習：配付資料、テキストを熟読し、 復習をする(1時間)		
2 (本吉)	感染予防の基礎Ⅰ(1)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 感染の基本概念 2. 感染予防の意義と原則 3. 看護活動に必要な感染予防の基本 			<p>事前学習：学習の主題・内容に関するテ キストの予習(1時間)</p> <p>事後学習：配付資料、テキストを熟読し、 復習をする(1時間)</p>		

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
3 (全担当 教員)	感染予防の基礎Ⅰ (2) (演習)	手指衛生と個人防護具の取扱いに関する看護技術を実施し、評価する	事前学習：テキスト、配付資料、視聴覚教材をもとに、事前課題に取り組む(1時間) 事後学習：行った演習を振り返り、演習後記録を整理する(1時間)
4 (首藤)	ボディメカニクス (1)	1. ボディメカニクスの意義 2. ボディメカニクスの要素および活用 【小テスト】ボディメカニクスに関する知識について	事前学習：学習の主題・内容に関するテキストの予習(1時間) 事後学習：配付資料、テキストを熟読し、復習をする(1時間)
5 (全担当 教員)	ボディメカニクス (2) (演習)	体位変換と床上移動の看護技術を実施し、評価する	事前学習：テキスト、配付資料、視聴覚教材をもとに、事前課題に取り組む(1時間) 事後学習：行った演習を振り返り、演習後記録を整理する(1時間)
6 (全担当 教員)	ボディメカニクス (3) (演習)	車椅子の移乗・移送、ストレッチャーの移乗・移送の看護技術を実施し、評価する	事前学習：テキスト、配付資料、視聴覚教材をもとに、事前課題に取り組む(1時間) 事後学習：行った演習を振り返り、演習後記録を整理する(1時間)
7 (本吉)	生活環境の調整 (1)	1. 環境調整における看護の役割 2. 生活環境・療養環境の概念 3. 生活環境を構成する物理的・化学的要素 【小テスト】生活環境に関する知識について	事前学習：学習の主題・内容に関するテキストの予習(1時間) 事後学習：配付資料、テキストを熟読し、復習をする(1時間)
8 (本吉)	生活環境の調整 (2)	1. 安全・安楽な生活空間の提供 2. 療養環境の調整に関する看護の実際	事前学習：学習の主題・内容に関するテキストの予習(1時間) 事後学習：配付資料、テキストを熟読し、復習をする(1時間)
9 (全担当 教員)	生活環境の調整 (3) (演習)	ベッドメイキングの看護技術を実施し、評価する	事前学習：テキスト、配付資料、視聴覚教材をもとに、事前課題に取り組む(1時間) 事後学習：行った演習を振り返り、演習後記録を整理する(1時間)
10 (全担当 教員)	生活環境の調整 (4) (演習)	リネン交換の看護技術を実施し、評価する	事前学習：テキスト、配付資料、視聴覚教材をもとに、事前課題に取り組む(1時間) 事後学習：行った演習を振り返り、演習後記録を整理する(1時間)
11 (本吉)	バイタルサインズの観察 (1)	1. バイタルサインズとは 2. バイタルサインズを観察する意義 3. バイタルサインズの変動要因 【小テスト】バイタルサインズに関する知識について	事前学習：学習の主題・内容に関するテキストの予習(1時間) 事後学習：配付資料、テキストを熟読し、復習をする(1時間)
12 (全担当 教員)	バイタルサインズの観察 (2) (演習)	バイタルサインズの観察の看護技術を実施し、評価する	事前学習：テキスト、配付資料、視聴覚教材をもとに、事前課題に取り組む(1時間) 事後学習：行った演習を振り返り、演習後記録を整理する(30分)
13 (全担当 教員)	バイタルサインズの観察 (3) (演習)	バイタルサインズの観察の看護技術を実施し、評価する	事前学習：テキスト、配付資料、視聴覚教材をもとに、事前課題に取り組む(1時間) 事後学習：行った演習を振り返り、演習後記録を整理する(30分)
14 (全担当 教員)	実技チェック (演習)	看護技術の達成度の確認と課題の明確化	事前学習：技術練習を行う(1時間) 事後学習：行った演習を振り返り、演習後記録を整理する(30分)
15 (全担当 教員)	事例をもとに看護 技術を実施する (演習)	臥床患者のリネン交換と体位の調整	事前学習：テキスト、配付資料をもとに、技術練習・事前課題に取り組む(2時間) 事後学習：行った演習を振り返り、演習後記録を整理する(1時間)

授業科目	援助関係論 Supportive Relationship for Nursing			担当教員	木津 由美子、吉田 祐子、吉田 ゆかり		
対象学科・年次・学期	看護学科・1年次・前期			選択・必修	必修		
授業形態	演習			単位数	1単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
			○	○	◎		
授業目的	看護職として質の硬いケアを提供するためには、対象者との援助関係・信頼関係が重要であることから、対象者を深く理解し、人間関係を構築するためのコミュニケーションを中心として基礎的な知識を理解する。						
到達目標	1. コミュニケーションについて説明できる。 2. 援助的人間関係がイメージできる。 3. コミュニケーション技術を習得できる。						
関連科目	1年次前期科目の「表現技法」「論理的思考」や看護の基本の科目に関連します。						
テキスト	石川ひろの編「系統看護学講座 基礎分野 人間関係論」第3版（医学書院） 片野智治著「構成的グループエンカウンター」（駿河台出版社）2003						
参考書	篠崎恵美子著「看護コミュニケーション：基礎から学ぶトレーニング」（医学書院）2015 山鹿圭輔・本田周二著「メディカルスタッフのための基礎からわかる人間関係論」（南江堂）2021						
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点				
	試験	60	目標の到達状況を下記の点から評価し、60点以上を合格とする。				
	レポート		①定期試験（60点） ・定期試験期間中に実施し、学修の到達度を評価する。				
	小テスト		②提出物（40点） ・講義時の課題と演習時のワークシートを提出物（40点）とし、学修の到達度を評価する。				
	提出物 その他	40					
履修上の留意事項	1. 積極的に演習に参加すること 2. 提示されたテキストのページを読んだ授業に参加すること 3. ワークシートや課題は、指定された期限を守って提出する。						
課題に対するフィードバックの方法	課題は、コメントを付して返却する。						
実務経験を活かした教育内容	看護師として病棟勤務の経験を踏まえて。患者－看護師関係やチームとしての人間関係の重要性を、事例を用いてイメージできるように授業を展開します。						
回数 (担当)	学習の主題	授業内容				事前・事後学習	
1 (木津)	人間関係における自己と他者	1. ガイダンス（科目の目的・目標・評価方法） 2. 人間関係とは 3. 自己とは・他者とは 4. コミュニケーションとは				事前：シラバスを読み、学習内容を確認しておく（1時間）。 事後：テキストの該当ページと配布資料を確認して本日の授業内容をノートにまとめる（1時間）。	
2 (木津)	人間関係をつくる理論と技法①	1. コミュニケーションとは 2. 様々なコミュニケーション技法 1)言語的・非言語的コミュニケーション 2)開かれた質問と閉ざされた質問 3)傾聴と共感				事前：テキストの該当ページを読む（1時間） 事後：テキストと配布資料を確認した本日の授業内容をノートにまとめる（2時間）。	
3 (吉田ゆ)	対人関係と役割①	1. 対人関係の成立 2. 自己理解・他者理解 3. 構成的グループエンカウンター（SGE）とは				事前：テキストの該当ページを読む（1時間） 事後：テキストと配布資料を確認し、感じたこと気づいたことをノートにまとめる（1時間）	
4・5 (吉田ゆ他全員)	演習：人間関係をつくるコミュニケーション	1. 人間関係の構築に必要なコミュニケーションについて体験学習をする。 2. 構成的グループエンカウンターについて体験学習をする。				事前：体験に向けて、話す内容をまとめる（1時間） 事後：SGE体験を通して、感じたこと気づいたことをワークシートにまとめる（1時間）	

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
6 (吉田ゆ)	対人関係と役割②	1. 対人関係とカウンセリングマインド 2. SGE の思想と理論的背景 3. 対人葛藤と対処 1) 怒りの対処 2) メディエーション	事前：テキストの該当ページを読む(1 時間) 事後：ワークを通して、感じたこと 気づいたことをワークシートにま とめる (1 時間)
7 (木津)	対人関係と役割③	1. 集団の特性 2. 集団での課題遂行・問題解決・意思決定 3. リーダーシップ	事前：テキストの該当ページを読 む (1 時間)。 事後：ワークシートを整理する(1 時間)。
8 (木津)	人間関係をつくるコミ ュニケーション技法②	1. アサーションの理論とスキル	事前：テキストの該当ページを読 む (1 時間)。 事後：ワークシートを整理する(1 時間)。
9 (木津)	人間関係をつくるコミ ュニケーション技法③	1. コーチングの理論とスキル	事前：テキストの該当ページを読 む (1 時間)。 事後：ワークシートを整理する(1 時間)。
10 (木津)	保健医療チームの人間 関係	1. 医療におけるチームと看護師の役割 2. チームワークとチームエラー 3. チームにおけるコミュニケーション	事前：テキストの該当ページを読 む (1 時間)。 事後：ワークシートを整理する(1 時間)。
11・12 (木津・ 吉田祐)	演習：看護学生として のコミュニケーション	1. 看護者として必要なコミュニケーション技法を体験学習す る	事前：演習資料を読む (1 時間)。 事後：ワークシートを整理する(1 時間)。
13 (木津)	患者を支える人間関係	1. リフレクション 2. プロセスレコード	事前：テキストの該当ページを読 む (1 時間)。 事後：ワークシートを整理する(1 時間)。
14 (木津)	様々な看護場面におけ る人間関係	1. クリティカルな状況の患者を支える人間関係 2. 慢性疾患をかかえて生きる患者を支える人間関係 3. 死に向かう患者を支える人間関係	事前：テキストの該当ページを読 む (1 時間)。 事後：ワークシートを整理する(1 時間)。
15 (木津)	組織におけるコミュニ ケーション・スキル	1. 組織におけるコミュニケーション：社会人基礎力 2. 効果的に説明するスキル 3. 議論を促進するスキル 4. セルフ・マネジメント・スキル	事前：配付資料を読む (1 時間)。 事後：ワークシートを整理する(1 時間)。

授業科目	看護技術論Ⅰ Fundamentals of Nursing SkillⅠ			担当教員	首藤 英里香、本吉 明美、園田 典子、 横山 桂子		
対象学科・年次・学期	看護学科・1年次・後期			選択・必修	必修		
授業形態	演習			単位数	2単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
			○	○	◎		
授業目的	本科目では、既習の知識を活用しながら対象者の生活上のニーズを考え、健康の回復、維持・増進を支援するための日常生活援助技術の基本を学ぶ。生活における食事、排泄、清潔、活動、睡眠の意義を理解し、それらのニーズを充足するための看護技術について根拠をもとに学ぶとともに、対象者の状況に応じた看護援助を考え、実施する。講義・演習において学生間で主体的かつ能動的に学び合うことを通して、看護実践に必要な知識・技術・態度を育むことをねらいとする。						
到達目標	1.人間にとっての活動と休息の意義を理解し、健康な生活を送るために必要な活動・休息に関する看護方法について説明できる。 2.人間にとっての清潔の意義を理解し、個人の清潔習慣などを把握した上で健康な生活を送るために必要な看護方法について説明できる。 3.人間にとっての栄養と食事の意義を理解し、個人の栄養状態や食習慣を把握した上で健康な食生活を維持、促進するための看護方法について説明できる。 4.人間にとっての排泄の意義を理解し、個人の排泄習慣を把握した上で健康な生活を送るために必要な看護方法について説明できる。 5.人間にとっての酸素化の意義を理解し、酸素化にかかわる基本的な看護方法について説明できる。 6.感染予防の意義を理解し、看護活動に必要な感染予防の基本について説明できる。 7.活動と休息、清潔・衣生活、栄養と食事、排泄、感染予防、酸素化に関する基本的な看護技術を実施できる。						
関連科目	看護学概論、看護技術総論、看護技術論Ⅱ・Ⅲ、援助関係論、看護倫理、看護基礎実習Ⅰ・Ⅱ						
テキスト	1. 深井喜代子他「基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ」(メヂカルフレンド社) 2. 深井喜代子他「基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ」(メヂカルフレンド社) 3. 香川明夫監修「八訂 食品成分表」(女子栄養大学出版部)						
参考書	1. F.Nightingale (湯槇ます他訳)「看護覚え書」(現代社) 2. V.Henderson (湯槇ます他訳)「看護の基本となるもの」(日本看護協会出版会) 3. 塚章「目でみるからだのメカニズム」(医学書院) 4. 三木明德監修「人体の構造からわかる看護技術のエッセンス」(医歯薬出版株式会社)						
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点				
	試験	50	小テストでは、各単元に必要な知識の理解度を評価する(15%)。レポートは、課題の論文を読んで学びの内容を記載し、提出状況を評価する(5%)。提出物は、演習の事前学習課題および演習後記録の提出状況と学習態度を含めて評価する(30%)。定期試験では、筆記試験の解答状況により各単元に関連する知識の理解度を評価する(50%)。				
	レポート	5					
	小テスト	15					
	提出物	30					
その他							
履修上の留意事項	本授業は、一斉講義と技術演習の授業形態で行います。 1. 学習の主題ごとに、テキストや専門基礎科目の学習も参考にして予習を行い、講義に臨みましょう。 2. 演習は2クラス編制で行うため、演習要項で自分の演習時間を必ず確認して臨みましょう。 3. 各技術演習の事前学習として、指定の資料やテキスト・視聴覚教材で予習し、当該技術の目的、要点・留意点、理由・根拠などを調べておくとともに、事前学習課題に取り組み演習時に持参してください。 4. 各技術演習後は、演習後記録に取り組み、指定された提出期限までに提出してください。 5. 本科目では全ての演習項目を体験し、課題を提出しなければなりません。演習を欠席したまま補充学習を行っていない場合は単位認定の対象外となります。						
課題に対するフィードバックの方法	・小テストは、実施後に解答を伝え解説します。 ・レポートおよび提出物は、原則、返却時にコメント等でフィードバックを行います。						
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、臨床現場の事例を織り交ぜながら看護技術について理解できるように授業を行います。						
回数(担当)	学習の主題	授業内容				事前・事後学習	
1 (首藤)	ガイダンス、活動・休息に関する看護(1)	1. 活動・休息の意義と看護の役割 1) 人間にとっての活動・運動とは 2) 人間にとっての休息・睡眠とは 3) 活動・休息における看護の役割				事前学習：事前にシラバスを読み、履修上の疑問点を明らかにする(30分) 事後学習：配付資料を熟読し、復習をする(1時間)	

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
2 (首藤)	活動・休息に関する 看護 (2)	1. 活動・運動と看護援助の基本 1) 健康にとっての活動・運動の意義 2) 活動のメカニズムと特徴 3) 活動に関するアセスメント 4) 活動を支援する看護援助 5) 不動状態が心身に及ぼす影響 6) 不動による悪影響を予防するための看護援助	事前学習:学習の主題・内容に関するテキストの予習(1時間) 事後学習:学習の主題・内容に関する復習(1時間)
3 (首藤)	活動・休息に関する 看護 (3)	1. 休息・睡眠と看護援助の基本 1) 健康にとっての休息・睡眠の意義 2) 睡眠のメカニズム 3) 睡眠の障害が心身に及ぼす影響 4) 休息・睡眠に関するアセスメント 5) 休息・睡眠を促進させるための看護援助 【小テスト】活動・運動/休息・睡眠のメカニズムについて	事前学習:学習の主題・内容に関するテキストの予習(1時間) 事後学習:学習の主題・内容に関する復習(1時間)
4 (全担当 教員)	活動・休息に関する 看護 (4) 【演習】体圧測定	1. 骨突出部位の体圧測定を実施し、その意味を考察する 2. 安全で安楽なポジショニングについて検討する	事前学習:テキスト、配付資料、視聴覚教材をもとに事前課題に取り組む(1時間) 事後学習:行った演習を振り返り、演習記録を整理する(1時間)
5 (本吉)	清潔に関する看護 (1)	1. 人間にとっての清潔の意義 1) 人間にとって清潔を保つことの意義と目的 2) 個人の清潔習慣の形成に影響を及ぼす要因 2. 清潔に関する看護の役割 1) 身体の清潔に関する看護者の役割	事前学習:学習の主題・内容に関するテキストの予習(1時間) 事後学習:学習の主題・内容に関する復習(1時間)
6 (本吉)	清潔に関する看護 (2)	1. 清潔の看護にかかわるアセスメント 1) 身体の清潔に関するアセスメントの視点 2) 清潔保持に問題がある場合の心身への影響 3) 身体の清潔保持に看護が必要となる状態とは 【小テスト】清潔の看護に必要な知識について	事前学習:学習の主題・内容に関するテキストの予習(1時間) 事後学習:学習の主題・内容に関する復習(1時間)
7 (本吉)	清潔に関する看護 (3)	1. 身体の清潔に関する看護援助 1) 皮膚と粘膜の清潔を保持する方法 2) 温熱や圧刺激など清潔保持の実施が身体に及ぼす影響 3) 安全・安楽に清潔の援助を実施する際の原則と考慮すべき因子	事前学習:学習の主題・内容に関するテキストの予習(1時間) 事後学習:学習の主題・内容に関する復習(1時間)
8 (全担当 教員)	清潔に関する看護 (4) 【演習】寝衣交換	臥床している対象者への寝衣交換を実施し、評価する	事前学習:テキスト、配付資料、視聴覚教材をもとに事前課題に取り組む(1時間) 事後学習:行った演習を振り返り、演習記録を整理する(1時間)
9・10 (全担当 教員)	清潔に関する看護 (5)・(6) 【演習】清拭	臥床している対象者への清拭を実施し、評価する	事前学習:テキスト、配付資料、視聴覚教材をもとに事前課題に取り組む(1時間) 事後学習:行った演習を振り返り、演習記録を整理する(1時間)
11 (全担当 教員)	清潔に関する看護 (7) 【演習】洗髪	臥床している対象者への洗髪を実施し、評価する	事前学習:テキスト、配付資料、視聴覚教材をもとに事前課題に取り組む(1時間) 事後学習:行った演習を振り返り、演習記録を整理する(1時間)
12 (全担当 教員)	清潔に関する看護 (8) 【演習】口腔ケア・ 足浴	臥床している対象者への口腔ケアと足浴を実施し、評価する	事前学習:テキスト、配付資料、視聴覚教材をもとに事前課題に取り組む(1時間) 事後学習:行った演習を振り返り、演習記録を整理する(1時間)
13 (首藤)	食事と栄養に関する 看護 (1)	1. 栄養と食事の意義と看護の役割 1) 人間の生活における栄養と食事の意義 2) 健康を維持するために必要な栄養と消化・吸収・代謝の過程 3) 栄養と食事における看護の役割	事前学習:学習の主題・内容に関するテキストの予習(1時間) 事後学習:学習の主題・内容に関する復習(1時間)

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
14 (首藤)	食事と栄養に関する 看護 (2)	1. 栄養のバランスが人間の生活に与える影響 1) 栄養状態に影響を及ぼす因子 2) 栄養の過不足が人の生活に与える影響	事前学習:学習の主題・内容に関するテキストの予習(1時間) 事後学習:学習の主題・内容に関する復習(1時間)
15 (首藤)	食事と栄養に関する 看護 (3)	1. 栄養と食事に関するアセスメント 1) 栄養素量および推定エネルギー必要量の算出 2) 食行動に影響を及ぼす因子 3) 食に影響を与える健康問題 4) 栄養状態の把握 【小テスト】食事と栄養に関する知識について	事前学習:学習の主題・内容に関するテキストの予習(1時間) 事後学習:学習の主題・内容に関する復習(1時間)
16 (全担当 教員)	食事と栄養に関する 看護 (4) 【演習】食事と栄養の アセスメント①	1. 食事・栄養に関する情報収集 2. 収集した情報をもとに食事・栄養の適切性について考える 3. 不足情報の収集 4. 食事・栄養の適切性について再検討 5. グループで共有し、改善策を考える	事前学習:食事・栄養のアセスメントに必要な知識の復習(1時間) 事後学習:グループワークの学びの復習(1時間)
17 (全担当 教員)	食事と栄養に関する 看護 (5) 【演習】食事と栄養の アセスメント②		事前学習:食事・栄養のアセスメントに必要な知識の復習(1時間) 事後学習:グループワークの学びの復習(1時間)
18 (首藤)	食事と栄養に関する 看護 (6)	1. 栄養と食事に関する基本的な看護援助 1) 栄養と代謝に関するニーズを充足するための基本的な看護援助 2) 看護援助の計画立案に際して考慮すべき因子	事前学習:学習の主題・内容に関するテキストの予習(1時間) 事後学習:学習の主題・内容に関する復習(1時間)
19 (全担当 教員)	食事と栄養に関する 看護 (7) 【演習】食事の援助	自力で食事摂取が困難な対象者への食事援助を実施し、評価する	事前学習:テキスト、配付資料、視聴覚教材をもとに事前課題に取り組む(1時間) 事後学習:行った演習を振り返り、演習記録を整理する(1時間)
20 (本吉)	排泄に関する看護 (1)	1. 人間にとっての排泄の意義 1) 日常的に行われている排泄の人間にとっての意義 2) よりよい生活を営むための健康にとって望ましい排泄とは 2. 排便・排尿のメカニズムと影響因子 1) 排便・排尿のメカニズム 2) 排便および排尿に影響を及ぼす因子 3) 排便および排尿に変調をきたした状態	事前学習:学習の主題・内容に関するテキストの予習(1時間) 事後学習:学習の主題・内容に関する復習(1時間)
21 (本吉)	排泄に関する看護 (2)	1. 排便・排尿の看護にかかわるアセスメント 1) 排便・排尿に関するアセスメントの視点 2) 水分出納の観察の必要性と算出方法 2. 排泄の援助における看護者の役割 1) 排泄に関する看護者の役割 2) 排泄に関する援助の際の原則と考慮すべき因子 【小テスト】排泄の看護に必要な知識について	事前学習:学習の主題・内容に関するテキストの予習(1時間) 事後学習:学習の主題・内容に関する復習(1時間)
22 (本吉)	排泄に関する看護 (3)	1. 排便・排尿に関する看護援助 1) 排泄機能が障害されている人への基本的な看護援助 2) 排泄行動に制限のある人への基本的な看護援助	事前学習:学習の主題・内容に関するテキストの予習(1時間) 事後学習:学習の主題・内容に関する復習(1時間)
23 (全担当 教員)	排泄に関する看護 (4) 【演習】便器・尿器を 用いた排泄援助、陰部 洗浄	尿器・便器を使用した排泄援助および陰部洗浄を実施し、評価する	事前学習:テキスト、配付資料、視聴覚教材をもとに事前課題に取り組む(1時間) 事後学習:行った演習を振り返り、演習記録を整理する(1時間)
24 (全担当 教員)	排泄に関する看護 (5) 【演習】浣腸	便秘のある対象者を想定してグリセリン浣腸を実施し、評価する	事前学習:テキスト、配付資料、視聴覚教材をもとに事前課題に取り組む(1時間) 事後学習:行った演習を振り返り、演習記録を整理する(1時間)

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
25 (本吉)	感染予防の基礎Ⅱ (1)	1. 感染が人間に及ぼす影響および感染の成立要因 2. 感染のリスクにかかわるアセスメント 3. 感染に対する生体の防御能力の促進への援助と感染のリスクが高い対象者への看護援助 4. 感染予防における看護の役割 5. 看護活動に必要な感染予防の基本：感染源の除去、感染経路の遮断の考え方 【小テスト】 基本的な感染予防に必要な知識について	事前学習：学習の主題・内容に関するテキストの予習(1時間) 事後学習：学習の主題・内容に関する復習(1時間)
26 (全担当 教員)	感染予防の基礎Ⅱ (2) 【演習】 無菌操作・滅菌グローブの着脱他	無菌操作・滅菌グローブの着脱・PPEの着脱を実施し、評価する	事前学習：テキスト、配付資料、視聴覚教材をもとに事前課題に取り組む(1時間) 事後学習：行った演習を振り返り、演習記録を整理する(1時間)
27・28 (全担当 教員)	排泄に関する看護 (6) 【演習】 一時的導尿	一時的導尿を実施し、評価する	事前学習：テキスト、配付資料、視聴覚教材をもとに事前課題に取り組む(1時間) 事後学習：行った演習を振り返り、演習記録を整理する(1時間)
29 (園田)	酸素化の看護Ⅰ (1)	1. 人間にとっての酸素化の意義と看護の役割 1) 日常的に無意識に行われている酸素化とは 2) 酸素化に関する看護の役割とは何か 2. 酸素化を営む身体の仕組み (呼吸・循環・血液の機能) 3. 酸素化に影響する因子 4. 酸素化にかかわる基本的な看護援助：組織の酸素消費量を軽減する方法 (冷電法)、組織の血液循環を促進する方法 (温電法) 【小テスト】 酸素化の看護に必要な知識について	事前学習：学習の主題・内容に関するテキストを予習(1時間) 事後学習：学習の主題・内容に関する復習(1時間)
30 (全担当 教員)	酸素化の看護Ⅰ (2) 【演習】 温電法・冷電法	温電法、冷電法の作成を実施し、評価する	事前学習：テキスト、配付資料、視聴覚教材をもとに事前課題に取り組む(1時間) 事後学習：行った演習を振り返り、演習記録を整理する(1時間)

授業科目	看護基礎実習Ⅰ Clinical Practicum of Fundamental NursingⅠ			担当教員	首藤 英里香、本吉 明美、園田 典子、 横山 桂子		
対象学科・ 年次・学期	看護学科・1年次・前期			選択・必修	必修		
授業形態	実習			単位数	1単位		
学科ディプロ マ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	○	○	○	○	◎	○	
ねらい	本科目では、病院の環境および入院している対象者の療養生活について、看護師の看護実践の見学、対象者とのコミュニケーションや療養環境の整備等を通して理解する。また、学生間で実習における気づきの共有を通して、看護の役割機能に関する理解を深める。これらの学びを通して、看護者に必要な基本的態度を理解するとともに、看護への関心を高め、看護に対する自己の考えを深めることをねらいとする。						
実習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象者の療養環境・療養生活を把握し、対象者との会話を通して生活行動のあり方や健康に関する心情を知ることができる。 2. 看護実践の見学・体験を通して看護の役割を説明できる。 3. 実習体験をもとに看護の専門性について考え、今後の自己課題を明確にできる。 4. 看護者に必要な基本的態度を身につけることができる。 						
関連科目	看護学概論、看護技術総論、看護技術論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、援助関係論、看護倫理、看護基礎実習Ⅱ						
実習内容	実習内容の詳細は、実習要項を用いて実習オリエンテーション時に説明する。						
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点				
	実習要項に 記載	100	実習目標の項目に沿って作成した評価表を使用し、ルーブリックの評価基準に基づき評価し、60点以上を合格とする。				
履修上の 留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・実習オリエンテーションは必ず出席してください。 ・実習オリエンテーション時に配付する「臨地実習共通要項」および「看護基礎実習Ⅰ実習要項」は実習開始までによく読み、理解した上で実習に臨んでください。 						
課題に対するフィ ードバックの方法	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の実習記録は、担当教員が口頭もしくはコメントの記載によりフィードバックを行います。 ・実習終了後の実習ファイル返却時に、実習評価について個別に口頭で説明します。 						
実務経験を 活かした教育内容	実務経験者の立場から、臨地実習での学びをサポートします。						
実習方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. グループごとに配置された病院および病棟で実習を行う。 2. 実習期間：以下のいずれかの期間となる予定である。 ① 2023年7月24日(月)～7月28日(金) ② 2023年7月31日(月)～8月4日(金) 3. 実習1日目は、病院・病棟オリエンテーションを受け、看護実践の見学・実施を行う。 4. 実習2日目からは病棟の実習指導者と行動を共にしながら、看護実践の見学・実施を通して看護の役割について理解を深める。 5. 学生が学習済で実施可能な看護技術は、環境整備、ベッドメイキング、体位変換、移乗・移送の援助、バイタルサインズの観察である。 6. 毎日、実習指導者と行動調整をしてから実習を開始し、終了前に振り返りを行い、学びを整理する。 7. 最終日に学内でグループワークと全体報告会を行い、学びを共有する。 						
実習施設	北海道内科リウマチ科病院、KKR札幌医療センター、札幌医科大学附属病院、札幌山の上病院、手稲浜仁会病院、斗南病院						

授業科目	地域看護学概論 Introduction to Community Health Nursing		担当教員	安藤 陽子			
対象学科・年次・学期	看護学科・1年次・後期		選択・必修	必修			
授業形態	講義		単位数	1単位			
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	○	○	○	○	◎	○	
授業目的	地域の特性を、自然や歴史、文化、経済、政治・行政、産業構造、教育や交通、コミュニケーション等から知る方法を学び、地域のさまざまな環境が、人々の生活そして健康にどのように影響を与えるかを理解する。地域で暮らす人々の健康と質の高い生活を維持していくために支援する地域看護について学ぶ。地域のさまざまな場で機能する看護職が連携を取りながら、地域の人々の健康と質の高い生活の維持・向上のために、住民そして多職種と協働で地域包括ケアシステムの構築、そして推進していくことの必要性について理解できる。						
到達目標	1.地域の特性を、自然や歴史、文化、経済、政治・行政、産業構造、教育や交通、コミュニケーション等から知る方法を理解する。 2.地域のさまざまな環境が、人々の生活や健康に与える影響について理解する。 3.地域において人々の健康と質の高い生活を維持していくために支援する地域看護の特徴について理解する。 4.地域の多様な場で機能する看護職の特徴を理解し、相互に連携して地域住民の健康や生活を支援していることを理解する。 5.地域において人々が、人生の最後まで自分の望む生き方を目指して、看護職として地域の住民や専門機関・職種と連携・協働して地域包括ケアシステムを形成していく必要性を理解する。						
関連科目	2年後期 地域看護実習の基盤となる科目である。						
テキスト	講義の時に随時資料を配付する。						
参考書	1.岸恵美子・大木幸子「看護判断のための気づきとアセスメント 地域・在宅看護」(中央法規) 2.厚生労働統計協会「国民衛生の動向・厚生指標 増刊 2022/2023」(厚生労働統計局)						
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点				
	試験		テーマ「地域と人々の健康と生活との関係について」のレポートによって目標の達成状況を判断します。				
	レポート	100					
	小テスト						
	提出物						
その他							
履修上の留意事項	私たちが日々健康に生きていくことができるのはなぜか、地域のさまざまな環境などと関連させて考えてみましょう。各授業前・後に、予習・復習を1~2時間必要とする。						
課題に対するフィードバックの方法	レポートについては、全体にコメントを伝える。						
実務経験を活かした教育内容	看護職として地域看護活動を実施してきた実務経験者の立場から、実際の活動事例も紹介しながら本科目の目標である地域の人々の生活と健康の関連、それを支える看護職と看護活動に関する基本的な考え方を伝えます。						
回数(担当)	学習の主題	授業内容			事前・事後学習		
1	地域とは	「北海道」という地域の特性を考えてみてください。 自然、歴史(アイヌ文化との出会いを含む)、文化、経済、政治と行政、教育、交通・安全、コミュニケーション・情報、レクリエーション、保健医療と社会福祉などの地域を分析する項目から北海道を考える。			事前学習)高校までに学んできた歴史や、政治、経済、行政などの知識を活用して、北海道について改めて考えてみてください(1時間)。 事後学習)看護職が何故「地域とは何か」を考える必要があるのかを、考えてみてください(1時間)。		
2	自分が育ってきた地域の特性	・個別学習:北海道を分析した項目を参考に、自分の育ってきた地域を調べ、どのような地域の特性があるのかをまとめる。			事前学習)地域を分析する視点を踏まえて、自分の育った地域を思い出してみてください(1時間)。 事後学習)まとめた結果を、グループメンバーに報告する準備をしてください(1時間)。		
3	健康なまちとは	・グループ学習 テーマ:地域と生活と健康は、どのような関係があるのか。 ・自分が成長してきた地域をグループメンバーに報告する。 ・地域の特性と毎日の生活とは関連があるのか。 ・その地域で健康な生活を続けていくことができるだろうか。 1.地域の環境と生活そして健康との関連 2.健康なまちとは			事前学習)自分の育ってきた地域でこれからも生活していく場合、健康を維持できるだろうかをイメージしてみてください(1時間)。 事後学習)グループ学習などを基に、自分の育ってきた地域は健康なまちなのかを、考えてみてください(1時間)。		

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
4	地域を基盤とした看護とは	1.地域看護の定義 2.地域看護の対象 3.地域看護の目的	事前学習)地域で生活する人々と看護の関係についてイメージしてみてください(1時間)。 事後学習)地域で生活する人々と環境を看護するとはどのようなことかを、自分の育った地域を例に考えてみてください(1時間)。
5	地域の多様な場で機能する看護職	1.地域における看護職 職場の定義、支援の基盤となる考え方(理念)、目的、対象、専門性(機能と役割)、支援方法、働く場など	事前学習)地域で働く看護職について調べてください(1時間)。 事後学習)地域で働く看護職の専門性の違いや共通性について考え、各々の特徴を生かすことの必要性と意味について考えをまとめてみてください(1時間)。
6	地域の看護職が支援する時に、共通して大切にしていること	1.地域看護活動とは ・DVD 「地域看護活動とヘルスプロモーション」の視聴 ・グループ学習 テーマ:地域で生活する人々が主体的に健康な生活を築くために目指す予防的な支援とは何か、	事前学習)地域の人々が健康になるためには、どのようなことが必要なのかを考えてみてください(1時間)。 事後学習)何故、地域全体で健康になるために予防をしていくことが大切なのかの理由について考え、自分の育った地域について考えてみてください(1時間)。
7	地域の人々の健康そして生活の質を向上することを目指す地域包括ケアシステム	1.自助・互助・共助・公助とは 2.わが国の社会保障制度の特性 3.地域包括ケアシステムとは (1) 高齢者や疾病や抱える人々を対象とした地域包括ケアシステム (2) 子育てをしている家族・親子を対象とした地域包括ケアシステム (3) 精神障がい者を対象とした地域包括ケアシステム 4.地域包括ケアシステムを構築するための地域の看護職間の連携	事前学習)これからのわが国が進んでいく方向性について、高校までの学習を生かして考えてみてください(1時間)。 事後学習)これからのわが国の社会保障制度の課題から、地域の人々が支え合って健康に生きていくためには、地域において包括的なケアシステムが必要な理由について考えてみてください。その上で、看護職間の連携の意味について考えをまとめる(1時間)。
8	地域包括ケアを推進していくための看護職と住民そして多職種との連携・協働	1.川崎市の取り組みから学ぶ「地域包括ケアシステム」 「川崎市 地域包括ケアシステム構築の軌跡」を視聴 ・グループ学習 テーマ①:・住民と専門職とのパートナーシップとエンパワメント ・地域包括ケアシステムと看護の役割 テーマ②:・この授業で、学んだこと	事前学習)先駆的に地域包括ケアシステムを構築している自治体とは、どのような条件がそろっていたのかを、イメージしてください(1時間)。 事後学習)地域で生活する人々と専門職とのパートナーシップが、これからも住民が健康に生きていくためには不可欠な意味について自分の考えをまとめる(1時間)。

授業科目	成人看護学概論 Introduction to Adult Nursing			担当教員	藤井 瑞恵		
対象学科・年次・学期	看護学科・1年次・後期			選択・必修	必修		
授業形態	講義			単位数	1単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	○	○	○	○	◎	○	
授業目的	ライフサイクルにおける成人期の位置づけ、成人期にある人の特徴を学ぶ。また、成人を取り巻く健康課題と成人看護の役割、成人期にある人を看護するための有用な概念や理論について学ぶ。なお、本科目は成人看護活動論と成人看護実習の基礎となる科目である。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. ライフサイクルにおける成人期の位置づけ、成人期の発達段階と成人各期の特徴を説明できる。 2. 成人期に特徴的な健康問題について説明できる。 3. 成人期にある人の健康課題を理解・解決するために有用な理論について説明できる。 4. 成人期の看護実践に必要な多職種連携とチーム医療について説明できる。 						
関連科目	成人看護活動論Ⅰ、成人看護活動論Ⅱ、成人看護実習Ⅰ、外来看護実習、成人看護実習Ⅱが主な関連科目である。						
テキスト	林直子他編集「看護学テキスト NiCE 成人看護学概論 改訂第3版」(南江堂)						
参考書	国民衛生の動向 (厚生労働統計協会)						
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点				
	試験	80	目標達成状況を課題レポート (10点)、提出物 (10点)、と定期試験 (80点) で評価します。課題レポートのテーマと提出物については、講義時に知らせます。レポートの評価基準は、ルーブリックで提示します。				
	レポート	10					
	小テスト						
	提出物	10					
その他							
履修上の留意事項	本科目は専門基礎科目や他の専門科目とも関連づけて学んで下さい。受講に際しては事前事後の学習を行い、主体的に学んで下さい。なお、各授業の予習・復習の詳細は別途お知らせしますが、概ね予習・復習それぞれに 1～3 時間の時間を要します。						
課題に対するフィードバックの方法	事後学習課題は、提出後の授業で全体にコメントをフィードバックします。レポートにはコメントを付して返却します。						
実務経験を活かした教育内容	臨床での経験や事例を織り交ぜながら、概念や理論が理解しやすいように授業を行います。						
回数 (担当)	学習の主題	授業内容				事前・事後学習	
1	ガイダンス、ライフサイクルにおける成人の位置づけ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 成人とは、成人各期の発達段階と発達課題 2. 成人各期の発達上の危機と支援 				事後学習：テーマにそって課題をまとめる	
2	成人期にある人の健康課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 成人期にある人の健康状態の指標 2. 成人期にある人の特徴的な健康課題 				事後学習：テーマにそって課題をまとめる	
3	成人期にある人の生活と健康障害	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生活習慣に関連した健康障害 2. 職業・ストレスに関連した健康障害 				事後学習：テーマにそって課題をまとめる	
4	成人看護に有用な概念・理論 (1)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 急性期における健康障害・治療・看護の特徴 2. 急性期看護に有用な理論・概念 				事後学習：テーマにそって課題をまとめる	
5	成人看護に有用な概念・理論 (2)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 回復期における健康障害・治療・看護の特徴 2. 回復期看護に有用な理論・概念 				事後学習：テーマにそって課題をまとめる	
6	成人看護に有用な概念・理論 (3)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 慢性期における健康障害・治療・看護の特徴 2. 慢性期看護に有用な理論・概念 				事後学習：テーマにそって課題をまとめる	
7	成人看護に有用な概念・理論 (4)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 終末期における健康障害・治療・看護の特徴 2. 終末期看護に有用な理論・概念 				事後学習：課題レポートを講義に提示します。	
8	保健医療福祉チームとの連携・協働と看護の役割	<ol style="list-style-type: none"> 1. 継続看護とは、継続看護の場と役割 2. チーム医療における看護師の役割 				事後学習：テーマにそって課題をまとめる	

授業科目	高齢者看護学概論Ⅰ Introduction to Gerontological Nursing		担当教員	服部 ユカリ、中田 真依			
対象学科・年次・学期	看護学科・1年次・後期		選択・必修	必修			
授業形態	講義		単位数	1単位			
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	○	○	○	○	◎		
授業目的	わが国の少子高齢化に伴う人口構造、社会的特性をふまえ、ライフサイクルの中の老年期の特徴を理解し、高齢者看護の目的、機能と役割について学ぶ。看護の対象である高齢者とその家族に関心を寄せ、両者を総合的にとらえるため、加齢に伴う身体的・心理的・社会的特徴および老年期の発達課題を理解する。高齢者に特徴的な健康課題である老年症候群、ロコモティブシンドローム、サルコペニア、フレイルの基礎的知識を学ぶ。また、高齢者の特徴を考慮したコミュニケーションの基礎を学ぶ。						
到達目標	1.加齢現象、老年症候群、ロコモティブシンドローム、サルコペニア、フレイルについて説明できる。 2.加齢による身体的、心理・社会的な特徴、および老年期の発達課題について説明できる。 3.高齢者を取り巻く社会の動向や高齢者の地域での生活を支援する地域包括ケアシステムについて説明できる。 4.高齢者の生活やそれを支える職種について説明できる。 5.高齢者とのコミュニケーション方法について説明できる。 6.ライフストーリーの意義について説明できる。						
関連科目	高齢者看護学概論Ⅱ、高齢者看護活動論Ⅰ、高齢者看護活動論Ⅱ、高齢者看護実習						
テキスト	北川公子編「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学」(医学書院)						
参考書	授業の際、使用した文献は適時提示・紹介する。						
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点				
	試験	80	目標の到達状況を定期試験 80%、レポート 20%、合計 100%で評価する。				
	レポート	20					
	小テスト						
	提出物						
その他							
履修上の留意事項	予習・復習を行い、高齢者看護学概論Ⅱ、高齢者看護活動論Ⅰ、高齢者看護活動論Ⅱ、高齢者看護実習につながるようノートを作成するなど工夫しながら学修を進めてください。						
課題に対するフィードバックの方法	レポートについては、コメントを付して返却します。						
実務経験を活かした教育内容	看護の経験や事例などを織り交ぜ、高齢者看護について理解しやすいよう授業します。						
回数 (担当)	学習の主題	授業内容			事前・事後学習		
1 (中田)	ガイダンス “老い”、高齢者看護とは	本科目の目的・目標、学習内容と方法、履修上の留意事項と評価方法・基準、テキスト等の説明 ・老いのイメージの変遷とスティグマ・エイジズム ・高齢者看護の理念			事前学習：事前にテキストを読んでおく (1 時間) 事後学習：講義内容を復習する (2 時間)		
2 (服部)	加齢現象とは	・加齢現象と生活			事前学習：事前にテキストを読んでおく (2 時間) 事後学習：講義内容を復習する (2 時間)		
3 (服部)	高齢者を取り巻く社会①	・超高齢社会の統計的輪郭 ・高齢化率の変遷、平均寿命と健康寿命、 ・フレイル、ロコモティブシンドローム			事前学習：事前にテキストを読んでおく (2 時間) 事後学習：講義内容を復習する (2 時間)		
4 (服部)	高齢者を取り巻く社会②	・高齢者と家族 (世帯構造) ・高齢者の健康 (有訴者率、受療状況、要介護高齢者) ・高齢者の死亡 (死亡率と死因)			事前学習：事前にテキストを読んでおく (2 時間) 事後学習：講義内容を復習する (2 時間)		
5 (服部)	高齢者を取り巻く社会③	・高齢者の暮らし (家計、住まい、社会活動) ・高齢者の生活を支える職種とは			事前学習：事前にテキストを読んでおく (2 時間) 事後学習：講義内容を復習する (2 時間)		

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
6 (服部)	加齢変化と健康①	・加齢による身体的変化	事前学習：事前にテキストを読んでおく (2 時間) 事後学習：講義内容を復習する (2 時間)
7 (中田)	加齢変化と健康②	・加齢による心理・精神的変化、社会的変化 ・ライフステージと老年期の発達課題	事前学習：事前にテキストを読んでおく (2 時間) 事後学習：講義内容を復習する (2 時間)
8 (中田)	高齢者とのコミュニケーション	・高齢者と良いコミュニケーションを図るには ・ライフストーリー	事前学習：事前にテキストを読んでおく (2 時間) 事後学習：講義内容を復習する (2 時間) 【課題】ライフストーリーに関するレポート作成

授業科目	地域連携ケア論Ⅰ Theory of Community-based CareⅠ			担当教員	槌本 浩司、澤田 優美、氏家 志乃、小川 克子		
対象学科・年次・学期	看護学科/栄養学科・1年次・後期			選択・必修	必修		
授業形態	講義			単位数	1単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	○	○	○	○	○	◎	
授業目的	「地域連携ケア論Ⅰ～Ⅳ」では、1～4年次を通じて、地域の生活と健康との関連、地域の健康課題と社会資源、保健医療福祉チームに係る他職種の理解と連携方法、事例からの学びを通して管理栄養士の専門性や役割理解を深めることを目的とする。そのうち、1年次の本科目では、地域で生活するさまざまな健康レベル、発達段階にある人々に話を聞く、または関わることから、地域で生活する人々が持つ個性や多様性を理解する。同時に、その人々の生活にどのようなことが影響を及ぼしているかを社会的要因も含めて考える。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 生活や地域の捉え方を学び、地域で生活する人々の個性や多様性を理解する。 地域で生活する人々の健康や生活には、地域の自然環境や文化・社会的な要素が影響していることを理解する。 地域で生活する人々が抱える生活や健康上の課題を地域の特性と関連づけて理解できる。 						
関連科目	これまで既習の全ての教科目と関連する。						
テキスト	なし						
参考書	開講時に提示する。						
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点				
	試験		各回、授業内容に応じた提出物(40%)を予定しています。また、目標の達成状況をレポート(60%)に記載しましょう。詳細は授業の中でも説明します。				
	レポート	60					
	小テスト						
	提出物	40					
その他							
履修上の留意事項	自分の生活と結びつけながら理解すること。						
課題に対するフィードバックの方法	各講義での提出物については次の講義内で全体にフィードバックを行う。また、最終レポートに関しては、フィードバック内容を記載し返却する。						
実務経験を活かした教育内容	地域で実務経験のある教員が、経験を基に分かりやすく講義の展開を行う。						
回数(担当)	学習の主題	授業内容				事前・事後学習	
1 (槌本)	授業ガイダンス	授業ガイダンス。グループワークの進め方「生活」とは				授業前にシラバスを読む(1時間)。授業後には、配付資料を確認し、内容を復習する(2時間)。	
2 (槌本)	生活者とはⅠ	生活を構造的に考えてみよう(自分を知る、家族を知る)				授業前に前回の学習内容を復習する(1時間)。授業後には、内容を復習する(2時間)。	
3 (小川)	生活者とはⅡ	生活成立要件と健康について考えよう				授業前に前回の学習内容を復習する(1時間)。授業後には、内容を復習する(2時間)。	
4 (氏家)	地域で暮らす生活者らの講話Ⅰ	「町内で暮らす生活とは」 (ゲストスピーカー モエレ町内会 副会長)				授業前に前回の学習内容を復習する(1時間)。授業後には、内容を復習する(2時間)。	
5 (氏家)	地域で暮らす生活者らの講話Ⅱ	「丘珠まちづくりセンターの役割と地域で暮らす人の生活」 (ゲストスピーカー 丘珠まちづくりセンター 所長)				授業前に前回の学習内容を復習する(1時間)。授業後には、内容を復習する(2時間)。	
6 (澤田)	健康な生活に影響を及ぼす社会的要因とはⅠ	地域で暮らし続けるために必要な要件について気づきの共有(その1)				授業前に前回の学習内容を復習する(1時間)。授業後には、内容を復習する(2時間)。	

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
7 (小川)	健康な生活に影響を及ぼす社会的要因とは II	地域で暮らし続けるために必要な要件について気づきの共有 (その2)	授業前に前回の学習内容を復習する (1 時間)。授業後には、内容を復習する (2 時間)。
8 (澤田)	健康な生活に影響を及ぼす社会的要因とは III	地域で暮らし続けるために必要な要件について気づきの共有 (その3)	授業前に前回の学習内容を復習する (1 時間)。授業後には、内容を復習する (2 時間)。